2022年度
大学院経済学研究科
講義概要（シラバス）

法政大学

科目一覧［発行日：2022/5/2］最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス（https://syllabus.hosei.ac.jp/）で確認してください。

【X3001】経済学基礎Ａ［宇都宮　仁］春学期授業/Spring 1
【X3002】経済学基礎Ｂ［仲北浦　淳基］春学期授業/Spring 2
【X3003】実証経済学基礎Ａ［池上　宗信］春学期授業/Spring 3
【X3004】実証経済学基礎Ｂ［高橋　秀朋］秋学期授業/Fall 4
【X3005】経済史Ａ［杉浦　未樹］春学期授業/Spring 5
【X3006】経済史Ｂ［杉浦　未樹］秋学期授業/Fall 7
【X3007】計量経済学Ａ［明城　聡］春学期授業/Spring 8
【X3008】計量経済学Ｂ［高橋　秀朋］秋学期授業/Fall 9
【X3009】社会経済学Ａ［大友　敏明］春学期授業/Spring 10
【X3010】社会経済学Ｂ［大友　敏明］秋学期授業/Fall 11
【X3011】マクロ経済学Ａ［田村　晶子］春学期授業/Spring 12
【X3012】マクロ経済学Ｂ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 13
【X3013】ミクロ経済学Ａ［平井　俊行］春学期授業/Spring 14
【X3014】ミクロ経済学Ｂ［小林　克也］秋学期授業/Fall 15
【X3015】応用マクロ経済学Ａ［蓮見　亮］春学期授業/Spring 16
【X3016】応用マクロ経済学Ｂ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 17
【X3017】応用ミクロ経済学Ａ［平井　俊行］春学期授業/Spring 19
【X3018】応用ミクロ経済学Ｂ［小林　克也］秋学期授業/Fall 19
【X3019】開発経済論Ｂ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 20
【X3020】金融ファイナンス論Ａ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 22
【X3021】金融システム論Ａ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 23
【X3022】地域経済論ＩＡ［馬場　敏幸］春学期授業/Spring 24
【X3023】地域経済論ＩＢ［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall 25
【X3024】統計学Ａ［阿部　俊弘］春学期授業/Spring 26
【X3025】統計学Ｂ［阿部　俊弘］秋学期授業/Fall 27
【X3026】企業経済学Ｂ［砂田　充］春学期授業/Spring 28
【X3027】国際金融論Ａ［ブー　トウン　カイ］春学期授業/Spring 29
【X3028】国際金融論Ｂ［ブー　トウン　カイ］秋学期授業/Fall 30
【X3029】環境政策論Ａ［西澤　栄一郎］春学期前半/Spring(1st half) 31
【X3030】環境政策論Ｂ［西澤　栄一郎］春学期後半/Spring(2nd half) 32
【X3031】経済政策Ａ［濱秋　純哉］春学期授業/Spring 33
【X3032】経済地理学Ｂ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 34
【X3033】公共経済学Ｂ［篠原　隆介］春学期授業/Spring 35
【X3034】社会保障論Ａ［小黒　一正］春学期授業/Spring 36
【X3035】社会保障論Ｂ［小黒　一正］秋学期授業/Fall 37
【X3036】労働経済学Ａ［酒井　正］春学期授業/Spring 38
【X3037】労働経済学Ｂ［酒井　正］秋学期授業/Fall 39
【X3038】応用計量経済学Ｂ［明城　聡］秋学期授業/Fall 40
【X3039】ミクロ計量分析Ｂ［明城　聡］秋学期授業/Fall 41
【X3040】日本語ＩＡ［清水　由美］春学期授業/Spring 42
【X3041】日本語ＩＢ［清水　由美］秋学期授業/Fall 43
【X3042】日本語ⅡＡ［清水　由美］春学期授業/Spring 45
【X3043】日本語ⅡＢ［清水　由美］秋学期授業/Fall 46
【X3044】日本語ⅢＡ［大場　理恵子］春学期授業/Spring 48
【X3045】日本語ⅢＢ［大場　理恵子］秋学期授業/Fall 49
【X3101】経済学演習ＩＡ［馬　欣欣］春学期授業/Spring 50
【X3102】経済学演習ＩＢ［馬　欣欣］秋学期授業/Fall 51
【X3103】経済学演習ＩＡ［胥　鵬］春学期授業/Spring 52
【X3104】経済学演習ＩＢ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 53
【X3105】経済学演習ＩＡ［近藤　章夫］春学期授業/Spring 54
【X3106】経済学演習ＩＢ［近藤　章夫］秋学期授業/Fall 55
【X3107】経済学演習ＩＡ［鈴木　豊］春学期授業/Spring 56
【X3108】経済学演習ＩＢ［鈴木　豊］秋学期授業/Fall 57

【X3109】経済学演習ＩＡ［松波　淳也］春学期授業/Spring 58
【X3110】経済学演習ＩＢ［松波　淳也］秋学期授業/Fall 59
【X3111】経済学演習ＩＡ［酒井　正］春学期授業/Spring 60
【X3112】経済学演習ＩＢ［酒井　正］秋学期授業/Fall 61
【X3113】経済学演習ＩＡ［田村　晶子］春学期授業/Spring 62
【X3114】経済学演習ＩＢ［田村　晶子］秋学期授業/Fall 63
【X3115】経済学演習ＩＡ［八木橋　毅司］春学期授業/Spring 64
【X3116】経済学演習ＩＢ［八木橋　毅司］秋学期授業/Fall 65
【X3117】経済学演習ＩＡ［菅　幹雄］春学期授業/Spring 66
【X3118】経済学演習ＩＢ［菅　幹雄］秋学期授業/Fall 67
【X3119】経済学演習ＩＡ［高橋　秀朋］春学期授業/Spring 68
【X3120】経済学演習ＩＢ［高橋　秀朋］秋学期授業/Fall 69
【X3131】経済学演習ⅡＡ［池上　宗信］春学期授業/Spring 70
【X3132】経済学演習ⅡＢ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 71
【X3133】経済学演習ⅡＡ［酒井　正］春学期授業/Spring 72
【X3134】経済学演習ⅡＢ［酒井　正］秋学期授業/Fall 73
【X3135】経済学演習ⅡＡ［菅　幹雄］春学期授業/Spring 74
【X3136】経済学演習ⅡＢ［菅　幹雄］秋学期授業/Fall 75
【X3137】経済学演習ⅡＡ［菅原　琢磨］春学期授業/Spring 76
【X3138】経済学演習ⅡＢ［菅原　琢磨］秋学期授業/Fall 77
【X3139】経済学演習ⅡＡ［武田　浩一］春学期授業/Spring 78
【X3140】経済学演習ⅡＢ［武田　浩一］秋学期授業/Fall 79
【X3141】経済学演習ⅡＡ［武智　一貴］春学期授業/Spring 80
【X3142】経済学演習ⅡＢ［武智　一貴］秋学期授業/Fall 81
【X3143】経済学演習ⅡＡ［馬　欣欣］春学期授業/Spring 82
【X3144】経済学演習ⅡＢ［馬　欣欣］秋学期授業/Fall 83
【X3145】経済学演習ⅡＡ［松波　淳也］春学期授業/Spring 84
【X3146】経済学演習ⅡＢ［松波　淳也］秋学期授業/Fall 85
【X3147】経済学演習ⅡＡ［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring 86
【X3148】経済学演習ⅡＢ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 87
【X3149】経済学演習ⅡＡ［明城　聡］春学期授業/Spring 88
【X3150】経済学演習ⅡＢ［明城　聡］秋学期授業/Fall 89
【X3161】論文指導ⅡＡ［松波　淳也］春学期前半/Spring(1st half) 90
【X3162】修士ワークショップＡ［松波　淳也］春学期後半/Spring(2nd half) 91
【X3163】論文指導ⅡＢ［松波　淳也］秋学期前半/Fall(1st half) 92
【X3164】修士ワークショップＢ［松波　淳也］秋学期後半/Fall(2nd half) 93
【X3165】論文指導ⅡＢ［濱秋　純哉］秋学期前半/Fall(1st half) 94
【X3166】修士ワークショップＢ［濱秋　純哉］秋学期後半/Fall(2nd half) 95
【X3167】論文指導ⅡＡ［杉浦　未樹］春学期前半/Spring(1st half) 96
【X3168】修士ワークショップＡ［杉浦　未樹］春学期後半/Spring(2nd half) 97
【X3169】論文指導ⅡＢ［杉浦　未樹］秋学期前半/Fall(1st half) 98
【X3170】修士ワークショップＢ［杉浦　未樹］秋学期後半/Fall(2nd half) 99
【X3315】応用マクロ経済学Ｄ Ａ［蓮見　亮］春学期授業/Spring 100
【X3316】応用マクロ経済学Ｄ Ｂ［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall 101
【X3317】応用ミクロ経済学Ｄ Ａ［平井　俊行］春学期授業/Spring 102
【X3318】応用ミクロ経済学Ｄ Ｂ［小林　克也］秋学期授業/Fall 103
【X3319】開発経済論Ｄ Ｂ［池上　宗信］秋学期授業/Fall 104
【X3320】金融ファイナンス論Ｄ Ａ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 106
【X3321】金融システム論Ｄ Ａ［胥　鵬］秋学期授業/Fall 107
【X3322】地域経済論Ⅰ Ｄ Ａ［馬場　敏幸］春学期授業/Spring 108
【X3323】地域経済論Ⅰ Ｄ Ｂ［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall 109
【X3324】統計学Ｄ Ａ［阿部　俊弘］春学期授業/Spring 110
【X3325】統計学Ｄ Ｂ［阿部　俊弘］秋学期授業/Fall 111
【X3326】企業経済学Ｄ Ｂ［砂田　充］春学期授業/Spring 112
【X3327】国際金融論Ｄ Ａ［ブー　トゥン　カイ］春学期授業/Spring 113
【X3328】国際金融論Ｄ Ｂ［ブー　トゥン　カイ］秋学期授業/Fall 114
【X3329】環境政策論Ｄ Ａ［西澤　栄一郎］春学期前半/Spring(1st half) 115

【X3330】環境政策論 D B［西澤　栄一郎］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 116
【X3331】経済政策 D A［濱秋　純哉］春学期授業/Spring . . . 117
【X3332】経済地理学 D B［近藤　章夫］秋学期授業/Fall . . . 118
【X3333】公共経済学 D B［篠原　隆介］春学期授業/Spring . . . 119
【X3334】社会保障論 D A［小黒　一正］春学期授業/Spring . . . 120
【X3335】社会保障論 D B［小黒　一正］秋学期授業/Fall . . . 121
【X3336】労働経済学 D A［酒井　正］春学期授業/Spring . . . 122
【X3337】労働経済学 D B［酒井　正］秋学期授業/Fall . . . 123
【X3338】応用計量経済学 D B［明城　聡］秋学期授業/Fall . . . 124
【X3339】ミクロ計量分析 D B［明城　聡］秋学期授業/Fall . . . 125
【X3401】経済学演習ⅢA［酒井　正］春学期授業/Spring . . . 126
【X3402】経済学演習ⅢB［酒井　正］秋学期授業/Fall . . . 127
【X3411】経済学演習ⅣA［池上　宗信］春学期授業/Spring . . . 128
【X3412】経済学演習ⅣB［池上　宗信］秋学期授業/Fall . . . 129
【X3421】論文指導ⅤA［鈴木　豊］春学期前半/Spring(1st half) . . . 130
【X3422】博士ワークショップⅢA［鈴木　豊］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 131
【X3423】論文指導ⅤB［鈴木　豊］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 132
【X3424】博士ワークショップⅢB［鈴木　豊］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 133
【X3425】論文指導ⅤA［田村　晶子］春学期前半/Spring(1st half) . . . 134
【X3426】博士ワークショップⅢA［田村　晶子］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 135
【X3427】論文指導ⅤB［田村　晶子］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 136
【X3428】博士ワークショップⅢB［田村　晶子］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 137
【X3429】論文指導ⅤA［宮﨑　憲治］春学期前半/Spring(1st half) . . . 138
【X3430】博士ワークショップⅢA［宮﨑　憲治］春学期後半/Spring(2nd half) . . . 139
【X3431】論文指導ⅤB［宮﨑　憲治］秋学期前半/Fall(1st half) . . . 140
【X3432】博士ワークショップⅢB［宮﨑　憲治］秋学期後半/Fall(2nd half) . . . 141
【X3433】論文指導ⅤA［小黒　一正］春学期授業/Spring . . . 142
【X3434】論文指導ⅤB［小黒　一正］秋学期授業/Fall . . . 143
【X3435】論文指導ⅤA［胥　鵬］春学期授業/Spring . . . 144
【X3436】論文指導ⅤB［胥　鵬］秋学期授業/Fall . . . 145
【X3437】論文指導ⅤA［武田　浩一］春学期授業/Spring . . . 146
【X3438】論文指導ⅤB［武田　浩一］秋学期授業/Fall . . . 147
【X3439】論文指導ⅤA［馬場　敏幸］春学期授業/Spring . . . 148
【X3440】論文指導ⅤB［馬場　敏幸］秋学期授業/Fall . . . 149
【X3441】論文指導ⅤA［宮﨑　憲治］春学期授業/Spring . . . 150
【X3442】論文指導ⅤB［宮﨑　憲治］秋学期授業/Fall . . . 151

ECN501C1 － 1

経済学基礎Ａ

宇都宮　仁

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済学では，経済主体である消費者や企業がどのようなことを目的として，どのように行動するかを学ぶ。そしてその結果として市場でどのように価格や取引量が決定するかを学習する。本講義ではミクロ経済学の基本的な考え方を習得することを目標とする。さらに基本的な考え方を使い，現実への適用や政策問題について考えることができるようになることを目指す。

【到達目標】
1. 消費者の行動から需要曲線を説明することができる。
2. 生産者の行動から供給曲線を説明することができる。
3. 市場において価格や取引量が決定されるメカニズムを理解することができる
4. 現実の政策問題について経済学的な考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
基本的には対面授業を実施することもある。社会情勢によってはZoom を利用した講義形式のオンライン授業への切り替えを行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとイントロ	経済学・ミクロ経済学とは
第 2 回	需要と供給	需要曲線・供給曲線
第 3 回	需要曲線，供給曲線の特徴	弾力性とその応用
第 4 回	政府の政策	価格規制，税金
第 5 回	市場の効率性	余剰分析と市場の効率性
第 6 回	市場の効率性の応用 (1)	課税の費用
第 7 回	市場の効率性の応用 (2)	国際貿易
第 8 回	市場の非効率性	外部性
第 9 回	公共財	フリーライダー問題
第 10 回	企業行動	生産の費用
第 11 回	競争市場における企業	利潤最大化
第 12 回	独占市場	独占市場における企業の行動
第 13 回	寡占市場	寡占市場における企業の行動
第 14 回	消費者選択の理論	消費者の最適選択

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習： 各講義の内容を参考書や経済学の書籍，インターネットなどで調べ，わからないところを事前に把握しておくこと。
事後学習： 講義全体の復習を行うこと。講義でわからなかったところがあれば次回講義までに自分で調べるか，メールで質問してわかるようにしておくこと。
また，講義でクイズを出した場合は次回までに解いておくこと。
必要な学習時間：目安として、4 時間/回。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
N. グレゴリー・マンキュー（足立他訳）『マンキュー経済学Ⅰ　ミクロ編（第 3 版）』，東洋経済新報社
柳川隆・町野和夫・吉野一郎 (2015)『ミクロ経済学・入門（新版）』，有斐閣アルマ
八田達夫（2008）『ミクロ経済学 I』，東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】
期末試験　　60%
授業内クイズ　40%

【学生の意見等からの気づき】
対面での希望が多かったため、2022 年度は社会情勢の許す限り対面授業を行う。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞理論経済学・応用経済学
＜研究テーマ＞地域通貨
＜主要研究業績＞“ The community currency game “Online Shopping.com”: the prisoner’s dilemma and consumer behavior in a local economy” Evolutionary and Institutional Economics Review, 17(2), 345-360, 2020, (with Masaaki Abe, Miyoshi Hirano)
『地域通貨運営委員の学習ツールとしての地域通貨ゲーム－地域通貨ゲームの実施－』新潟産業大学経済学部紀要，第 50 号，29 － 40 頁，（with 阿部雅明，平野実良）
“ On the uniqueness and stability conditions for two types of monetary models with recursive utility”　Journal of International Economic Studies, No.27, pp.23-46, 2013, (with Kenji Miyazaki)

【Outline (in English)】
This course introduces the principles of microeconomics and the microeconomic way of thinking. The behavior of individuals and firms will be studied and then market outcomes will be discussed in different market structures. The aim of this class is to learn the fundamental microeconomics theory and to acquire skill of its application for real economic issues and policies through case studies.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Quiz in class: 40%

ECN501C1 － 2

経済学基礎Ｂ

仲北浦　淳基

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義ではマクロ経済学の基礎的な概念や理論を学ぶ。一国の経済状況の指標として重視される GDP、利子率、物価の概念とそれらが決定される仕組みを理解する。また入門的な経済成長理論も理解する。これらの学びを通じて、経済的な視点から事象を捉えられる思考力を修得する。

【到達目標】
（1）需要と供給、名目と実質、短期と長期の相違や関係について説明できる。
（2）GDP、利子率、物価が決定される仕組みを説明できる。
（3）政府によるマクロ経済政策の効果を説明することができる。
（4）長期にわたる経済成長についてケインズ派と新古典派の相違を説明できる。
（5）マクロ経済学の基礎的な概念や用語を適切に使って現実の経済現象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は「オンライン授業」（リアルタイム配信型）で実施する。基本的には一方向の講義形式で行うが、適宜、理解度を測るために簡単な確認問題も行う。また、授業後にはリフレクションシートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロ経済学とは？	マクロ経済学の成立史／本講義の概要／基礎的な数学の復習
第 2 回	生産と所得の関係	GDP、国内総所得
第 3 回	所得と支出の関係	国内総所得、国内総支出、三面等価の原則
第 4 回	財市場の需要と供給	45 度線分析、IS 曲線
第 5 回	財市場における経済政策	財政政策、乗数効果
第 6 回	貨幣市場の需要と供給	貨幣の役割、信用創造、金利、債券
第 7 回	貨幣市場における経済政策	金融政策、LM 曲線
第 8 回	財市場と貨幣市場の相互作用	IS-LM 分析、クラウドディング・アウト、流動性の罠
第 9 回	物価の変動	実質値と名目値
第 10 回	労働市場と物価	古典派の第一公準・第二公準、名目賃金の下方硬直性、AS 曲線
第 11 回	財市場と貨幣市場と労働市場の相互作用	AD-AS 分析
第 12 回	経済成長（1）	ハロッド=ドーマー理論（ケインズ派）
第 13 回	経済成長（2）	ソロー=スワン理論（新古典派）
第 14 回	試験・本講義のまとめと解説	本講義の総括、今後の学修への指針

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前学習：日々、経済ニュースに目を通して疑問点を挙げておき、次回授業後のリフレクションシートにて質問できるようにしておくこと。
事後学習：授業をまとめ理解を深める。授業内で出す課題に取り組むこと。
必要な学習時間：各回、事前学習と事後学習でそれぞれ 2 時間ずつ。

【テキスト（教科書）】
毎回の授業で資料を配布する。

【参考書】
授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】
①平常点（1）：授業内課題・リフレクションシート（40 %）
②期末考査（60 %）

【学生の意見等からの気づき】
復習のための録画は効果的だったと思われるため、対面授業においても可能なかぎりで録画して授業後に配信したい。また、授業のコンテンツの順序として、まずはマクロ経済学の全体像を詳しく説明することから始めたい。

【学生が準備すべき機器他】
パソコン（任意）:授業内課題や事後課題などで Google Forms を使用する場合がある。スマートフォンでも記入可なので、パソコンの持参は任意とする。

【経済学説史】
＜専門領域＞
経済学説史
＜研究テーマ＞
マクロ経済学の成立史（ケンブリッジ学派の経済学）
＜主要研究業績＞
仲北浦淳基（2016）「ロバートソンの最初期の経済学研究と『努力』概念」『経済学論叢』第 68 巻第 2 号，249-275 頁，2016 年 10 月.
仲北浦淳基（2018）「D. H. ロバートソンの『実物』的経済変動論――『産業変動の研究』における『努力』概念――」『経済学史研究』第 49 巻第 2 号，35-55 頁，2018 年 1 月.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental ideas and theories of macroeconomics, including short-run and long-run theories. It also enhances the development of students' skill in reading introductory economics papers and in explaining actual economic phenomena using appropriate technical terms.
（Learning Objectives）
By the end of this course, students should be able to explain the following:
(1)the differences and relationships between supply and demand, nominal and real, and short-term and long-term,
(2)how GDP, interest rates, and prices are determined,
(3)the effects of government macroeconomic policies,
(4)the differences between Keynesian and neoclassical approaches to long-term economic growth.
(5)actual economic phenomena using basic concepts and terms of macroeconomics.
（Learning activities outside of classroom）
(1)Read the economic news on a daily basis and raise any questions you may have, so that you can ask them on the reflection sheet after the next class.
(2)Summarize and deepen your understanding of the class. Work on the assignments given in class.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be decided on in class contribution(40%) and term-end examination(60%).

ECN504C1 － 1

実証経済学基礎 A

池上　宗信

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
まず、統計、確率の基礎を学び、その後、回帰係数の推定、検定などの実証分析の手法を学ぶ。
統計計算ソフト R を用いた演習によって、中心極限定理、推定、仮説検定の理解を深める。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業の予定である。
各講義前の課題として、各自、教科書のうち、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
情報実習室と呼ばれる、各受講生に 1 台ずつデスクトップパソコンが用意された教室を用いる予定である。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフト R を用いた問題が含まれる。
感染症対策のためにオンライン授業となってしまった場合は以下で代替する。
- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解くか、課題を提出する。
- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取る。
- 受講生は課題の解答例をフィードバックとして受け取る。
- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用する。
- 中間試験および期末試験を、リモート試験とし、学習支援システム上の課題として試験の解答を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	R Studio と R Markdown の基礎	html へのエクスポート、R スクリプト
第 2 回	R の基礎、相関	R の使い方、疑似相関
第 3 回	回帰	因果、 回帰、 予測
第 4 回	統計の基礎	母集団と標本、 無作為抽出
第 5 回	確率論の基礎 1	確率変数、期待値
第 6 回	確率論の基礎 2	中心極限定理、 信頼区間、周辺分布、条件付分布、独立、条件付期待値
第 7 回	まとめと復習、中間試験。	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	回帰係数の推定 1	ノンパラメトリック回帰、単回帰、最小二乗法
第 9 回	回帰係数の推定 2	残差、 決定係数、重回帰
第 10 回	回帰係数の検定 1	帰無仮説、棄却、有意水準、p 値、平均値の検定、単回帰係数の t 検定
第 11 回	回帰係数の検定 2	単回帰係数の信頼区間
第 12 回	回帰係数の検定 3	不均一分散、重回帰係数の t 検定、信頼区間
第 13 回	重回帰の補足	多重共線性、対数、多項式、交差項、結合仮説の検定、変数選択
第 14 回	まとめと復習、期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
感染症対策のためにオンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを受けるか、課題を提出する。

【テキスト（教科書）】
星野匡郎、田中久稔 (2016)『R による実証分析: 回帰分析から因果分析へ』オーム社、第 1-5 章、付録
教科書の第 6-11 章は、この講義ではカバーしない予定である。
講義スライドと下記の参考書の西山他（2019）の第 1-5 章で、教科書を補う。

【参考書】
西山慶彦、新谷元嗣、川口大司、奥井亮 (2019)『計量経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】
中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
授業中に、各自が R のスクリプトを書き、実行するという形式を今年度も継続する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
① “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries? ” *Journal of Risk and Insurance*. Volume 88, Issue 2, pp. 293-324. 2021.
② “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
③ “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
< Course outline >
We will study introductory statistics first.
Then, we we will econometrics methods such as estimation and hypothesis testing for regression coeeficients.
We will deepen our understanding of basic concepts such as Central Limit Theorem, estimation, hypothesis testing through problem sets with statistical package R.
< Learning Objectives >
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles.
We will try to become able to look for a research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.
After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
If we need to have online classes for combating infectious diseases, we will take online mini test or assignment after each class.

< Grading Criteria/Policies >
- We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term exam 40%; participation 20%.

ECN504C1 － 2

実証経済学基礎Ｂ

高橋　秀朋

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、学部レベルの経済学、金融、ファイナンス等の知識を身につけている、もしくは並行する他の講義等で今後身に付けていく予定であることを前提として、株価データを利用した実証分析やシミュレーションの手法について学習していく。具体的には、①株価データから収益率の基本統計量を求めシミュレーションを行う、②資本市場資産価格モデルの検証を行う、③モンテカルロ・シミュレーションにより資産管理の有効性を検証する、などのことを学習していく。

【到達目標】
本講義の目標は、講義中にファイナンスにおける資産運用方法および投資戦略を例として、他の経済学の分野においても使われる回帰モデル分析やシミュレーションの基本的な知識を学習することにある。厳密に計量経済学の理論的知識を身に付けなくとも、Excel 等の簡単なソフトウェアを利用して回帰モデルやシミュレーションを実践して、ショート・ペーパーが書けるレベルになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本講義は、スライドによる理論的背景の説明と Excel による演習によって構成される。数学や統計的な知識を多用するが、厳密なことまでは触れず、演算なども Excel 等で行っていく。必要であれば、講義後に質疑応答に対応する。理論的な説明に関しては「オンライン形式」(「対面式」の場合もあり）で行う。統計パッケージ（STATA)、Excel を利用した演習は「対面によるセミナー形式」（適時、教員が解説を行っていく形）で行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要、進行方法、評価方法
2	株価データ分析	収益率の計算と基本統計量
3	ポートフォリオ理論１	行列演算
4	ポートフォリオ理論２	ポートフォリオの構築
5	ポートフォリオ理論３	有効フロンティアの導出
6	ポートフォリオ理論４	資本市場価格モデル（CAPM）
7	ポートフォリオ理論５	CAPM の検証
8	ポートフォリオ理論６	投資信託のアルファ
9	シミュレーション１	モンテカルロ・シミュレーション
10	シミュレーション２	株価・投資シミュレーション
11	オプション１	オプションの基本
12	オプション２	二項モデルと BS モデル
13	オプション３	デルタ・ヘッジング
14	オプション４	モンテカルロ法によるオプション価格付け

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい（週 2 時間)。また、講義では毎回 EXCEL を利用し計算を行うので、講義後はその復習を必ずすること（週 1 時間)。この他に中間レポートを準備するのに必要な時間を確保すること（平均して、週 1 時間)。

【テキスト（教科書）】
Simon Benninga, Financial Modeling, 5th ed. (Oxford Univ Pr, 2022)

【参考書】
齊藤誠『金融技術の考え方・使い方- リスクと流動性の経済分析』（有斐閣、2000 年）

【成績評価の方法と基準】
評価は、講義の前半終了（第 8 回を予定）後に課される中間レポート（20%）と期末レポート（80%）の内容評価して行う。

【学生の意見等からの気づき】
講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】
講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、Excel がインストールされている PC がない場合、講義に出席する意味がない。受講生は自分の PC もしくは大学の PC 貸出等を利用し、講義前に PC の準備をしておくこと。

【担当教員の専門分野等】
参照： http://sites.google.com/site/htakahashi141a/

【Outline (in English)】
This course provides opportuinites to acquire basic skills related to statistics, simulation-based analysis, and matrix algebra, which are important to deepen econometric knowledge. This course is deigned to obtain these knowledge by learning introductory theories in investment analysis in the finance literature. Using data and simulation-based analyses, this course also provides opportunities to improve basic computer skills. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the mid-term report (20%) and term-end report (80%).

ECN512C1 － 1

経済史 A

杉浦　未樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1500 年から 2000 年までの世界経済の長期的な発展を「地域間格差―大分岐」、「交易」、「工業化」、「労働編成」、「環境史」などの大テーマを軸に学ぶ。前期となる経済史 A では、経済発展の概略をつかむため、大分岐論および世界経済と交易の関わり、東アジアとアフリカ経済の長期的な発展について、最新の学説動向を学ぶ。

【到達目標】
1500 年から 2000 年までの経済史の重要テーマを網羅して捉えられるようになる。
東アジア、ヨーロッパの経済発展を比較分析ができるようになる。
一つのテーマについて、日本語と英語の概説書を読み、最新の研究動向を知る。
日本語、英語のテキストの要点を整理し、発表するスキルを得る。
文献から論点を出し、討論できるようになる。
経済発展をめぐるテーマについて、研究文献を整理し、自分の問題視角が抽出できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
最初にテキストの割り当てを行う。受講者は担当分の要約報告と問題提起を行う。授業ではそれをもとに議論する。授業後半は、受講者は関心のあるテーマを選択し、それについて主要文献を整理し、研究動向を論述する演習を行う。講師からフィードバックを重ねることによって、論述スキルを向上させるように授業をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：なぜ経済の発展を学ぶのにグローバルな視点が必要なのか。	グローバル・エコノミック・ヒストリーの研究の視点を概略する。コースの到達目標と計画を説明する。
第 2 回	世界経済発展の見取り図と大分岐論（1）	人口・所得・地域格差のマクロ動向を説明したあと、テキスト（河崎他 4 章、2 章、一部）の論点発表をもとに討論
第 3 回	世界経済発展の見取り図と大分岐論（2）	ポメランツの大分岐論争について、テキスト（Roy and Riello 第一章、北川他第 2 章）の論点発表をもとに討論
第 4 回	交易と世界経済の一体化（16 世紀～18 世紀）（1）	ユーラシア大陸とアメリカ大陸の接合がもたらした世界交易の変化について、テキスト（河崎他第 2～4 章一部、水島他第 3 章、6 章）の論点発表をもとに討論
第 5 回	交易と世界経済の一体化（16 世紀～18 世紀）（2）	交易と世界経済の一体化についてテキスト（Roy and Riello 第 8 章）の論点発表をもとに討論
第 6 回	交易と世界経済の一体化（19 世紀）（1）	長い 19 世紀における交易の制度的枠組みの変化についてテキスト（河崎他第 6～7 章）の論点発表をもとに討論
第 7 回	交易と世界経済の一体化（19 世紀）（2）	19 世紀～20 世紀のグローバルな商品連鎖の成立について、テキスト（Roy and Riello 第 12 章）の論点発表をもとに討論

第 8 回	世界経済のなかの東アジア（1）	東アジアの 17 世紀～20 世紀の経済発展について、グローバル化との関連に留意しながらテキスト（北川他第 5 章、河崎他 11，12 章一部）の論点発表を行い討論する。
第 9 回	世界経済のなかの東アジア（2）	前回に引き続き、東アジアの経済発展を世界経済の動向の中に位置付けられるように、テキスト（Roy and Riello 第 16 章）の論点発表を行い討論する。
第 10 回	最終レポートの説明	最終レポートはテーマを自分で選んで研究動向を書く課題である。構成、書式、文献の検索方法、引用方法などを説明する
第 11 回	世界経済のなかのアフリカ（1）	アフリカの経済発展を世界経済の動向の中に位置付けるため、テキスト（北川他第 7 章）の論点報告をもとに討論する
第 12 回	世界経済のなかのアフリカ（2）	前回に引き続きアフリカ経済の世界経済との関わりについて、テキスト（Roy and Riello 第 14 章）の論点報告をもとに討論する。
第 13 回	最終レポートの発表とフィードバック	受講者はそれぞれ研究動向レポートを発表する。それに対してフィードバックを行う。
第 14 回	授業の総括とレポートの最終確認	コース全体を振り返り何を学んだか総括する。提出レポートの最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読テキストの精読、論点発表の準備および最終課題レポートの準備（文献調査、アウトライン作成、執筆）のため、準備学習を必要とする。通常授業の準備復習に 2 時間、論点発表準備に 2 － 3 時間、最終課題レポートの準備に 10 時間程度の授業時間外学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】
河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020 年
T.Roy and G. Riello, Global Economic History, Bloomsbury Academic, 2019.
北川勝彦、北原聡、西村雄志、熊谷幸久、柏原広樹『概説世界経済史―改訂版』昭和堂、2022 年。
水島司、島田竜登『グローバル経済史』放送大学出版会、2018 年。

【参考書】
杉原薫『世界史の中の東アジアの奇跡』名古屋大学出版会、2020 年。
ポメランツ（川北稔訳）『大分岐―中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015 年。

【成績評価の方法と基準】
隔週ごとに和文テキストの短いセクションの論点発表、コースを通して 1 回か 2 回英語テキストの論点発表を分担する。そのレジュメと発表方法を評価する。これらに対するものが授業評価の 40 ％を占める。最終課題として研究動向をまとめたレポートを課する。このレポートへの取り組みと発表と最終成果物に対する評価が、授業評価の 50 ％とする。残りの 10 ％は授業における討論への参加度を平常点として評価する。
授業への出席は単位取得の前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで行う可能性があるので、そのための情報・通信機器を用意してください。授業の連絡、資料配布・課題提出は学習支援システム（HOPPII）を通して行います。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を合わせて履修するとより総合的な知識とスキルが身につきますが、別々に受講することも可能です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18～20 世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞
The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course introduces theories and current debates of Global Economic History. It also enhances students' advanced skills for academic writing.
At the end of the course, students are expected to be able to compare economic development from comparative and global perspectives, as well as gain academic skills for writing elaborated historiography on themes on economic development Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations. For the last assignment students will need to spend more than 10hrs for writing a report.
Students' overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report:50%、Class presentations : 40%、in class contribution:10%.

ECN512C1 － 2

経済史 B

杉浦　未樹

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
1500 年から 2000 年までの世界経済の長期的な発展を「地域間格差―大分岐」、「交易」、「工業化」、「労働編成」、「環境史」などの大テーマを軸に学ぶ。k 後期となる経済史 B では、「工業化」、「労働編成」「環境史」を三つの柱として、経済発展を多角的な視点から捉えられるようになる。あわせて、杉原薫『世界史のなかの東アジアの奇跡』の一部を輪読し、東アジアの経済発展を世界経済史の中に位置付けられるようになる。

【到達目標】
1500 年から 2000 年までの経済史の重要テーマを網羅して捉えられるようになる。
東アジア、ヨーロッパ、アフリカなどの諸地域の経済発展の比較分析ができるようになる。
一つのテーマについて、日本語と英語の概説書を読み、最新の研究動向を知る。
日本語、英語のテキストの要点を整理し、発表するスキルを得る。
文献から論点を出し、討論できるようになる。
経済発展をめぐるテーマについて、研究文献を整理し、自分の問題視角を抽出し、文献やデータを使って分析し、結論が導きだせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
最初にテキストの割り当てを行う。受講者は担当分の要約報告と問題提起を行う。授業ではそれをもとに議論する。授業後半は、受講者は関心のあるテーマを選択し、それについての研究史を整理したあと問題設定し、分析する論述演習を行う。講師からフィードバックを重ねることによって、論述スキルを向上させるように授業をすすめる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：世界の経済発展の中に東アジアを位置付ける	後期コースの到達目標と計画を説明し、一連のテキストを紹介し、割り当てを決める。
第 2 回	工業化の多様な経路（1）	イギリス産業革命から 20 世紀半ばまでの工業化の概略について、テキスト（河崎他 5,8,11 章一部）の論点発表をもとに整理し、討論する。
第 3 回	工業化の多様な経路（2）	工業化と経済発展の多経路性について、テキスト（Roy and Riello 第 11 章、水島他第 13 章）の論点発表をもとに討論する。
第 4 回	工業化の多様な経路（3）	工業化の多経路性に関連して、東アジアの労働集約型工業化の成立と展開をテキスト（杉原第 2 章）をもとに討論する。
第 5 回	環境と経済開発（1）	16 世紀以降の環境と経済発展との関係を世界経済史の視点から、テキスト（Roy and Riello 第 9 章）の論点発表を通じて議論する。
第 6 回	環境と経済開発（2）	アジアを視点として環境と経済開発との歴史的関係性をテキスト（水島他第 7 章、杉原第 3 章前半）の論点発表をもとに考察する。
第 7 回	環境と経済開発（3）	前回に続いて、アジアの経済開発と環境との関わりを、テキスト（杉原第 3 章後半及び補論３）の論点発表を通じて討論する。
第 8 回	最終レポートの説明）	最終レポートは、20 世紀までの経済発展に関するテーマを選び、研究史を整理し問題設定・分析をする。構成、書式、文献の検索方法、引用方法、論述方法などをくわしく説明する。
第 9 回	世界経済と労働編成―（1）	世界経済は、各地域が生み出した労働統制と移動する労働者たちによって動かされた。世界経済システムと人間の移動との関係をテキスト（水島他第 7 章、杉原第 5 章）の論点発表をもとに討論する。
第 10 回	世界経済と労働編成（2）	17～19 世紀に経済のグローバル化が進展した時期の、各地域の統制と労働市場の成立について、テキスト（Roy and Riello 第 10 章）の論点発表をもとに討論する。
第 11 回	最終レポート中間発表	最終レポートについて、テーマと研究史整理と問題設定までを発表しあい、本論の分析の仕方について討論する。
第 12 回	東アジアの経済発展を世界経済史の中で位置付ける	後期のまとめとして東アジアの労働集約型経済発展をテキスト（杉原序章・終章）をもとに総合的に討論する。
第 13 回	最終レポートの発表とフィードバック	受講者はレポートの第一次原稿を提出し、またその内容について発表する。それに対してフィードバックを行う。
第 14 回	授業の総括とレポートの最終確認	コース全体を振り返り何を学んだか総括する。提出レポートの最終確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
輪読テキストの精読、論点発表の準備および最終課題レポートの準備（文献調査、アウトライン作成、執筆）のため、準備学習を必要とする。通常授業の準備復習に 2 時間、論点発表準備に 2 － 3 時間、最終課題レポートの準備に 10 時間以上の授業時間外学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】
河崎信樹、村上衛、山本千映『グローバル経済の歴史』有斐閣、2020 年
T.Roy and G. Riello, Global Economic History, Bloomsbury Academic, 2019.
杉原薫『世界史の中の東アジアの奇跡』名古屋大学出版会、2020 年。
水島司、島田竜登『グローバル経済史』放送大学出版会、2018 年。

【参考書】
ポメランツ（川北稔訳）『大分岐―中国、ヨーロッパ、そして近代世界経済の形成』名古屋大学出版会、2015 年。
北川勝彦、北原聡、西村雄志、熊谷幸久、柏原広樹『概説世界経済史―改訂版』昭和堂、2022 年。

【成績評価の方法と基準】
隔週ごとに和文テキストの短いセクションの論点発表、コースを通して 1 回か 2 回英語テキストの論点発表を分担する。そのレジュメと発表方法を評価する。これらに対するものが授業評価の 40 %を占める。最終課題として研究動向をまとめたレポートを課する。このレポートへの取り組みと発表と最終成果物に対する評価が、授業評価の 50 %とする。残りの 10 %は授業における討論への参加度を平常点として評価する。
授業への出席は単位取得の前提条件とする。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
オンラインで行う可能性があるので、そのための情報・通信機器を用意してください。授業の連絡、資料配布・課題提出は学習支援システム（HOPPII）を通して行います。

【その他の重要事項】
春学期と秋学期を合わせて履修するとより総合的な知識とスキルが身につきますが、別々に受講することも可能です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18～20 世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞
The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course introduces theories and current debates of Global Economic History. It also enhances students' advanced skills for academic writing.
At the end of the course, students are expected to be able to compare economic development from comparative and global perspectives, as well as gain academic skills for writing an academic essay on themes concerning the historical economic development.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours for reading texts and preparing for presentations. For the last assignment students will need to spend more than 10hrs for writing a report.
Students' overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report:50%、Class presentations : 40%、in class contribution:10%.

ECN515C1 － 1

計量経済学 A

明城　聡

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
計量経済学の基礎と標準的な分析手法の習得

【到達目標】
統計学の基礎を復習するとともに計量経済学で用いられる手法の理論を学ぶ。特に古典的回帰モデルの推定方法と検定について学ぶとともに、必要となる仮定が成り立つかどうかを判断できる知識をつける。また仮定が成り立たない場合の対応方法についても学習する。（本講義は計量経済学の理論を学ぶので、実際にデータを使った分析を学ぶには合わせて「応用計量経済学」を履修することが望ましい）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
授業は配布資料や教科書を用いた通常の講義形式で行う。また適宜、練習問題や宿題を行うことで講義内容の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業内容の紹介 ・成績評価
第 2 回	統計学の復習 (1)	・確率の概念 ・確率変数と離散型確率分布
第 3 回	統計学の復習 (2)	・期待値オペレータ ・結合確率分布
第 4 回	統計学の復習 (3)	・連続型確率変数 ・母集団、標本、母数 ・標本抽出
第 5 回	統計学の復習 (4)	・標本平均の統計的性質 ・推定と推定量の性質
第 6 回	計量経済学の基礎 (1)	・計量経済学とは ・最小二乗法 (1) ：データの整理、最小二乗法と回帰直線
第 7 回	計量経済学の基礎 (2)	・最小二乗法 (2) ：回帰直線の当てはまりの尺度、計算手順のまとめ
第 8 回	計量経済学の基礎 (3)	・単純回帰分析 (1) ：単純回帰モデル、推定量の期待値と分散、最良線形不偏推定量と一致性
第 9 回	計量経済学の基礎 (4)	・単純回帰分析 (2) ：推定量の分散の推定、単回帰モデルの仮説検定、変数選択と t 検定
第 10 回	計量経済学の基礎 (5)	・重回帰分析 (1) ：多重回帰分析、多重回帰分析の推定値の解釈、多重共線性
第 11 回	計量経済学の基礎 (6)	・重回帰分析 (2) ：自由度調整済み決定係数、変数の過不足とその影響、定数項を持たない回帰モデル、
第 12 回	計量経済学の基礎 (7)	・モデルの関数形と特殊な変数
第 13 回	計量経済学の基礎 (8)	・F 検定と構造変化の検定
第 14 回	計量経済学の基礎 (9)	・標準的仮定の意味と不均一分散

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
講義資料を配布する。

【参考書】
· J. H. Stock and M. W. Watson, Introduction to Econometrics, 4th eds., Pearson
・浅野晢・中村二郎「計量経済学」第 2 版、有斐閣

【成績評価の方法と基準】
· 期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
企業合併、規制緩和、および政府補助金等の効果についての構造推定と統計的分析手法の開発
＜主要研究業績＞
1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
Standard basic econometrics is covered in this course. Students are required to master basic statistics and econometric skills and utilize them to well understand the empirical data analysis.
Students also learn the potential problems of applying the classical linear regression models based on the standard assumptions to the observed economic data.
Preparation and review: 2hours including homework assignments
Grading: term exam 100%

ECN515C1 － 2

計量経済学 B

高橋　秀朋

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義のテーマは、計量経済学Aで学習した基本的な知識をもとに、その発展として時系列分析の基本的な知識を身につけ、簡単な VAR モデルを実行できるようになることにある。本講義では計量経済学の理論的理解を深めることと並行して、実践的な能力を身につけることにもある程度の時間が割かれる。講義の前半では既習の回帰モデルの行列表記、一般化最小二乗法を学習し、後半では定常性、ARMA モデル、VAR モデルなどの時系列分析のトピックを紹介する。

【到達目標】
本講義の目標は、①計量経済学Aで学習した内容の理解をより深化するし、高度な実証手法を適用になる、②時系列分析の理論に関する理解ができるとともに、統計パッケージ（STATA）を利用して、時系列モデルの推定ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は QE 指定科目であることを考慮して、基本的には板書による授業を進めていく。これらは基本的に「オンライン形式」(「対面式」の場合もあり）で行う。QE を受験しない学生が多いこと、多くの学生が修士論文において実証分析を行こととを考慮して、統計パッケージ（STATA）や Excel などを利用して演習を「対面によるセミナー形式」(統計ソフトを利用した演習を行い、適時、教員が解説を行っていく形）で行っていく。セミナー形式の講義では、実際の論文等を事前に学習した知識をどのように活用するかも説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義概要の説明
2	行列の復習 1	行列の演算
3	行列の復習 2	固有値・コレスキー分解
4	重回帰分析 1	回帰モデルの行列表記・推定
5	重回帰分析 2	推定値の統計的性質および検定
6	時系列分析の基礎	定常性・自己相関
7	一般化最小二乗法	誤差項における AR(1) 過程
8	ARMA 過程 1	ARMA 過程の性質
9	ARMA 過程 2	ARMA 過程の推定
10	前半のまとめ	中間試験
11	VAR モデル 1	VAR(2) モデルの紹介
12	VAR モデル 2	グレンジャー因果性
13	VAR モデル 3	インパルス応答関数
14	VAR モデル 4	分散分解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい（週 2 時間）。また、講義では数学の知識を多用し、統計パッケージを利用した演習を行うことも多いので、講義後はその復習を必ずすること（週 2 時間）。

【テキスト（教科書）】
浅野晢・中村二朗『計量経済学 第 2 版』有斐閣、2009
沖本竜義『計量時系列分析』朝倉書店、2010
※テキストを補完する形式で、講義ノートを配布する予定である。

【参考書】
テキストではカバーできていないトピックも複数あるので、それらに関する参考書等は授業で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】
中間試験 (50%) と期末レポート (50%) で判断する。

【学生の意見等からの気づき】
該当なし

【担当教員の専門分野等】
参照： http://sites.google.com/site/htakahashi141a/

【Outline (in English)】
This course is designed to improve econometric skills otained in Econometrics A. This course focuses on Time Series Analysis and demonstrates how to build time series models for univariate and multivariate time series data. The first half of this course reviews OLS regression models using matrix algebra. The second half teaches more detailed topics in Time Series Analysis such as stationary process, ARMA model, and vector autoregressive (VAR) model. This course is not only intended to obtain analytical skills in econometrics. It is also intended to achieve the ultimate goal that students can write sophisticated academic reports or papers based on their aqcuired skills. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the mid-term exam (50%) and term-end report (50%).

ECN511C1 － 1

社会経済学 A

大友　敏明

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が『資本論』第 3 巻第 5 編信用理論の輪読を通じてマルクスの信用理論を体系的に学ぶことができます。さらに『資本論』はイギリス古典派経済学の文献からの引用があるので、必要に応じてその文献の輪読も合せて行います。

【到達目標】
学生が『資本論』を論理的に理解できる能力を身につけることがこの授業の目標です。『資本論』には古典派経済学をはじめ、経済学の古典からの引用が多数あるので、理論だけではなく歴史も学ぶことができます。さらにこの授業を通じて現代資本主義の諸問題に対する関心を養うことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
『資本論』の輪読を行います。必要に応じて古典派経済学の文献の輪読も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』第 5 編	『資本論』信用理論研究の現在
第 2 回	信用と架空資本 1	『資本論』第 5 編第 25 章の輪読
第 3 回	信用と架空資本 2	『資本論』第 5 編第 25 章の輪読
第 4 回	信用と架空資本 3	『資本論』第 5 編第 25 章の輪読
第 5 回	貨幣資本の蓄積 1	『資本論』第 5 編第 26 章の輪読
第 6 回	貨幣資本の蓄積 2	『資本論』第 5 編第 26 章の輪読
第 7 回	貨幣資本の蓄積 3	『資本論』第 5 編第 26 章の輪読
第 8 回	信用の役割 1	『資本論』第 5 編第 27 章の輪読
第 9 回	信用の役割 2	『資本論』第 5 編第 27 章の輪読
第 10 回	信用の役割 3	『資本論』第 5 編第 27 章の輪読
第 11 回	流通手段と資本 1	『資本論』第 5 編第 28 章の輪読
第 12 回	流通手段と資本 2	『資本論』第 5 編第 28 章の輪読
第 13 回	流通手段と資本 3	『資本論』第 5 編第 28 章の輪読
第 14 回	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は文献の輪読を行いますので、学生には割り当てられた頁数を要約し報告してもらいます。本授業の準備・復習の時間は、各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
『資本論』第 3 巻、大月書店、1968 年をテキストとしますが、この書物が入手できない場合は他の出版社の『資本論』第 3 巻でもよいです。

【参考書】
大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は、平常点です。学生は順番にテキストの報告をしますので、そのレジュメを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞信用理論史
＜研究テーマ＞貨幣と国家
＜主要研究業績＞
1. "Ricardo's theory of central banking: the monetary system and the government," in Ricardo on Money and Finance: A bicentenary reappraisal, Chap.7,Routledge,2013.
2.「J. ステュアートにおける象徴貨幣と国家」『立教経済学研究』65(2)、2011 年。
3.「Monied Capital の蓄積について―トーマス・トゥックと匿名氏の『通貨理論論評』―」『経済学史研究』51(1)、2009 年。

【Outline (in English)】
(Course outline) The aim of this course is to learn Marx's credit theory systematically through reading "The Capital." Students will be expected to understand basic ideas of credit theory and moreover to think about various issues of modern capitalism.
(Learning Objectives) The goals of this course are to have an ability to understand "The Capital" logically and to learn not only the credit theory but also the history in Marx's times.
(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the in-class contribution by student's reports.

ECN511C1 － 2

社会経済学Ｂ

大友　敏明

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
学生が『資本論』第 3 巻第 5 編信用理論の輪読を通じてマルクスの信用理論を体系的に学ぶことができます。さらに『資本論』はイギリス古典派経済学の文献からの引用があるので、必要に応じてその文献の輪読も合せて行います。

【到達目標】
学生が『資本論』を論理的に理解できる能力を身につけることがこの授業の目標です。『資本論』には古典派経済学をはじめ、経済学の古典からの引用が多数あるので、理論だけではなく歴史も学ぶことができます。さらにこの授業を通じて現代資本主義の諸問題に対する関心を養うことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
『資本論』の輪読を行います。必要に応じて古典派経済学の文献の輪読も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』第 5 編	現代の信用理論研究の現在
第 2 回	銀行資本の諸成分 1	『資本論』第 5 編第 29 章の輪読
第 3 回	銀行資本の諸成分 2	『資本論』第 5 編第 29 章の輪読
第 4 回	銀行資本の諸成分 3	『資本論』第 5 編第 29 章の輪読
第 5 回	貨幣資本と現実資本Ⅰ、1	『資本論』第 5 編第 30 章の輪読
第 6 回	貨幣資本と現実資本Ⅰ、2	『資本論』第 5 編第 30 章の輪読
第 7 回	貨幣資本と現実資本Ⅰ、3	『資本論』第 5 編第 30 章の輪読
第 8 回	貨幣資本と現実資本Ⅱ、1	『資本論』第 5 編第 31 章の輪読
第 9 回	貨幣資本と現実資本Ⅱ、2	『資本論』第 5 編第 31 章の輪読
第 10 回	貨幣資本と現実資本Ⅱ、3	『資本論』第 5 編第 31 章の輪読
第 11 回	貨幣資本と現実資本Ⅲ、1	『資本論』第 5 編第 32 章の輪読
第 12 回	貨幣資本と現実資本Ⅲ、2	『資本論』第 5 編第 32 章の輪読
第 13 回	貨幣資本と現実資本Ⅲ、3	『資本論』第 5 編第 32 章の輪読
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
この授業は文献の輪読を行いますので、学生には割り当てられた頁数を要約し報告してもらいます。本授業の準備・復習の時間は、各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
『資本論』第 3 巻、大月書店、1968 年をテキストとしますが、この書物が入手できない場合は他の出版社の『資本論』第 3 巻でもよいです。

【参考書】
大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

【成績評価の方法と基準】
成績評価の方法と基準は、平常点です。学生は順番にテキストの報告をしますので、そのレジュメを評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞信用理論史
＜研究テーマ＞貨幣と国家
＜主要研究業績＞
1. "Ricardo's theory of central banking: the monetary system and the government," in Ricardo on Money and Finance: A bicentenary reappraisal, Chap.7,Routledge,2013.
2.「J. ステュアートにおける象徴貨幣と国家」『立教経済学研究』65(2)、2011 年。
3.「Monied Capital の蓄積について―トーマス・トゥックと匿名氏の『通貨理論論評』―」『経済学史研究』51(1)、2009 年。

【Outline (in English)】
(Course outline) The aim of this course is to learn Marx's credit theory systematically through reading "The Capital." Students will be expected to understand basic ideas of credit theory and moreover to think about various issues of modern capitalism.
(Learning Objectives) The goals of this course are to have an ability to understand "The Capital" logically and to learn not only the credit theory but also the history in Marx's times.
(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the in-class contribution by student's reports.

ECN514C1 － 1

マクロ経済学Ａ

田村　晶子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
動学を中心にしたマクロ経済学の基本手法を、大学院での国際標準とされるテキストを用いて学ぶ。

【到達目標】
大学院レベルのマクロ経済学で最も重要な手法である動学モデルの基本的な解法を理解し、基本的な動学モデルを解くことができる。さらに、動学モデルをもちいて、経済成長、財政政策の効果、世界各国の所得格差などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
アメリカの大学院でも修士 1 年生が勉強している標準的なテキストである Romer（2018）の前半部分（1～4 章）に沿って講義します。無味乾燥な数式の説明のみにはならないように、現実の経済への応用や実証分析の紹介も行います。また、学生の理解を助けるために、毎回の授業後に簡単な練習問題を課し、次回の授業で解法の解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ソロー成長モデルの基礎	基本的な経済成長モデルの分析手法
第 2 回	ソロー成長モデルの応用	ソローモデルを使った分析
第 3 回	ソロー成長モデルの実証分析	ソローモデルの実証分析の紹介
第 4 回	無限期間モデル（ラムゼイ・モデル）	家計と企業の行動を組み入れたラムゼイ・モデルの解説
第 5 回	無限期間モデルによる分析	ラムゼイ・モデルを使った分析
第 6 回	無限期間モデルによる応用と実証分析	ラムゼイ・モデルの応用分析と実証分析の紹介
第 7 回	中間試験	前半授業の理解の確認
第 8 回	世代重複モデル（ダイアモンド・モデル）	世代重複モデルであるダイアモンド・モデルの解説
第 9 回	世代重複モデルの応用・実証	ダイアモンド・モデルを使った分析と実証分析の紹介
第 10 回	内生的成長モデル（基本モデル）	基本的な内生的成長モデルの解説
第 11 回	内生的成長モデル（資本のあるモデル）	基本モデルに資本を入れて拡張
第 12 回	内生的成長モデル（ローマー・モデル）	内生的成長モデルであるローマー・モデルの解説
第 13 回	国家間所得格差	人的資本モデルによる分析
第 14 回	期末試験	後半授業の理解の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストを読んでから講義に向かい、授業後に復習すると効果的です。毎回簡単な練習問題を出すので、講義の後に解いて理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
David Romer, "Advanced Macroeconomics, 5th edition", McGraw-Hill Irwin, 2018

（第 3 版の翻訳：デビッド・ローマー著『上級マクロ経済学、原著第 3 版』日本評論社、2010 年）講義は第 5 版に沿って行いますが、第 3 版の翻訳本でもほぼカバーできます。

【参考書】
テキストで紹介される論文や日本経済への応用論文などを、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】
授業への積極的参加による平常点（20 %）＋中間試験（40 %）＋期末試験（40 %）
（ほぼ毎回練習問題を出しますが、提出を求めず、評価にも入れません。）

【学生の意見等からの気づき】
講義内容が盛りだくさんになると内容が良く理解できない学生がいるため、内容を絞って、余裕を持って講義を行う。また、毎回簡単な練習問題を課し、授業の冒頭で解説を行うことで理解を確認しながら進む。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
· Students learn the basic methods of advanced macroeconomics focuses on dynamics using international standard textbooks in graduate school.
· At the end of this course, students are expected to understand the basic solution of the dynamic macroeconomic model and be able to solve the basic dynamic macroeconomic model. In addition, students will understand economic growth, the effects of fiscal policy, and income disparities around the world using the dynamic model.
· Students will be expected to read the textbook, and review after class. In addition, students will be expected to solve the simple exercise questions after the lecture to deepen their understanding. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.
· Final grade will be calculated according to: midterm exam (40%), Final exam (40%), and in-class contribution (20%)

ECN514C1 – 2

マクロ経済学 B

宮﨑　憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ的基礎付けのもとの確率が含まれるマクロ経済モデルについて講義する.

【到達目標】
この講義を受講すれば, 最近のマクロモデルについて論文を理解することができ, 自分で確率が含まれるマクロ経済モデルを構築することができる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
レクチャーノートにしたがって講義する.
原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する.
授業内もしくは授業後に課題を課し、フィードバックをおこなう.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	時系列分析	時系列データの確率的性質について講義する
第 2 回	制約条件付き最適化	制約条件付き最適化について講義する
第 3 回	資本財なし完全競争市場モデル	資本財なし完全競争市場モデルについて講義する
第 4 回	資本財なし独占競争市場モデル	資本財なし独占競争市場モデルについて講義する
第 5 回	資本財あり完全競争市場モデル 1	資本財あり完全競争市場モデルについて均衡条件の導出まで講義する.
第 6 回	資本財あり完全競争市場モデル 2	資本財あり完全競争市場モデルについて対数線形近似の導出まで講義する.
第 7 回	Dynare の使い方	Dynare の使い方について講義する.
第 8 回	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデル 1	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデルについて均衡条件の導出まで講義する.
第 9 回	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデル 2	価格硬直性あり資本財なし独占競争モデルについて対数線形近似の導出まで講義する.
第 10 回	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデル 1	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデルについて均衡条件の導出まで講義する.
第 11 回	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデル 2	価格硬直性あり資本財あり独占競争モデルについて対数線形近似の導出まで講義する.
第 12 回	投資の調整費用モデル	投資の調整費用モデルについて講義する.
第 13 回	消費の習慣形成モデル	消費の習慣形成について講義する.
第 14 回	まとめ	講義全体をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
教科書はとくに指定しない.

【参考書】
George McCandless (2008), The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models, Harvard University Press.
Jordi Galí (2015), Monetary Policy, Inflation, and the Business Cycle: An Introduction to the New Keynesian Framework and Its Applications, Princeton Univ Press.
Carl E. Walsh (2010), Monetary Theory and Policy, MIT Press.
Jianjun Miao (2014), Economic Dynamics in Discrete Time, MIT Press.

【成績評価の方法と基準】
平常点 (10%)・宿題 (30%)・期末試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】
とくになし

【学生が準備すべき機器他】
Dynare について講義する際にはノートパソコン持参することが望ましい.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
マクロ経済学・計量経済学
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
(Course outline)
When you take this course, you can explain several macroeconomic models with microeconomic foundations.
(Learning Objectives)
By attending this lecture, students will be able to understand recent papers on macroeconomic models and construct their own macroeconomic models with probability.
(Learning activities outside of classroom)
The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.
(Grading Criteria /Policy)
Usual performance score (10%), homework (30%), final exam (60%)

ECN513C1 － 1

ミクロ経済学Ａ

平井　俊行

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では中級のゲーム理論、特に完備情報下の静学ゲーム・動学ゲームを中心に扱います。不完備情報下の静学ゲーム・動学ゲームにも触れます。

【到達目標】
・ゲーム理論の基礎概念を理解し、数学的に表現できるようになる。
・テキストの練習問題レベルの問題を独力で解けるようになる。
・ゲーム理論による分析を行っている専門論文を独力で読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
シラバス執筆時点 (2022 年 1 月中旬) では対面授業を予定しています。下記テキストを基に講義をおこないます。講義資料は学習支援システム (Hoppii) を通じて配布するので、授業開始日までに利用できるようにしておいてください。ホームワークについてのフィードバックはオフィスアワーを中心におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス、ゲーム理論の役割
2	完備情報静学ゲーム (1)	標準形ゲーム、戦略間の支配
3	完備情報静学ゲーム (2)	ナッシュ均衡
4	完備情報静学ゲーム (3)	応用 (1) クールノー寡占市場
5	完備情報静学ゲーム (4)	応用 (2) ベルトラン寡占市場、共有地の悲劇
6	完備情報静学ゲーム (5)	混合戦略、ナッシュ均衡の存在
7	完備情報動学ゲーム (1)	完備完全情報の動学ゲーム、後向き帰納法、応用
8	完備情報動学ゲーム (2)	完備不完全情報の 2 段階ゲーム、サブゲーム完全性、応用
9	完備情報動学ゲーム (3)	繰返しゲーム、完全フォーク定理
10	完備情報動学ゲーム (4)	展開形ゲーム、サブゲーム完全なナッシュ均衡
11	不完備情報静学ゲーム (1)	ベイジアンナッシュ均衡
12	不完備情報静学ゲーム (2)	オークション、顕示原理
13	不完備情報動学ゲーム (1)	完全ベイジアン均衡
14	不完備情報動学ゲーム (2)	シグナリングゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学部レベルのミクロ経済学および経済数学 (基本的な微分・積分、確率計算等) を前提として講義を進めるので必要に応じて自習しておいてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
【英語】Robert Gibbons (1992) "Game Theory for Applied Economists", Princeton University Press.
【日本語】ロバート・ギボンズ (2020)「経済学のためのゲーム理論入門」(福岡正夫、須田伸一翻訳) 岩波書店　3200+税

【参考書】
・岡田章 (2011)「ゲーム理論　新版」有斐閣、3,800 円＋税
・岡田章 (2014)「ゲーム理論・入門 新版–人間社会の理解のために」有斐閣、1900 円＋税
・Steven Tadelis (2013) "Game Theory: An Introduction", Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】
期末試験 (60 %) および 2 回のホームワーク (各 20 %) で評価を決めます。詳細は第 1 回の講義で説明します。

【学生の意見等からの気づき】
配布資料のタイポを減らします。

【その他の重要事項】
1 回オンラインで講義をおこないます。日程については変更の可能性もあります。詳細は第 1 回講義で連絡します。

【担当教員の専門分野等】
以下のリンク先を参照してください。
https://sites.google.com/site/toshiyukihirai54/research

【Outline (in English)】
Course outline: This course deals with Game theory at an intermediate level. The contents are mainly the theory of static and dynamic game under complete information and its applications. As an extension of this subject, the students learn the static game under incomplete information.
Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of game theory and become able to express them mathematically; B) become able to solve graduate coursework level exercise; C) become able to read and understand research papers in the field of game theory by themselves.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content.
Grading policy: Final exam 60%, Homework (20%×2)

ECN513C1 － 2

ミクロ経済学Ｂ

小林　克也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、伝統的な価格理論を講義します。学部の授業で扱うミクロ経済学の基本を理解した学生のみなさんが、計算を用いた中級程度の内容を習得することを目標とします。価格理論の考え方や分析手法は、理論分析だけではなく、実証分析や事例研究をする場合も考え方の基礎となります。この講義では、こうした応用問題を考える際に、立ち返ることが出来る基礎を身につけます。

【到達目標】
教科書で扱われる消費者理論、生産者理論、市場機構の理論を言葉と図、数式を用いて自分で説明を出来るようになることが目標です。さらに比較静学分析で使う簡単な計算が自分で出来ることが目標です。受講者には、高校から大学 1 年で扱う微分 (偏微分、全微分など) の計算と、行列と行列式の簡単な計算、高校で扱うベクトルの知識が求められます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。10 回程度、計算を中心とした問題を宿題として出します。受講者のみなさんを毎回順番に指名してホワイトボードに宿題の解答を書いてもらい、答え合わせと解説をします。その後、宿題の答案を提出してもらい、私が確認をして、必要に応じてコメントを記してお返しします。質問は授業中や授業の前の時間でするようにして下さい。その場で私が答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者理論 1	選好と効用関数
第 2 回	消費者理論 2	宿題の確認。MRS、MRS 逓減、準凹関数、行列と行列式の計算。クラメールの公式。効用最大化の 2 階条件。
第 3 回	消費者理論 3	宿題の確認。縁付きヘッセ行列、古典的なラグランジュ乗数法。
第 4 回	消費者理論 4	ラグランジュ乗数法の 2 階条件。縁付きヘッセ行列式と準凹関数の関係。
第 5 回	消費者理論 5	宿題の確認。通常の需要と補償需要。比較静学の考え方。
第 6 回	消費者理論 6	宿題の確認。所得効果と代替効果。スルツキー方程式。
第 7 回	消費者理論 7	宿題の確認。スルツキー方程式の別アプローチ。包絡線線の定理の考え方。
第 8 回	消費者理論 8	宿題の確認。弾力性。同次関数。オイラーの定理。
第 9 回	企業の理論 1	宿題の確認。利潤最大化。2 階条件とヘッセ行列。
第 10 回	企業の理論 2	宿題の確認。比較静学。長期と短期。ルシャトリエの原理。
第 11 回	最適化問題	宿題の確認。制約条件付き最適化問題とクーンタッカー条件。
第 12 回	競争均衡 1	宿題の確認。配分、パレート効率。

第 13 回　競争均衡 2	宿題の確認。エッジワースボックス。厚生経済学の第 1 定理。コア。
第 14 回　まとめと試験	まとめをした上で試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
微分の簡単な計算と行列と行列式の計算が出来ない人は、復習をしておく必要があります。これらの計算を授業では多用します。こうした計算の復習で 1 時間、ほぼ毎回の宿題と授業の復習、テキストの関連部分の精読で 3 時間の学習を標準とします。

【テキスト（教科書）】
テキストは次を使います。
西村和雄 (1990)『ミクロ経済学』東洋経済新報社
Varian, H. (1992), Microeconomic Analysis 3rd ed., W W Norton & Co Inc.
主に前者を用い、後者は補完的にみなさんが自主的に利用して下さい。

【参考書】
もう少し自分で上級の勉強をしたい人向けに以下をあげます。
Mas-Colell, A., Whinston, M., and Green, J. (1995), Microeconomic Theory, Oxford University Press
Jehle, G. and Reny, P. (2011), Advanced Microeconomic Theory (3rd Edition), Prentice Hall
前者はミクロ経済学のいろいろな分野が書いてあります。前者が難しいという人は後者の方が読みやすいかもしれません。

【成績評価の方法と基準】
毎回の授業で宿題として出す練習問題で 50%、授業の理解度を確かめるための期末試験で 50%の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】
例年、少し難しいと感じる方がいますので、みなさんの様子に応じて速度を調整して進むようにしています。2 単位の授業で上記の内容を丁寧に講義しながらすべて扱うことは難しいので、今年度も履修者のみなさんの要望を踏まえて扱う内容を減らしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】
連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は Hoppii のお知らせを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
詳細は私の website をご覧下さい。
http://www.t.hosei.ac.jp/~katsuyak/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, I give a lecture on the traditional price theory. The purpose of this course is that students who learned the basic of microeconomics in the undergraduate lectures learn the intermediate contents with the calculations. The price theory and its analytical methods are the basis of econometric analyses and case studies in addition to theoretical analyses. In this course, I hope that students acquire such bases.
Learning objective:
The goals of this course are to understand consumer, producer, and market theories. In particular, students should be able to explain these theories verbally, mathematically, and graphically on their own. In addition, students should have the skill of comparative statics.
Leaning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be calculated by homework:50% and term exam:50%.

ECN522C1 － 1

応用マクロ経済学 A

蓮見　亮

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンのマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。この授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。
数式を使った解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標としないので、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。
例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎とすべき基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

【到達目標】
マクロ経済学の基礎的概念の理解に基づき、応用的なモデルを用いた政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読形式（学生に担当個所を割り振り、説明してもらう）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（1）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（2）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（1）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（2）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（3）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBC モデル（1）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBC モデル（2）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（1）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（2）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS 曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（3）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、e（ネイピア数）を予習しておいてください。
週 3 時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

【テキスト（教科書）】
蓮見 亮 (著)『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020 年
必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

【参考書】
特になし（授業中に指示します）。

【成績評価の方法と基準】
平常点４０％、割り当てた輪読箇所のプレゼンテーション６０％の配点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義につき、機材（PC、タブレット等）・ネットワーク環境が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学、計量経済学（ベイズ統計学）
＜研究テーマ＞
マクロ経済モデルによるシミュレーション分析
＜主要研究業績＞
Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata, “Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan”, Journal of Banking & Finance 42, 371-380, 2014.
Hasumi, Ryo and Hideaki Hirata, “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan”, Journal of Small Business Management 52, 555-568, 2014.
Hasumi, Ryo , Hirokuni Iiboshi, and Daisuke Nakamura, “ Trends, Cycles and Lost Decades – Decomposition from a DSGE Model with Endogenous Growth”, Japan & The World Economy 46, 9-28, 2018.
Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, Tatsuyoshi Matsumae, and Daisuke Nakamura. “Does a Financial Accelerator Improve Forecasts during Financial Crises?: Evidence From Japan with Prediction-pool Methods”, Journal of Asian Economics, 60, 45-68, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, students will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.
（Learning Objectives）
The objective of this course is that students will be able to conduct policy analysis using applied models based on an understanding of the basic concepts of macroeconomics.
（Learning activities outside of classroom）
Approximately three hours of preparatory study and review per week is required for credit.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be based on class participation (40%) and presentation of assigned readings (60%).

ECN522C1 － 2

応用マクロ経済学Ｂ

宮﨑　憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では DSGE モデルの様々なモデル，特に THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) モデルについて学ぶ.

【到達目標】
最近の DSGE モデルの先行研究を理論的に理解し, その数値計算法を習熟することができるようになる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テーマごとに学術論文を輪読する.
原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	On DSGE	Christiano, L. J., Eichenbaum, M. S., & Trabandt, M. (2018). On DSGE Models. Journal of Economic Perspectives, 32(3), 113 － 140.
第 2 回	RANK with capital utilization	Greenwood, J., Hercowitz, Z., & Huffman, G. W. (1988). Investment, Capacity Utilization, and the Real Business Cycle. The American Economic Review, 78(3), 402 － 417.
第 3 回	RANK with sticky wage	Yun, T. (1996). Nominal price rigidity, money supply endogeneity, and business cycles. Journal of Monetary Economics, 37(2), 345 － 370.
第 4 回	Medium Scaled RANK 1	Christiano, L. J., Eichenbaum, M., & Evans, C. L. (2005). Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy. Journal of Political Economy, 113(1), 1 － 45
第 5 回	Medium Scaled RANK 2	Smets, F., & Wouters, R. (2007). Shocks and Frictions in US Business Cycles: A Bayesian DSGE Approach. American Economic Review, 97(3), 586 － 606.
第 6 回	RANK with Bank sector	Gertler, M., & Karadi, P. (2011). A model of unconventional monetary policy. Journal of Monetary Economics, 58(1), 17 － 34.

第 7 回	TANK & Monetary Policy	Galí, J., López-Salido, J. D., & Vallés, J. (2004). Rule-of-Thumb Consumers and the Design of Interest Rate Rules. Journal of Money, Credit and Banking, 36(4), 739 – 763.
第 8 回	TANK & Fiscal Policy	Galí, J., López - Salido, J. D., & Vallés, J. (2007). Understanding the Effects of Government Spending on Consumption. Journal of the European Economic Association, 5(1), 227 – 270.
第 9 回	TANK with Sticky Wages	Colciago, A. (2011). Rule-of-Thumb Consumers Meet Sticky Wages. Journal of Money, Credit and Banking, 43(2/3), 325 – 353.
第 10 回	TANK with Limited Asset Market Partitions	Bilbiie, F. O. (2008). Limited asset markets participation, monetary policy and (inverted) aggregate demand logic. Journal of Economic Theory, 140(1), 162 – 196.
第 11 回	THANK & Monetary Policy	Bilbiie, F. O. (2019).Monetary Policy and Heterogeneity: An Analytical Framework, forthcoming
第 12 回	THANK & Fiscal Policy	Bilbiie, F. O. (2018).The New Keynesian Cross, Journal of Monetary Economics, forthcoming
第 13 回	THANK with Capital	Bilbiie, F. O. (2020). Capital and Income Inequality: An Aggregate-Demand Complementarity, mimeograph
第 14 回	GHH-CARA Utility	Bilbiie, F. O. (2020).A GHH-CRRA Utility for Macro: Complementarity, Income, and Substitution, mimeograph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定した論文を読んでおく. 本授業の予習・復習時間は, あわせて各回 5 時間とする.

【テキスト（教科書）】
授業内に指定する

【参考書】
授業内に指定する

【成績評価の方法と基準】
課題報告 (70%), 平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.
（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
（Course outline）
This lecture studies several DSGE models including THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) models.
（Learning activities outside of classroom）
When students take this course they will be able to theoretically understand the recent previous studies on DSGE models and be able to master the numerical methods.
（Learning activities outside of classroom)
Students are required to read the papers specified in advance. The total time for preparation and review of this class is 5 hours for each session.
（Grading Criteria /Policy）
Report of assignments (70%), Usual performance score (30%)

ECN521C1 － 1

応用ミクロ経済学Ａ

平井　俊行

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義ではゲーム理論の特に協力ゲームと呼ばれる理論を学びます。プレイヤーが協力して何らかの結果を達成した時にどのような利得分配がおこなわれるのか、正当化されるのかを学びます。

【到達目標】
・協力ゲーム理論の基礎概念を理解し、数学的に表現できるようになる。
・テキストの練習問題レベルの問題を独力で解けるようになる。
・協力ゲームを用いた専門論文を独力で読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
シラバス執筆時点 (2022 年 1 月中旬) では対面授業を予定しています。教科書は使わず、講義資料を学習支援システム (Hoppii) を通じて配布するので、授業開始日までに利用できるようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス、協力ゲームとは何か
2	ナッシュ交渉解	交渉問題、ナッシュ交渉解
3	TU ゲーム (1)	TU ゲームの定義、配分、優加法性
4	TU ゲーム (2)	コアと安定集合
5	TU ゲーム (3)	凸ゲーム、平衡ゲーム
6	TU ゲーム (4)	交渉集合、カーネル、仁
7	TU ゲーム (5)	シャプレイ値
8	中間試験	中間試験
9	NTU ゲーム (1)	NTU ゲームの定義、配分、優加法性、凸性、平衡性
10	NTU ゲーム (2)	NTU ゲームにおける凸性、平衡性
11	NTU ゲーム (3)	純粋交換経済、公共財経済
12	提携を許す戦略形ゲーム (1)	戦略形ゲームの復習、強ナッシュ均衡、結託耐性ナッシュ均衡
13	提携を許す戦略形ゲーム (2)	α-コア、β-コア
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学部レベルの経済数学 (基本的な微分・積分、確率計算等) を前提として講義を進めるので必要に応じて自習しておいてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
中山幹夫・船木 由喜彦・武藤 滋夫 「協力ゲーム理論」勁草書房、2008 年、3080 円
必ずしもこの通りに進むわけではありませんが、講義内容の多くはこの書籍に依っています。

【参考書】
講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、中間試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】
配布資料のタイポを減らします。

【担当教員の専門分野等】
以下のリンク先を参照してください。
https://sites.google.com/site/toshiyukihirai54/research

【Outline (in English)】
Course outline: This course provides graduate level cooperative game theory. The contents include TU games, NTU games, and strategic games with coalitions, which are useful to analyze real-life cooperative behavior of people, firms, and countries.
Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of cooperative game theory and become able to express them mathematically; B) become able to solve graduate coursework level exercise; C) become able to read and understand research papers in the field of game theory by themselves.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content.
Grading policy: Final exam 60%, Mid-term exam 40%

ECN521C1 － 2

応用ミクロ経済学Ｂ

小林　克也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、ミクロ経済学の応用の立場で、民間と政府との関係に焦点を当てながら、いくつかの基本的なモデルについて説明をします。みなさんが応用理論の論文を自分で読めるようになるために必要な考え方を学びます。

【到達目標】
授業の中で取り上げる各分野で、基本的な理論モデルの考え方について、理解することが目標です。モデルで使われる経済上の概念についてもお話しします。モデルの中で計算過程も経済上の意味を持ちますので、それも含めて理解するよう努めて下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。講義の区切りごとに、簡単な宿題を出します。みなさんが提出した宿題に私が採点とコメントを書いてお返しします。みなさんの質問は授業中かその前後に私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自然独占産業と公的規制 (1)	自然独占
第 2 回	自然独占産業と公的規制 (2)	ピークロード料金
第 3 回	自然独占産業と公的規制 (3)	ラムゼイ料金
第 4 回	公共選択 (1)	意思決定のルール
第 5 回	公共選択 (2)	直接民主制、中位投票者の定理、投票のパラドックス
第 6 回	公共選択 (3)	間接民主制、投票の棄権
第 7 回	公共選択 (4)	レントシーキング
第 8 回	公共選択 (5)	コンテストモデル
第 9 回	公共選択 (6)	CES 生産関数について
第 10 回	公共選択 (7)	CES 生産関数を用いたグループコンテストモデル
第 11 回	公共選択 (8)	ゲリマンダリング
第 12 回	課税	ラムゼイルールの考え方
第 13 回	地方分権	住民移動と地方公共財
第 14 回	まとめと試験	まとめをした上で試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
微分の計算をして最適化をするので、基本的な計算をあらかじめ理解をしておいて下さい。ミクロ経済学 A と B で扱う計算や経済学の基本的概念を用いるので、これらの講義をあわせて履修することを強く推奨します。これらの授業で扱うゲーム理論や価格理論の基本的な概念を用います。これらの復習やこの授業の復習、宿題の解答に各回とも 4 時間程度の学習が標準です。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いませんが、以下の参考書の該当する部分を参照しながら講義します。

【参考書】
井堀利宏 (1996)『公共経済の理論』有斐閣
小西秀樹 (2009)『公共選択の経済分析』東京大学出版会
Konrad, K. (2009), Strategy And Dynamics In Contests,Oxford University Press.

を部分的に参照します。その他論文は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
宿題として出す練習問題を 50%、最後に実施する期末試験を 50%として成績を付けます。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は履修者が少数でしたので授業改善アンケートは実施しませんでした。履修するみなさんと話をしながら、上記の内容を取捨選択して丁寧に授業を勧めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】
連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は Hoppii のお知らせを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
詳細は私の website をご覧下さい。
http://www.t.hosei.ac.jp/~katsuyak/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, I explain several basic models, focusing on the relation of the private and public sectors from the standpoint of the applied microeconomics. Students learn the skills to read papers of applied theory on their own.
Learning objective:
The goals of this course are to understand the thoughts of basic theoretical models and economic concepts used in those models.
Leaning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be calculated by homework:50% and term exam:50%.

ECN563C1 － 2

開発経済論 B

池上　宗信

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済学の主要な実証分析手法と論文を学ぶ。
先行研究をサーベイするのではなく、特定の論文に焦点をあて、その論文の先行研究の不備、問、貢献、データ、手法を学ぶ。
実証分析手法として、差の差の分析、回帰不連続デザイン、操作変数法を学ぶ。
これらの手法を用いて、人的資本、リスク、信用などに関する問を研究した論文を学ぶ。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業の予定である。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
情報実習室と呼ばれる、各受講生に 1 台ずつデスクトップパソコンが用意された教室を用いる予定である。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフト R を用いた問題が含まれる。
感染症対策のためにオンライン授業となってしまった場合は、以下で代替する。
- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解くか、課題を提出する。
- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取る。
- 受講生は課題の解答例をフィードバックとして受け取る。
- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用する。
- 中間試験および期末試験を、リモート試験とし、学習支援システム上の課題として試験の解答を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境	産業革命と石炭、Fernihough and O'Rourke (2021), 操作変数法
第 2 回	教育	就業機会と教育、Atkin (2016), 操作変数法
第 3 回	出産	メロドラマと出生率、La Ferrara, Chong, and Duryea (2012), 差の差の分析
第 4 回	栄養	ヨウ素と就学、Field, Robles, and Torero (2009)、差の差の分析
第 5 回	健康 1	マラリアの所得減少効果、Bleakley (2010), 差の差の分析

第 6 回	健康 2	コレラと住宅価格、Ambrus, Field, and Gonzalez (2020), 空間における回帰不連続デザイン
第 7 回	まとめと復習、中間試験	第 1 回から第 7 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	リスク 1	失業保険、Gerard and Gonzaga (2021) 回帰不連続デザイン
第 9 回	リスク 2	災害と保険, del Valle, de Janvry, and Sadoulet (2020), ファジーな回帰不連続デザイン
第 10 回	リスク 3	干ばつと魔女殺し、Miguel (2005)、差の差の分析
第 11 回	信用 1	債務免除の効果、Kanz (2016)、回帰不連続デザイン
第 12 回	信用 2	信用の経済効果、Breza and Kinnan (2021)、差の差の分析
第 13 回	制度	携帯電話と選挙違反、Gonzalez (2021), 空間における回帰不連続デザイン
第 14 回	まとめと復習、期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
感染症対策のためにオンライン授業となってしまった場合は、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを受けるか、課題を提出する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】

高野久紀 (2014,2015)「実践　開発経済学　1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号
Ambrus, Attila, Erica Field, and Robert Gonzalez. 2020. “Loss in the Time of Cholera: Long-run Impact of a Disease Epidemic on the Urban Landscape.” *American Economic Review* 110 (2): 475-525.
Atkin, David. 2016. “Endogenous skill acquisition and export manufacturing in Mexico.” *American Economic Review* 106 (8): 2046-85.
Bleakley, Hoyt. 2010. “Malaria in the Americas: A retrospective analysis of childhood exposure.” *American Economic Journal: Applied Economics* 2:1-45.
Breza, Emily, and Cynthia Kinnan. 2021. “Measuring the Equilibrium Impacts of Credit: Evidence from the Indian Microfinance Crisis.” *Quarterly Journal of Economics* 136 (3): 1447-97.
Fernihough, Alan, and Kevin Hjortshøj O’Rourke. 2021. “Coal and the European Industrial Revolution.” *The Economic Journal* 131: 1135-49.
Field, Erica, Omar Robles, and Maximo Torero. 2009. “Iodine deficiency and schooling attainment in Tanzania.” *American Economic Journal: Applied Economics* 1 (4): 140-69.
Gerard, François, and Gustavo Gonzaga. 2021. “Evidence from Unemployment Insurance in Brazil.” *American Economic Journal: Economic Policy* 13 (3): 167-206.
Gonzalez, Robert M. 2021. “Cell Phone Access and Election Fraud: Evidence from a Spatial Regression Discontinuity Design in Afghanistan.” *American Economic Journal: Applied Economics* 13 (2): 1 – 51.
Kanz, Martin. 2016. “What does debt relief do for development? Evidence from India’s bailout for rural households.” A*merican Economic Journal: Applied Economics* 8 (4): 66 – 99.
La Ferrara, Eliana, Alberto Chong, and Suzanne Duryea. 2012. “Soap Operas and Fertility: Evidence from Brazil.” *American Economic Journal: Applied Economics* 4 (4): 1 – 31.
Miguel, Edward. 2005. “Poverty and witch killing.” *Review of Economic Studies* 72 (4): 1153 – 72.
Valle, Alejandro del, Alain de Janvry, and Elisabeth Sadoulet. 2020. “Rules for Recovery: Impact of Indexed Disaster Funds on Shock Coping in Mexico.” A*merican Economic Journal: Applied Economics* 12 (4): 164 – 95.

【成績評価の方法と基準】
中間試験 40 %、期末試験 40 %、平常点 20 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
担当教員が本講義を担当するのは初めてである。
実証経済学基礎 A もしくは計量経済学 A のどちらかを履修した後に、本講義を履修することを推奨したい。
開発経済論 A が開講された 2021 年度春学期から 1 年以上経過しているので、開発経済論 A の履修を前提としない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” J*ournal of Risk and Insurance*, 88(2): 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, 101(3): 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
< Course outline >
We will study major empirical methods and papers in Development Economics.
As the major empirical methods, we will study difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.
We will study papers using these empirical methods and analyzing questions related to human capital, risk, and credit.
< Learning Objectives >
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles.
We will try to become able to look for research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.
After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
- If we need to have online classes for combating infectious diseases, we will take online mini test or assignment after each class.
< Grading Criteria/Policies >
We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 40%; end-term exam 40%; participation 20%.

ECN542C1 － 1

金融ファイナンス論Ａ

胥　鵬

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、分散投資の考え方を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQ などの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を得る？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	2 銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	βの導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業活躍などの加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about one hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN542C1 － 1

金融システム論 A

胥　鵬

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、分散投資の考え方を理解してもらうことをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQ などの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を得る？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	2 銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	βの導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業活躍などの加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about one hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN565C1 － 1

地域経済論Ｉ Ａ

馬場　敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の文化、経済、産業、発展の経緯、現状などを学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】
対象各国の経済の現状、問題点、発展の経緯、産業動向などについて理解を深めることを到達目標とします。修士受講学生は各国の経済状況や発展の過程、背後にあるメカニズムについて十分理解することを目標とします。博士課程については修士課程の到達目標に加え、産業ごとでの理解向上を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は Zoom やオンデマンドで行います。当初は講義により各国の状況について説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第 2 回	経済データベース 1	オンラインデータベースを学び、主要な経済統計を検索・取得できるようにします。
第 3 回	アジア地域のアウトライン	主要な経済統計によりアジア各国を概観します
第 4 回	通貨とグローバリゼーション	為替レートとグローバリゼーションについて学びます
第 5 回	工業化と技術学習	技術導入戦略、技術学習の経路、OEM 戦略などについて学びます
第 6 回	経済データベース 2	貿易データベースについて学び、データの検索・取得を行えるようにします。
第 7 回	エリアスタディ 1	シンガポール
第 8 回	エリアスタディ 2	香港
第 9 回	エリアスタディ 3	韓国
第 10 回	エリアスタディ 4	タイ
第 11 回	エリアスタディ 5	インドネシア
第 12 回	エリアスタディ 6	マレーシア
第 13 回	エリアスタディ 7	フィリピン
第 14 回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前 1 時間、講義後 3 時間、合計 4 時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PC を推奨します

【地域経済】
新興工業国の経済発展
自動車産業
サポーティングインダストリー

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics, geographies, industries of Asian countries and other emerging countries. You learn various economic backgrounds and development engines of each country. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN565C1 － 2

地域経済論ＩＢ

馬場　敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の産業について学びます。特に自動車産業およびサポーティングインダストリィーの現状と発展について学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】
自動車産業およびサポーティングインダストリーの歴史、特質、現状、今後の発展の方向性などについてグローバルな視点から理解することを目標とします。修士受講学生は自動車産業の特質、各国での発展史、現状について理解を深めることを目標とします。博士受講学生については修士学生の目標に加え、サポーティングインダストリーの状況、グローバルバリューチェーンなどについても理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は Zoom やオンデマンドで行います。当初は講義により説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第 2 回	自動車産業データベース	オンラインデータベースを学び、自動車産業の主要なデータを検索・取得できるようにします
第 3 回	貿易データベース	貿易データベースについて学びます
第 4 回	自動車産業の現状 1	自動車産業の現状について学びます
第 5 回	自動車産業の現状 2	世界の自動車産業の状況について概観します
第 6 回	サポーティング産業	サポーティング産業について学びます
第 7 回	自動車産業の発展史 1	自動車産業の発展史について学びます
第 8 回	自動車産業の発展史 2	自動車産業の発展史について学びます
第 9 回	グローバルバリューチェーン 1	自動車部品の GVC について学びます
第 10 回	グローバルバリューチェーン 2	自動車部品の GVC について学びます
第 11 回	各国の自動車産業 1	各国の自動車産業のケーススタディ
第 12 回	各国の自動車産業 2	各国の自動車産業のケーススタディ
第 13 回	各国の自動車産業 3	各国の自動車産業のケーススタディ
第 14 回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前 1 時間、講義後 3 時間、合計 4 時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PC を推奨します

【地域経済】
自動車産業・サポーティング産業

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics and industries of Asian countries and other emerging countries. In this class, we especially focus on automobile industry and supporting industries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN523C1 － 1

統計学Ａ

阿部　俊弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主として多変量解析の基本的手法に焦点を当て、データの例と分析手法を考えていきます。回帰モデルや統計的分布のパラメータ推定法をいくつかを調べ、最尤法を用います。また、統計学はデータを意識した学問であることから、統計的ソフトウェア R を用いてデータ分析手法も身に着け、実践力を付けていきます。

【到達目標】
回帰分析の概念を理解し、最小二乗法と最尤法によるパラメータ推定を理解する。また、多変量解析の手法や実データに対してどの統計手法を用いれば良いか理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進め、R を用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。
配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要と準備	統計ソフト R について
第 2 回	回帰分析の概要	最小二乗法による回帰係数の推定
第 3 回	単回帰分析の復習	区間推定と検定による検証
第 4 回	重回帰分析の復習	単回帰分析の拡張
第 5 回	最尤法	最尤法によるパラメータ推定
第 6 回	最適化手法を用いた分析	ソルバーによる最適化
第 7 回	様々な種類のデータの扱い	ダミー変数
第 8 回	モデル選択	AIC と BIC
第 9 回	正則化法に基づく回帰分析	リッジ回帰・Lasso
第 10 回	統計的分類手法としての判別分析	判別分析の理論
第 11 回	判別分析を用いた評価	予測と誤判別率
第 12 回	判別分析とサポートベクターマシン	2 つの手法の比較
第 13 回	ロジスティック回帰モデルの理論	データの例とモデルの導入
第 14 回	ロジスティック回帰分析の実際	データを用いた分析と手法の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
林 賢一 (著)・下平 英寿 (編集) (2020)『R で学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』
配布資料も用いながら講義を行う。

【参考書】
宮田庸一 (著)(2012)『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

【成績評価の方法と基準】
通常の課題レポート (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
身の回りの現象との関連を見るために、実データを用いて理解を深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・統計ソフトウェアの R を使用します。
・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞統計科学
＜研究テーマ＞方向統計学・EM アルゴリズム
＜主要研究業績＞
[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.
[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.
[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.
[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.
[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
In this course, we mainly focus on basic methods of multivariate analysis and consider the theory and its illustrative examples. We also investigate parameter estimation for probability distributions, and apply the method of maximum likelihood as statistical inference. In addition, we will use a popular statistical software R to investigate a behavior of the statistical model.
[Learning Objectives]
The students are expected to understand the concept of regression analysis and its parameter estimation by least squares method as well as method of maximum likelihood.
They are also expected to learn fundamental statistical methods for multivariate analysis by making use of actual data sets.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.
[Grading Criteria /Policy]
Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN523C1 － 2

統計学 B

阿部　俊弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では前半は様々な多変量解析の手法を調査し、その手法の理論と実践を身に着けていきます。また、様々なところで耳にすることも多い「シミュレーション」は様々な状況で使われています。ここでは、疑似乱数を用いて解析的に解くことは難しいような問題に対して「真の解はどこにありそうなのか？」という解決法について取り組んでいきます。

【到達目標】
様々な多変量解析の概念を調査し、高度な手法を身に着けていく。また、統計的分布の疑似乱数の生成を行い、乱数を用いた予測を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進め、R を用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。
配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	単純な規則に基づく判別モデル	決定木の考え方
第 2 回	決定木を用いたデータ解析	木の描画・あてはめ
第 3 回	主成分分析の理論	データの例と主成分分析の理論
第 4 回	主成分分析の適用	主成分分析の解釈
第 5 回	クラスター分析の理論	データの例とクラスター分析の理論
第 6 回	クラスター分析の応用	実データの群分けと解釈
第 7 回	クラスター分析に関する話題	クラスター分析の注意点
第 8 回	正準相関分析	データの例と理論の適用
第 9 回	ブートストラップ法の基本	リサンプリングとブートストラップ標本
第 10 回	ブートストラップ法の応用	ブートストラップ法の適用
第 11 回	シミュレーションのための準備	基本的なプログラミングコード
第 12 回	シミュレーションの実際	乱数を用いて統計学を実感する
第 13 回	歪対称分布	誤差項が非対称となるデータへの対応
第 14 回	まとめ	近年の統計的手法の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
林 賢一 (著)・下平 英寿 (編集) (2020)『R で学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』

【参考書】
宮田庸一 (著)(2012)『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション
永田靖・棟近雅彦 (共著)(2001)『多変量解析法入門』、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
授業での平常点 (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・統計ソフトウェアの R を使用します。
・レポート提出のために、Microsoft Word または TeX を使用します。
・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞統計科学
＜研究テーマ＞方向統計学・EM アルゴリズム
＜主要研究業績＞
[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.
[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.
[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.
[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.
[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
In this course, we introduce various illustrative examples and theory in multivariate analysis. The term "simulation", which is often heard in our real life, is used in various situations. As examples of that, we will tackle to a problem which is difficult to solve analytically. As a result, we will consider a solution to the problem "Where is the true solution?" by using pseudo-random numbers.
[Learning Objectives]
The students are expected to investigate various concepts of multivariate analysis and acquire advanced methods.
In addition, they are also expected to learn how to generate pseudo-random numbers from statistical distributions, and predict the phenomenon using them.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.
[Grading Criteria /Policy]
Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN544C1 － 2

企業経済学Ｂ

砂田　充

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（BusinessEconomics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別，カルテル，合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。授業形態については未定としているが，詳細は学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと黒板を使った講義形式がメイン。学生による報告を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	寡占市場①	寡占市場の基本モデル（復習）
第 3 回	寡占市場②	消費者の離散選択モデル/Logit モデル
第 4 回	価格差別①	価格差別の基礎/グループ別価格
第 5 回	価格差別②	二部料金/抱き合わせ/メニュー価格
第 6 回	カルテル①	カルテルの最適化行動と安定性/報復の脅威による協調の維持
第 7 回	カルテル②	カルテル規制/不当な取引制限
第 8 回	合併①	企業結合規制/水平的合併と効率性/水平的合併と社会的厚生
第 9 回	合併②	合併シミュレーション/合併の実証研究
第 10 回	合併③	垂直的合併と効率性
第 11 回	垂直的取引①	垂直的取引における最適行動/再販とテリトリー制
第 12 回	垂直的取引②	垂直的取引の競争制限効果/不公正な取引方法
第 13 回	競争戦略	戦略的行動/競争戦略の分類/コスト優位/差別化優位
第 14 回	総括	これまでの内容のおさらいと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度），講義後には講義資料および自筆ノート等を使って復習（2 時間程度）することが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣，2001 年），丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣，2017 年），Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010，Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013，Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ.Press, 2004，Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press,1996，Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988 他適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50～95%），平常点（5～50%）により評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学
＜研究テーマ＞
企業の経営戦略と公共政策の経済分析
＜主要研究業績＞
"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36,Number 3, pp. 179-206, August 2012.
"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi,Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada).
"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.

【Outline (in English)】
This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics.
The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: pricing strategy, cartel, horizontal and vertical merger, vertical restraints, and so on.
Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, if required, to complete a homework assignment through HOPPII (about two hours required).
Students are also expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.
The grade will be based on the final exam (50-95%) and the homework (5-50%).

ECN562C1 － 1

国際金融論 A

ブー　トウン　カイ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論の紹介
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定、資金循環勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支表
5	貨幣	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	貨幣と物価に関する理論と実証研究	貨幣需要関数の理論と推定、貨幣と物価との関係の実証分析
8	為替レート	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート、データを用いる実効為替レートの算出
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	金利平価の検証	金利平価の実証研究文献、データとパソコンを用いる演習
13	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
14	購買力平価からの乖離	データでみる実質為替レートの長期的トレンド、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年.
2.『MBA のための国際金融』小川 英治・川崎 健太郎、有斐閣 2007 年.

【参考書】
1.“International Economics: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 10th Revised 版 (2014/7/3)（ペーパーバック）.
2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,”by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12)（ハードカバー）.
3.『新しい国際金融論 – 理論・歴史・現実』勝 悦子、有斐閣 2011 年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 25%、中間レポート： 25 %、学期末レポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際マクロ経済学、国際金融論
＜研究テーマ＞
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
＜主要研究業績＞
(1) "Physical Capital Accumulation in Asia 12: Past Trends and Future Projections," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 2, pp.38-149, 2012 (with Etsuro Shioji).
(2) "News Shocks and Japanese Macroeconomic Fluctuations," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 4, pp.292-304, 2012 (with Jun-Hyung Ko and Kensuke Miyazawa).
(3)「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」,『アジア太平洋研究』第 39 巻, pp.149-162, 2014 年.

【Outline (in English)】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.
To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.
Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN562C1 － 2

国際金融論 B

ブー　トウン　カイ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レート決定の理論（3）	ポートフォリオ・アプローチとその実証分析
2	為替レート決定の理論（4）	ニュースの理論とその実証分析
3	外国為替市場の効率性	効率的市場仮説、先物相場と直物相場、先物相場プレミアムに関する実証分析
4	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
5	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支、弾力性アプローチとその実証分析
6	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習：名目価格硬直性、短期と長期、短期のマクロ経済理論としての IS-LM モデル、総生産の決定、外生ショックと景気変動、マクロ経済政策の効果
7	開放経済分析の理論的枠組み（1）	マンデル・フレミングモデルの構築、それを用いる分析：変動相場制下の金融・財政政策の効果
8	開放経済分析の理論的枠組み（2）	マンデル・フレミングモデルを用いる分析：固定相場制下の金融・財政・為替政策の効果
9	マンデル・フレミングモデルから動学的開放マクロ経済学へ	動学的開放マクロ経済学の理論と実証
10	為替介入	為替介入の定義、実際、仕組み、理論・実証的効果、固定相場制維持介入と通貨危機
11	為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、世界各国の為替制度の現状、為替制度選択問題と「両極の解」の議論
12	通貨同盟と最適通貨圏	EU とユーロの概要、最適通貨圏の理論と実証分析
13	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
14	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を 1 時間程度で復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年.
2.『MBA のための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣 2007 年.

【参考書】
1.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック.
2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,”by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12)（ハードカバー）.
3.『新しい国際金融論– 理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣 2011 年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 25%、中間レポート： 25 %、学期末レポート： 50 %

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際マクロ経済学、国際金融論
＜研究テーマ＞
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
＜主要研究業績＞
(1) "News Shocks and Japanese Macroeconomic Fluctuations," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 4, pp.292-304, 2012 (with Jun-Hyung Ko and Kensuke Miyazawa).
(2)「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」, 『アジア太平洋研究』第 39 巻, pp.149-162, 2014 年.
(3) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1 – 21 (with Hayato Nakata).

【Outline (in English)】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.
To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.
Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN552C1 － 1

環境政策論 A

西澤　栄一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境政策の経済分析－政策手法を中心に－

【到達目標】
①環境問題に関わる政策手法を理解する。
②環境政策の経済学的分析手法を身につける。
③他国・地域の環境政策の手法について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境政策の経済分析を主たるテーマとする。環境問題の経済的分析手法を解説し、具体的な政策手法について分析する。
講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末には簡単なリポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・日本の環境問題の史的変遷	オリエンテーション、江戸時代から 20 世紀末までの歴史
第 2 回	地球温暖化対策	気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定
第 3 回	環境問題の経済分析	余剰分析、厚生経済学の基本定理、市場の失敗、公共財、外部性
第 4 回	環境政策の手段①	政策手段の分類、直接規制、環境税
第 5 回	環境政策の手段②	排出取引、環境補助金、デポジット制度
第 6 回	環境政策の政治過程	政策過程論、政策ネットワーク
第 7 回	環境政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】
①ハンレー・ショグレン・ホワイト (2021)『環境経済学入門』昭和堂
②大沼あゆみ・栢植隆宏 (2021)『環境経済学の第一歩』有斐閣
③栗山浩一・馬奈木俊介 (2020)『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣
④有村俊秀・片山東・松本茂編 (2017)『環境経済学のフロンティア』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
リポートとその内容に関する発表（50 %）、平常点と授業への参加（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境政策論、農業経済学
＜研究テーマ＞欧米の環境政策・農業環境問題
＜主要研究業績＞
①『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017 年.
②『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014 年.
③「オランダの環境協同組合」清水純一・坂内久・茂野隆一編『復興から地域循環型社会の構築へ』農林統計出版，2013 年.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course deals with economic analyses of environmental policies.
（Learning Objectives）The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution (50%).

ECN552C1 － 2

環境政策論 B

西澤　栄一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境の経済的評価手法

【到達目標】
①環境の経済的評価手法について、その概要を理解する。
②評価手法を実際に運用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境の経済的評価手法を解説する。理論的基礎となる、厚生経済学や費用便益分析を概説したあと、旅行費用法、ヘドニック法、CVM(仮想評価法)、コンジョイント分析などをとりあげる。各手法を解説したあと、その手法を用いた実証研究の論文を講読する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・費用便益分析	オリエンテーション、環境の経済的評価の必要性
第 2 回	厚生経済学・環境の価値と評価手法の概要	経済的余剰の諸概念、支払意志額、受取補償額、環境の価値、表明選好、顕示選好
第 3 回	旅行費用法	家計生産モデル、弱補完性
第 4 回	ヘドニック法	ヘドニック価格関数、付け値関数
第 5 回	CVM（仮想評価法）	各種のバイアス、ランダム効用モデル
第 6 回	コンジョイント分析	選択型実験、多項ロジットモデル
第 7 回	回避支出法、ライフサイクルアセスメント	被害算定型影響評価手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストは事前に読んでおくこと。配布する論文を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
栗山浩一・柘植隆宏・庄子康（2013）『初心者のための環境評価入門』勁草書房

【参考書】
①栗山浩一・庄子康編 (2005)『環境と観光の経済評価』勁草書房
②柘植隆宏・栗山浩一・三谷羊平編 (2011)『環境評価の最新テクニック』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
実証論文についての、レジュメの作成と報告（25 %）、短いリポート（25 %）、平常点と授業への参加（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境政策論、農業経済学
＜研究テーマ＞欧米の環境政策・農業環境問題
＜主要研究業績＞
①『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017 年.
②『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014 年.
③「オランダの環境協同組合」清水純一・坂内久・茂野隆一編『復興から地域循環型社会の構築へ』農林統計出版，2013 年.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with economic valuation methods for the environment.
(Learning Objectives) The aim of this course is to help students conduct an economic valuation of the environment.
(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the report on a journal article with empirical research (25%), term-end report (25%) and in-class contribution(50%).

ECN553C1 － 1

経済政策 A

濱秋　純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，経済政策のうちとくに社会保障政策について制度と理論の両面から学ぶ。

【到達目標】
日本の社会保障政策についての理解を深め，自ら政策を評価できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
社会保障制度の内容の説明と経済学に基づく理論的背景の解説を行う。教員が作成したパワーポイント資料に基づいて解説を行うが，授業の途中で受講者が考えたり，計算したりする時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明
第 2 回	社会保障とは何か	社会保障の目的と機能
第 3 回	社会保障とは何か	社会保障制度の歴史
第 4 回	社会保障とは何か	社会保障給付の増加と財政の悪化
第 5 回	社会保障の財源調達	社会保障財源の構造
第 6 回	社会保障の財源調達	社会保障財源の推移
第 7 回	所得格差と所得再分配	日本の所得格差
第 8 回	所得格差と所得再分配	所得格差の指標と再分配政策
第 9 回	公的年金の基礎理論	日本の公的年金制度の概要
第 10 回	公的年金の基礎理論	公的年金はなぜ強制加入なのか？
第 11 回	公的年金の基礎理論	モラル・ハザードを抑制する公的年金のデザイン
第 12 回	公的年金の基礎理論	年金の財政方式
第 13 回	公的年金の基礎理論	賦課方式から積立方式への移行の効果
第 14 回	まとめと期末試験	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。本授業を履修するにあたり，ある程度の社会保障制度の知識を持っていた方がよいが，それを前提とはしない。なお，知識に不安がある者は，椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障-福祉を学ぶ人へ』（各年版，有斐閣）の 1 章～4 章，7 章・8 章を事前に一読することを勧める。

【テキスト（教科書）】
小塩隆士，2013 年，『社会保障の経済学 [第 4 版]』日本評論社

【参考書】
島崎謙治，2020 年，『日本の医療: 制度と政策［増補改訂版］』東京大学出版会
堤修三，2018 年，『社会保険の政策原理』国際商業出版
小西砂千夫，2016 年，『社会保障の財政学』日本経済評論社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】
学生が受け身の学習にならないように，授業の途中で受講者自身が考えたり，計算したりする時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じて資料などのアップロードを行う。この際に，受講者に通知のメールが届くようにするので，授業支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
公共経済学・応用計量経済学
< 研究テーマ>
家計行動のミクロ計量分析
< 主要研究業績>
(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2019, “The intra-family division of bequests and bequest motives: Empirical evidence from a survey on Japanese households,” Journal of Population Economics, Vol.32(1), pp.309 – 346.
(2) 上野綾子・濱秋純哉，2017 年，「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金，労働時間，離職率に与えた影響」，『医療経済研究』，Vol.29(1)，33 頁-57 頁。
(3) Hamaaki, Junya, 2013, “The pension system and household consumption and saving behavior,” Public Policy Review, Vol.9(4), pp.687-716.
(4) Hamaaki, Junya, Yasushi Iwamoto, 2010, “A reappraisal of the incidence of employer contributions to social security in Japan,” Japanese Economic Review, Vol.61(3), pp.427-441.

【Outline (in English)】
Course Outline
This course explains social security policy from both a theoretical and practical perspective.

Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom
Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy
Final grade will be decided based on the following:
Term-end examination: 100%

ECN564C1 － 2

経済地理学Ｂ

近藤　章夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】
経済地理学の最先端での研究を俯瞰し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文の分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第 2 回	経済学と地理・空間（1）	主要論文の輪読
第 3 回	経済学と地理・空間（2）	主要論文の輪読
第 4 回	経済学と地理・空間（3）	主要論文の輪読
第 5 回	都市と集積（1）	主要論文の輪読
第 6 回	都市と集積（2）	主要論文の輪読
第 7 回	都市と集積（3）	主要論文の輪読
第 8 回	イノベーションとネットワーク（1）	主要論文の輪読
第 9 回	イノベーションとネットワーク（2）	主要論文の輪読
第 10 回	イノベーションとネットワーク（3）	主要論文の輪読
第 11 回	空間経済の理論と実証（1）	主要論文の輪読
第 12 回	空間経済の理論と実証（2）	主要論文の輪読
第 13 回	空間経済の理論と実証（3）	主要論文の輪読
第 14 回	経済地理学のフロンティアとまとめ	主要論文の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
Brakman, S., et al.（2019）『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World（3rd edition）』Cambridge University Press
Clark, G. L., et al.（2018）『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press
Combes, P. P., et al.（2008）『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press
Cooke, P. et al.（2013）『Handbook of Regional Innovation and Growth』Edward Elgar Pub
松原宏（2006）『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会
佐藤泰裕ほか（2011）『空間経済学』有斐閣
その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加が評価の中心となる。
平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.
The goals of this course are to overview the cutting-edge researches of economic geography and to understand the analysis methods used in articles published in journals of international repute.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following.
Term-end report: 20%, in class contribution: 80%

ECN555C1 － 2

公共経済学Ｂ

篠原　隆介

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、メカニズム・デザイン理論 (Mechanism Design Theory) を学習する。メカニズム・デザイン理論とは、(1) 分権的な経済制度・システムを構築することによって、どのような経済社会状態を実現することができるのか、(2) ある社会的な目標を実現するためには、どのような制度を設計しなければならないのか、を研究する学問である。メカニズム・デザイン理論は、様々な分野において研究されており、例えば、古典的な純粋交換経済や公共財経済だけではなく、労使の契約問題、オークション理論、臓器移植や研修医のマッチングにおいても盛んに研究が行われている。誤解を恐れずに言うのならば、様々な社会環境において、より良い結果を実現するための、制度やルール設計を考察するのがメカニズム・デザイン理論であると言って良い。本講義では、完備情報下におけるメカニズムデザイン理論の基本事項を取り上げる。

【到達目標】

修士論文作成の礎となるよう、本講義において、メカニズムデザイン理論の基本事項を徹底的に理解すること。ゲーム理論の応用分析でもあるので、ミクロ経済学 A 等で習得した技術を、研究に活かせるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成する講義資料を用いて講義を行う。ときに、受講生に意見を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	メカニズム・デザイン理論とは？
第 2 回	完備情報ゲーム理論 (1)	戦略形ゲーム、ナッシュ均衡、戦略間の支配関係、支配戦略
第 3 回	完備情報ゲーム理論 (2)	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
第 4 回	完備情報下のメカニズムデザイン (1)	ソロモン王のジレンマと定式化
第 5 回	完備情報下のメカニズムデザイン (2)	ソロモン王のジレンマとナッシュ遂行、無支配ナッシュ遂行
第 6 回	完備情報下のメカニズムデザイン (3)	ソロモン王のジレンマと部分ゲーム完全遂行
第 7 回	完備情報下のメカニズムデザイン (4)	公共財の自発的寄付ゲームとフリーライダー
第 8 回	完備情報下のメカニズムデザイン (5)	公共財のパレート効率供給とサミュエルソン条件
第 9 回	完備情報下のメカニズムデザイン (6)	公共財供給と支配戦略遂行 (クラーク・メカニズム)
第 10 回	完備情報下のメカニズムデザイン (7)	公共財供給と支配戦略遂行 (グローブズ・メカニズム)
第 11 回	完備情報下のメカニズムデザイン (8)	離散量で供給可能な公共財とメカニズムデザイン
第 12 回	メカニズムと自発的参加 (1)	公共財供給メカニズムへの自発的参加問題とは
第 13 回	メカニズムと自発的参加 (2)	自発的参加問題への「処方箋」
第 14 回	講義総括	本講義の理解度の確認とより進んだ話題の提供

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「ミクロ経済学 A」の学習内容を前提として講義を行う。ゲーム理論の基礎知識は、ギボンズ (2020) などで自主学習すること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当講師作成の講義ノート (学習支援システムにて配布)

【参考書】

· Moore, J. (1992) "Implementation, contracts, and renegotiation in environments with complete information," in Advances in Economic Theory: Sixth World Congress, vol. I, edited by J.J. Laffont, Cambridge University Press.
· 坂井豊貴, 藤中裕二, 若山琢磨 (2008)『メカニズムデザイン―資源配分制度の設計とインセンティブ』ミネルヴァ書房
· 川越敏司 (2021)『基礎から学ぶマーケット・デザイン』有斐閣
· ロバート・ギボンズ (2020)『経済学のためのゲーム理論入門』(福岡正夫, 須田伸一訳) 岩波書店
· アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラーノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第 2 版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】

教場試験 (100 %) により評価する。修士課程における研究活動において必要な基本知識で構成された試験問題で、試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

公共経済学 A を未受講であっても、公共経済学 B は受講可能です。公共経済学は、A と B で、独立した話題を取り上げるので、継続的な履修は必要ありません。

【担当教員の専門分野等】

https://researchmap.jp/read0131683 を参照のこと。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will study mechanism design theory. Mechanism design theory studies (1) what kind of economic and social conditions can be achieved by constructing decentralized economic systems and (2) what kind of institutions must be designed to achieve specific social goals. The theory has been studied in various fields, such as the classical pure exchange economy, public goods economy, labor-management contract, auction theory, organ transplantation, residency matching. In this lecture, students will learn the basic theory of mechanism design.

As a preparation for this class, students are strongly recommended to review the basics of game theory by using some intermediate-level textbook such as Gibbons. Students are required to prepare and review the content of this class for four hours per week. Evaluation will be based on the classroom examination (100%).

ECN556C1 － 1

社会保障論Ａ

小黒　一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、年金制度に関連する主要論点を、後半は医療制度に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】
年金制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（2）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（3）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年金制度（1）	ガイダンス
2	年金制度（2）	年金制度間の財政調整
3	年金制度（3）	財源調達の仕組みと問題点
4	年金制度（4）	給付水準と留意点
5	年金制度（5）	人口動態と賦課方式、所得代替率の定義と留意点、世代間格差
6	年金制度（6）	2004 年改正と課題
7	年金制度（7）	雇用形態の多様化と公的年金
8	年金制度（8）	厚生年金と共済年金の一元化
9	年金制度（9）	スウェーデンの年金制度
10	年金制度（10）	カナダの年金制度
11	年金制度（11）	イギリスの年金制度
12	年金制度（12）	社会保障・税の一体改革、2016 年改正
13	年金制度（13）	2019 年財政検証
14	年金制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
・吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016

【参考書】
① Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
②西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
③吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016
④小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020

【成績評価の方法と基準】
授業内での貢献（70 %）＋レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoom を利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%、in class contribution: 70%).

ECN556C1 － 2

社会保障論Ｂ

小黒　一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、年金制度に関連する主要論点を、後半は医療制度に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】
医療制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（2）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（3）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	医療制度（1）	ガイダンス
2	医療制度（2）	日本の医療制度の沿革、医療制度の確立・拡張期
3	医療制度（3）	医療制度の改革期
4	医療制度（4）	医療制度・政策の国際比較①（ドイツの医療制度改革）
5	医療制度（5）	医療制度・政策の国際比較②（アメリカの医療制度改革）
6	医療制度（6）	医療制度・政策の国際比較③（スウェーデンの医療制度改革）
7	医療制度（7）	医療保険制度の基本問題
8	医療制度（8）	各医療保険制度の構造と政策課題
9	医療制度（9）	医療供給制度の構造と改革の方向性
10	医療制度（10）	医療供給の改革手法
11	医療制度（11）	薬価制度・高額薬剤の現状と課題
12	医療制度（12）	医薬品の現状と改題
13	医療制度（13）	薬価制度改革と今後の方向性
14	医療制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・島崎謙治『日本の医療: 制度と政策』東京大学出版会, 2020
・小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【参考書】
① Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
②島崎謙治『日本の医療: 制度と政策』東京大学出版会, 2020
③小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020
④小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【成績評価の方法と基準】
授業内での貢献（70 %）+ レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoom を利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%、in class contribution: 70%).

ECN574C1 － 1

労働経済学Ａ

酒井　正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く力を養います．

【到達目標】
学生は，この講義を通して，基本的な労働供給・労働需要・市場均衡の理論を理解します．更に，人的資本理論や補償賃金格差といった理論についても学習し，働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付けることを最終的な目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，対面授業形式でおこないます．授業内で，文献に基づいた報告をおこなってもらう場合があります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働経済学とは
第 2 回	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
第 3 回	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
第 4 回	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
第 5 回	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
第 6 回	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
第 7 回	労働市場均衡	競争均衡，買手独占
第 8 回	実証分析の方法（1）	回帰分析
第 9 回	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
第 10 回	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
第 11 回	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
第 12 回	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
第 13 回	賃金格差・所得格差	所得格差の概観，グループ間賃金格差
第 14 回	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義で使用した資料をよく復習することが求められます．また，授業内で示された文献にも，極力，目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な時間は，4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
Borjas, G『Labor Economics 8th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2019 年）
川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017 年）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．剽窃等の不正行為については厳しく対処します．

【学生の意見等からの気づき】
修士論文等の作成の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
As an applied micro-economics, this course deals with theories of labor supply, labor demand and labor market equilibrium. It also deals topics such as human capital investment and compensation wage differentials.
The goal of this course is to learn how to analyze phenomenon in labor market with data.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based only on term paper (100%).

ECN574C1 － 2

労働経済学Ｂ

酒井　正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済学 A で学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説します．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響について，データに基づいた検討をおこないます．（取り上げるトピックの例．「介護離職」,「長時間労働」,「待機児童」等）
また，コロナ禍における労働市場のセーフティーネットについても議論します．

【到達目標】
学生が，働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に参加できるようになることを最終的な目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，対面授業形式でおこないます．授業内で，文献に基づいた報告をおこなってもらう場合があります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
第 2 回	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
第 3 回	人事の経済学（2）	相対評価，後払い賃金
第 4 回	労働市場における差別	差別の経済理論，男女間賃金格差
第 5 回	失業（1）	日本の失業の概観
第 6 回	失業（2）	失業を説明する理論
第 7 回	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析，労働災害の現状
第 8 回	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
第 9 回	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因，仕事の二極化
第 10 回	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
第 11 回	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因，介護離職問題
第 12 回	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
第 13 回	両立支援制度	女性の就業と保育サービス・育児休業
第 14 回	社会保険料事業主負担の帰着問題	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義資料をよく復習する必要があります．また，指示された文献（学術論文等）についても目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な学習時間は，4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
Boeri, T., and J. van Ours (2021) The Economics of Imperfect Labor Markets 3rd Edition, Princeton Univ Pr

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．剽窃等の不正行為については厳しく対処します．

【学生の意見等からの気づき】
・修士論文等の作成の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 労働経済学，社会保障論
＜研究テーマ＞ 就業と社会保険
＜主要研究業績＞
"Does a Wife's Employment Affect her Husband's Retirement Decision? Evidence from Japanese Longitudinal Data," (共著) Journal of International Economic Studies 35: 45-52, 2021.
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2), pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
Based on the theory learned in Labor Economics A, we discuss various topics in depth, especially focusing on labor market policies.
The goal of this course is to learn how to analyze phenomenon in labor market with data.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based only on term paper (100%).

ECN573C1 － 2

応用計量経済学 B

明城　聡

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法 (生産関数)、消費者行動 (需要関数) の分析手法を解説するとともに、政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

【到達目標】
消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージ R を用いた演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業についての説明
第 2 回	企業の生産性の推定 (1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第 3 回	企業の生産性の推定 (2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第 4 回	企業の生産性の推定 (3)	・投資ショックによる内生性の識別
第 5 回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第 6 回	演習 (1)	情報処理室にて演習
第 7 回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第 8 回	差別化された財市場 (1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第 9 回	差別化された財市場 (2)	・離散選択モデル (1)
第 10 回	差別化された財市場 (3)	・離散選択モデル (2)
第 11 回	演習 (2)	情報処理室にて演習
第 12 回	動学モデル (1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第 13 回	動学モデル (2)	・Nested Fixed Point アプローチと Two Step 法 ・離散選択モデルによる動学推定
第 14 回	動学モデル (3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
【産業組織論】
(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.
(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.
(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.
(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.
【ミクロ経済学】
(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992
(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008 年
【計量経済学】
(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.
(2) 浅野晳、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.

【成績評価の方法と基準】
課題レポートで評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1.　On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2.　Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered. Students also learn these estimation techniques and programming algorithms applied to the firm-level and product-level data analysis using R.
Preparation and review: 2hours including homework assignments
Grading: term report 100%

ECN573C1 － 2

ミクロ計量分析Ｂ

明城　聡

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法 (生産関数)、消費者行動 (需要関数) の分析手法を解説するとともに、政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

【到達目標】
消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定)、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル)、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージ R を用いた演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業についての説明
第 2 回	企業の生産性の推定 (1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第 3 回	企業の生産性の推定 (2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第 4 回	企業の生産性の推定 (3)	・投資ショックによる内生性の識別
第 5 回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第 6 回	演習 (1)	情報処理室にて演習
第 7 回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第 8 回	差別化された財市場 (1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第 9 回	差別化された財市場 (2)	・離散選択モデル (1)
第 10 回	差別化された財市場 (3)	・離散選択モデル (2)
第 11 回	演習 (2)	情報処理室にて演習
第 12 回	動学モデル (1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第 13 回	動学モデル (2)	・Nested Fixed Point アプローチと Two Step 法 ・離散選択モデルによる動学推定
第 14 回	動学モデル (3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等)】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書)】
授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
【産業組織論】
(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.
(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.
(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.
(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.
【ミクロ経済学】
(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992
(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008 年
【計量経済学】
(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.
(2) 浅野晢、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.

【成績評価の方法と基準】
課題レポートで評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1.　On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2.　Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered. Students also learn these estimation techniques and programming algorithms applied to the firm-level and product-level data analysis using R.
Preparation and review: 2hours including homework assignments
Grading: term report 100%

OTR501C1 － 1

日本語ＩＡ

清水　由美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、①フォーマルな場でテーマに沿って意見交換をする。②専門分野の論文を書くために最低限必要な日本語の基礎を固め、まとまった内容の文章を書くことに慣れる。

【到達目標】
（1）初級レベルの日本語のミスをなくす。
（2）中・上級レベルの文型と語彙を使いこなせるようになる。
（3）賛否の分かれるテーマについて、授業での話し合いにふさわしい日本語で意見交換ができるようになる。また、司会者として、そのような話し合いを運営できるようになる。
（4）事実・他者の意見・自分の意見をきちんと分けて、説得力のある意見文を書けるようになる。
（5）自分の書いた文章の間違いに気づく力を身につけ、よりよい表現を使いこなせるようになる。
（6）日本の新聞の投書欄に、意見文を投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】※本授業の実施形態は、学習支援システムの授業ページでお知らせいたします。実施形態が「未定」の回については、学習支援システムの授業ページでお知らせします。
◇資料の配信と課題の提出およびフィードバックは、学習支援システム Hoppii を利用し、オンデマンドで行う。
◇ディスカッションの準備のための情報交換は、対面もしくは学習支援システム Hoppii の授業内掲示板を利用し、同時双方向で行う。
◇ディスカッションは、対面もしくは Zoom ミーティングを利用し、同時双方向で行う。
【授業の進め方】
１．ディスカッション（＝意見交換）
①賛否の分かれそうなテーマ（学期中に３つ扱う予定）について、必要な情報を集める。＝予習
②クラスでテーマに関するキーワードや概念について、情報を交換し、お互いに理解を確認する。　※ Hoppii の授業内掲示板を利用
③内容を理解したうえで、自分の意見をまとめる。司会を担当する学生は、ディスカッションの流れを予想し、進行の計画を立てる。＝予習
④司会の進行指示に従って、ディスカッションする。　※対面もしくは Zoom ミーティング
⑤ディスカッションの中で見られた口頭表現の問題点や、司会進行について、意見や感想を交換する。＝振り返り
２．意見文執筆
⑥ディスカッションの内容に基づいて、自分の意見を 500 字程度の文章にまとめる。＝宿題
⑦お互いの意見文を読み合い、質問や助言をし、評価もする。
⑧自分の書いた原稿と、講師による修正案を読みくらべ、日本語の問題点を見つける。＝宿題
３．意見文投稿
⑨学期末に自分の書いた意見文から最もよいと思うもの１点を選び、実際に日本の新聞の投書欄に投稿する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語力確認のためのアンケート ・ディスカッションのテーマを考える
第 2 回	ディスカッションをしてみる	・簡単なテーマについてディスカッションをしてみる。 ・ディスカッションにおける司会者の役割を知る。 ・今後のディスカッションのテーマ①～③を選定する
第 3 回	意見文を書いてみる	・意見文のモデルを読み、構成を分析する。 ・第 2 回のディスカッションに基づいて意見文を書いてみる。
第 4 回	テーマ①-1	・テーマ①について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第 5 回	テーマ①-2	・ディスカッションを行う。 ・ディスカッションを終えて変わったこと、変わらなかったことをまとめる＝宿題
第 6 回	テーマ①-3	・ディスカッションの日本語について振り返る。 ・テーマ①について意見文を書く＝宿題
第 7 回	テーマ①-4	・意見文の日本語を振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第 8 回	テーマ②-1	・テーマ②について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第 9 回	テーマ②-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第 10 回	テーマ②-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第 11 回	テーマ③-1	・テーマ③について情報と知識を共有する。 ・ディスカッションの設計と準備＝宿題
第 12 回	テーマ③-2	・ディスカッションを行う。 ・意見文の執筆＝宿題
第 13 回	テーマ③-3	・ディスカッションの日本語と、意見文の日本語について振り返る。 ・意見文の完成＝宿題
第 14 回	「ベスト意見文」を選んで投書する	これまでに書いた意見文から自薦・他薦でいちばんよいものを選び、さらに推敲を重ねて完成させ、新聞に投書する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
【ディスカッションの前】
①関連情報を集め、ほかの人に説明できるように準備する。
②情報交換後に、意見をまとめ、発表できるように準備する。
③司会を担当する回は、具体的な流れを設計し、必要な準備をする。
【ディスカッションの後】
④話し合いの前後で、自分の意見がどう変わったか（変わらなかったか）を言語化する。
⑤意見文を書く。
⑥クラスメートの意見や講師からのフィードバックを受けて、意見文を完成させる。
※必要な学習時間：各回およそ 1 時間。ただし、③と⑤については 2～4 時間。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わない。必要に応じて資料を配布（配信）する。

【参考書】
『大学・大学院　留学生の日本語４　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※これは秋学期の日本語Ⅱ B でテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】
・授業への参加貢献（ディスカッションなどでの発言・司会）= 40 %
・課題文（4 回）= 40 %
・最終課題（新聞への投書）= 20 %

【学生の意見等からの気づき】
アンケートの回答数が少なく、また自由記述の意見が１つもありませんでしたが、そのこと自体が、対面ではなかったことによる満足度の低下を示していると思われます。今学期は、オンライン授業ならではの利点も生かしつつ、状況の許す限りは対面での授業を実施したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布、課題提出、情報交換などに、学習支援システム Hoppii を利用する。
・ディスカッションはできる限り対面で行うが、状況によっては Zoom ミーティングを利用する。その際はパソコンでの参加が望ましい。

【その他の重要事項】
・日本語ⅡＡ（口頭発表のための話しことばの基礎練習）も受講すること。また、秋学期には日本語ＩＢ（口頭発表の実地訓練）とⅡＢ（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
・2022 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢＡ・ⅢＢを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022 年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline (in English)】
Basic Japanese for academic speaking and writing
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. to express their opinion in discussions
− B. to host a discussion
− C. to write their opinion in an appropriate style of written Japanese
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have prepared for the coming discussion, and after the discussions, to summarize and write their opinion. Required study time is at least one hour for each class meeting.
Grading Criteria
Grading will be decided based on each reports (40%), in-class contribution(40%), and the term-end report(20%)

OTR501C1 － 2

日本語ＩＢ

清水　由美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするために、視覚資料を作成し、それを使って口頭発表をするための訓練を行う。
※春学期の**日本語Ⅱ A** では、口頭発表の「部分練習」を行った。この**ＩB** では、まとまりのある一つの発表全体の練習をする。

【到達目標】
（1）自分の研究テーマや関心のある問題について、わかりやすく説得力のある発表をするための視覚資料（おもに PPT スライド）を作成できるようになる。
（2）わかりやすく説得力のある発表をするための日本語表現と話し方を身につける。
（3）作成した視覚資料を用いて 5〜10 分程度の口頭発表をし、それに対する質疑に応じられるようになる。
（4）ほかの受講生の発表を聞き、内容について質問や意見交換ができるようになる。
（5）自分の書いた文章および自分の口頭発表の形式や内容について、問題点に気づき、修正できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】※本授業の実施形態は、学習支援システムの授業ページでお知らせいたします。実施形態が「未定」の回については、学習支援システムの授業ページでお知らせします。
◇資料配信、課題提出、フィードバックには、学習支援システム Hoppii を使用する。※オンデマンド
◇口頭発表は、対面あるいは Zoom ミーティングで行う。※同時双方向
【授業の進め方】
（1）視覚資料（スライド）の作成
①大枠のテーマについて自分で話題を見つけ、アウトラインを考えてスライドを作成する。
②講師の助言を参考に、スライドを完成させ、発表ノートを準備する。
③講師の助言を参考に、発表ノートを完成させる。
（2）口頭発表
④作成したスライドと発表ノートを使って、３〜５分程度の口頭発表を行う。
⑤ほかの受講生の発表を聞き、内容についての質疑と、形式についてのコメントをする。発表者は、質疑に応じる。
（3）最終課題
⑥自分でテーマを決め、アウトラインを作成する。
⑦講師の助言を参考に、スライドと発表ノートを作成し、発表の練習をする。
⑧発表をして／発表を聞いて、質疑応答をする。
※最終課題のテーマは、**日本語Ⅱ B**（レポート作成）の最終課題と同じものでよい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・近況報告（いつどこで何がどうしたか、なぜそうなったかを、わかりやすく、かつ聞き手の興味を引き付けるように話す）

第 2 回	・スライドに使う日本語表現の確認（箇条書きの復習など） ・対照的な事象をわかりやすく述べる	「コロナ禍の前と後」スライド作成
第 3 回	・言いたいことに合わせて、情報提示の効果的な順番を考える ・対比を明確に伝える話し方を意識する ・箇条書きのスライドを見せながら話す	「コロナ禍の前と後」スライドの修正と発表ノートの作成
第 4 回	「コロナ禍の前と後」発表会＃１	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第 5 回	「コロナ禍の前と後」発表会＃２	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第 6 回	ここまでの振り返りと息抜き	・授業の進め方や内容について意見交換 ・「○○川柳」などを題材にフリートーク
第 7 回	・事実と伝聞と自分の意見をきちんと分ける ・引用のマナーを守って話す ・他者の意見を簡潔にまとめて紹介する ・他者の意見に対する賛否を述べる	「日本の若者に言いたいこと」アウトラインとスライドの準備、ノートの作成
第 8 回	発表の準備と練習	スライドと発表ノートの修正・完成、発表の練習
第 9 回	「日本の若者に言いたいこと」発表会＃１	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が順に担当する。
第 10 回	「日本の若者に言いたいこと」発表会＃２	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。
第 11 回	最終発表「日本の○○に対する違和感」の準備	テーマに沿って話題を決める ⇒ アウトラインを作成 ⇒ 講師の助言を受けてスライド作成・発表の準備
第 12 回	最終発表「日本の○○に対する違和感」の準備	スライドとノートの修正・完成、発表の練習
第 13 回	「日本の○○に対する違和感」発表会＃１	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。
第 14 回	・「日本の○○に対する違和感」発表会＃２ ・授業評価アンケート	・互いの発表を聞き、質疑応答 ※司会進行も、学生が分担する。 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
毎回の課題について、どうすればわかりやすく伝えることができるかを考えてスライドと発表ノートを作成し、実際に時計と鏡を見ながら、声に出して話す練習をしてくること。各回２～４時間程度必要。

【テキスト（教科書）】
テキストは使用しない。必要な資料や課題の説明は、オンラインで配信する。

【参考書】
『大学・大学院　留学生の日本語４　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※日本語Ⅱ B（レポート作成）で教科書として使用する本である。書くためのテキストではあるが、数字の述べ方などの基本は発表にも役立つので、入手して参照すること。

【成績評価の方法と基準】
・各回の課題（提出と内容）＝ 50 %
・授業への参加貢献（発表会での発言など）＝ 20 %
・最終発表（資料と口頭発表）＝ 30 %

【学生の意見等からの気づき】
・口頭発表と視覚資料作成の基礎は、春学期の特別講義Ⅱ A で行いました。秋学期のこのクラスでは、課題の内容を各自の興味に即したものにしつつ、日本語の精度を高め、「聞く人に届く発表」をめざします。
・2021 年度は、最終課題のテーマを日本語Ⅱ B(レポート作成）の最終課題と同じ「日本の○○に対する違和感」としました。これによって、準備の負担を減らすことができたとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化することができたと思います。今年度も、Ⅰ B とⅡ B の最終課題は共通のテーマとします。

【学生が準備すべき機器他】
各回の授業内容の伝達や課題の指示は、学習支援システム Hoppii で行う。発表会はできる限り対面で実施するが、状況によっては Zoom ミーティングを利用する。その際は PC の利用が望ましい。

【その他の重要事項】
・春学期の日本語ⅡＡ（＝口頭発表と視覚資料作成の基礎）を、必ず受講しておくこと。
・話しことばと書きことばの違いを明確に意識するためにも、日本語ⅡＢ（＝レポート作成）を同時に受講することが望ましい。
・2022 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語Ⅲ A・Ⅲ B を受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022 年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline (in English)】
Advanced Japanese for academic presentation
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
- A.to make slides for a clear and compelling presentation
- B.to make a clear and compelling presentation
- C.to ask/answer the questions about the presentation

Learning activities outside of classroom
Before each presentation session, students will be expected to spend two to four hours to prepare slides, presentation notes and practice making presentation.
Grading Criteria
Grading will be decided based on assignment(slides, notes)(50%), in-class contribution(20%) and the final presentation(slides, notes, performance)(30%)

OTR501C1 － 1

日本語Ⅱ A

清水　由美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、①口頭発表のための視覚資料（スライド、レジュメ）を作成し、②それを使って口頭発表をするための基礎的な訓練を行う。
※この**日本語Ⅱ A** では、口頭発表に必要なさまざまな要素を個別に取り上げて、部分的な練習を行う。ひとまとまりの発表全体の練習は、秋学期の**日本語Ⅰ B** で行う。

【到達目標】
（1）書き言葉と話し言葉の違いが大きい日本語の特性を理解し、両者を適切に使いこなせるようになる。
（2）視覚資料（レジュメやスライド）の作成に必要な日本語表現と、提示のし方を身につける。
（3）口頭発表に必要な日本語表現と、適切な話し方を身につける。
（4）作成した視覚資料を使って、3分程度の口頭発表ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】※本授業の実施形態は、学習支援システムの授業ページでお知らせいたします。実施形態が「未定」の回については、学習支援システムの授業ページでお知らせします。
◇資料の配信、課題の提出とフィードバックには、学習支援システム Hoppii を利用する。※オンデマンド
◇口頭発表の回は、対面もしくは Zoom ミーティングを利用する。※同時双方向
【授業の進め方】
①ひとまとまりの口頭発表の「部分練習」として、注意すべき点ごとにスライド作成と発表ノートの作成を課す。
②講師のフィードバックを受けて、各回の課題のスライドと発表ノートを修正し、完成させ、口頭発表の練習をする。
③クラスで発表をし／発表を聞き、質疑応答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の目的と進め方の説明 ・自己紹介 ・日本語能力の確認（日本語Ⅰ A と共通のアンケート）
第 2 回	話しことばと書きことばの違い①	2種類の自己紹介 ・クラスの前で話す ・スライドにまとめる（箇条書き）
第 3 回	話しことばと書きことばの違い②	友人紹介（準備） ・インタビューをしてメモを作成する。 ・見やすいスライドを作る。 ・スライドを見て話す練習。
第 4 回	話しことばと書きことばの違い③＃発表	友人紹介 ・スライドを見せながら話す。
第 5 回	画像を説明する①	「よくわからない写真」を 1 枚選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第 6 回	画像を説明する②	聞き手の興味をひきつけるための情報の取捨と提示の順番を考える。（スライドと発表ノートの完成、口頭発表の練習）
第 7 回	画像を説明する③＃発表	・「よくわからない写真」を見せて説明する。 ・発表について質疑応答をする。
第 8 回	列挙する①	「コロナ禍をめぐるあれこれ」というテーマで、思いつくことを列挙し、まとめる。（スライドと発表ノートの準備）
第 9 回	列挙する②	多くのことを述べるときのわかりやすい話の運び方を意識する。（スライドと発表ノートの修正・完成、発表の練習）
第 10 回	列挙する③＃発表	「コロナ禍をめぐるあれこれ」について、発表をする。 ・発表について質疑応答をする。
第 11 回	数字の意味を伝える①	・興味を引くデータ（グラフや表）を 1 点選び、それについてわかりやすく説明する。（スライドと発表ノートの準備）
第 12 回	数字の意味を伝える②	そのデータの持つ意味をわかりやすく伝える。（スライドと発表ノートの完成、口頭発表の練習）
第 13 回	数字の意味を伝える③＃発表	・「興味を引くデータ」を紹介し、それについて説明する。 ・発表について質疑応答をする。
第 14 回	期末試験とまとめ	・学期中に学んだことが理解できているかどうかを確認するための筆記試験 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 1～2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
テキストは使わないが、下の参考書②を準備しておくことを強く勧める。

【参考書】
①『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習　言い換え、書き換え』（鎌田美千子・仁科浩美、スリーエーネットワーク）
②『大学・大学院　留学生の日本語 4　論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※②は、秋学期の日本語Ⅱ B（レポート）でテキストとして使うので、今のうちに買っておくことを勧める。

【成績評価の方法と基準】
・話し合いへの参加貢献　20 %
・各回の課題と発表　50 %
・期末試験　30 %

【学生の意見等からの気づき】
2021 年度のこのクラスでは、とくに前半の発表内容が、クラスで似たようなものばかりになってしまいました。発表に際して注意してほしいポイントを意識するあまり、講師がテーマを限定しすぎたためかもしれません。今年度は、テーマ選定の枠をゆるめ、自由な発想を尊重したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
・資料配布・課題提出・意見交換などに学習支援システム Hoppii を利用する。
・口頭発表はなるべく対面で行うが、状況によっては Zoom ミーティングを利用するため、PC の用意が望ましい。

【その他の重要事項】
・日本語ⅠA（ディスカッションとアカデミック・ライティングの基礎）も受講すること。また、秋学期には日本語ⅠB（口頭発表の実践訓練）とⅡB（レポート執筆の訓練）を受講することが望ましい。
・2022 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語義ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法

＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022 年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline (in English)】
Basic Japanese for academic presentation
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A.to make slides for a simple and clear explanation about a topic
− B.to make a simple and clear explanation about a topic
− C.to ask/answer the questions about the presentation
Learning activities outside of classroom
Before each presentation session, students will be expected to spend one to two hours to prepare a slide, presentation notes and practice making presentation.
Grading Criteria
Grading will be decided based on each assignments and performance(50%), in-class contribution(20%), and the term-end examination(30%)

OTR501C1 － 2

日本語Ⅱ B

清水　由美

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
日本語を母語としない留学生が、日本語で専門分野のレポート・論文を書くために必要な文章の構成を学び、実際にレポートを書き上げる。

【到達目標】
（1）わかりやすく説得力のあるレポート・論文を書くための、日本語の表現や文章構成を身につける。
（2）論理的構成の資料を、十分な速さで目的に沿って読み、理解できるようになる。
（3）自分の研究テーマや関心のある問題について、明解で説得力のあるレポート（図表や資料を別にして 3,000 字程度）を書く。
（4）ほかの人が書いた文章を、一定の速さで、かつ、批判的に読むことができるようになる。
（5）自分の書いた日本語の問題点に気づき、それを修正することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
【授業の形態】※本授業の実施形態は、学習支援システムの授業ページでお知らせいたします。実施形態が「未定」の回については、学習支援システムの授業ページでお知らせします。
◇資料の配信、課題の提出は、学習支援システム Hoppii を利用する。※オンデマンド
◇各課の質疑応答と、課題のフィードバックは、対面もしくは Zoom ミーティングで行う。※同時双方向
【授業の進め方】
典型的な論文構成の流れに沿って、序論から結論および参考文献リストにいたるまでの、各部でよく使われる日本語の文型・表現と展開パターンを学ぶ。各回の授業の流れは、原則として以下のとおり。最後に 3,000 字程度のレポートを書いて提出する。
（1）テキストの指定範囲と補足資料の読解・視聴
（2）予習確認クイズとフィードバック、質疑応答
（3）課題文の作成・提出
（4）提出した課題文のフィードバック：講師による修正案と読みくらべ、自分が書いた文章の問題点を見つける訓練
※各回の課題文の目的は「形式の習得」であり、その内容は自由である。各自、最終レポートのテーマを早めに決め、そのテーマに沿った内容で少しずつ課題文を書いていくことを勧める。最後に全体をまとめて 1 本の論文とすればよいからである。
※なお最終レポートのテーマは、日本語Ⅰ B（口頭発表）の最終発表のテーマ「日本の○○に対する違和感」と同じものにすることを勧める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：その他・未定/other, undecided

回	テーマ	内容
第 1 回	・オリエンテーション ・テーマを考える	・授業の目的と進め方の説明 ・レポートのテーマを考える【＝宿題】
第 2 回	・テキスト 1、2 課：作文の基本 ・テーマ相談会	・レポートや論文における書きことばの基本を確認する。 ・テーマについて助言し合う。

第 3 回	・テキスト 11 課：引用 ※論文執筆のマナーとして、「引用」はとても重要なので、先に 11 課を学習する。	・引用のマナーを学ぶ ・文献リスト作成＝宿題 ・引用文を書く＝宿題
第 4 回	・テキスト 3 課：課題の提示 ・前回宿題のフィードバック	・課題の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 5 回	・テキスト 4 課：目的の提示 ・前回宿題のフィードバック	・目的の提示文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 6 回	・テキスト 5 課：定義と分類 ・前回宿題のフィードバック	・定義と分類の文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 7 回	・テキスト 6 課：図表の提示 ・前回宿題のフィードバック	・必要な図表を探し（作成し）、提示する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 8 回	・テキスト 7 課：変化の形容 ・前回課題のフィードバック	・データを説明する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 9 回	・テキスト 8 課：対比と比較 ・前回課題のフィードバック	・対比／比較を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 10 回	・テキスト 9 課：原因の考察 ・前回課題のフィードバック	・原因を考察する文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 11 回	・テキスト 10 課：列挙 ・前回課題のフィードバック	・序論～本論の中で列挙を含む文を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 12 回	・テキスト 12 課：同意と反論 ・前回課題のフィードバック	・先行研究を要約して引用し、それに対する意見を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 13 回	・テキスト 13-14 課：帰結、結論の提示 ・前回課題のフィードバック	・帰結あるいは結論を含む文章を書く＝宿題 ・宿題とその添削例を読み、修正点を見つける。
第 14 回	・レポート提出前最終相談会 ・レポート提出 ・授業評価アンケート	・おおよその完成稿を持ち寄り、お互いに読み合い、助言し合う。 ・レポートの完成と提出 ・授業評価アンケート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 1～2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
『大学・大学院留学生の日本語④論文作成編』（アカデミック・ジャパニーズ研究会編著、アルク）
※各回の予習確認クイズは、このテキストの内容から出題する。必ず手もとに用意し、事前に指定された個所を期日までに読んでおくこと。

【参考書】
なし。

【成績評価の方法と基準】
・予習確認クイズ＝ 20 %
・授業への参加貢献＝ 10 %
・各回の課題文＝ 50 %
・最終レポート＝ 20 %

【学生の意見等からの気づき】
・2021 年度はすべてオンライン・オンデマンドで行い、同時双方向でのやりとりはありませんでしたが、メンバーは原則として日本語ＩＢと重なるため、交流と意思疎通は、ＩＢのほうで補うことができました。このクラスの課題については、対面授業よりもむしろオンライン・オンデマンドのほうが十分なフィードバックができ、学生が自己の日本語についての問題点を意識化するのに役立ったようです。対面授業が再開できた場合でも、オンデマンドでのこうした利点は最大限生かしたいと思います。
・2021 年度は、最終課題のテーマを日本語ⅠB(口頭発表）の最終課題と同じ「日本の○○に対する違和感」としました。これによって、準備の負担を減らすことができたとともに、話し言葉と書き言葉の違いをより明確に意識化することができたと思います。今年度も、ⅠBとⅡBの最終課題は共通のテーマとします。

【学生が準備すべき機器他】
課題の指示・提出に、学習支援システム Hoppii を利用する。

【その他の重要事項】
・春学期の日本語ⅠA・ⅡA修了と同程度の日本語力を有する学生を対象とする。
・日本語ⅠB（口頭発表と視覚資料作成）の同時受講が望ましい。書きことばと話しことばの違いを意識化するためである。（最終課題のテーマは、1BとⅡBで共通である。）
・2022 年度に修士論文を提出する予定の学生は、日本語ⅢA・ⅢBを受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語、日本語教育
＜研究テーマ＞母語話者が意識化しにくい文法
＜主要研究業績＞
・『日本語不思議』（2022 年、創意市集、林巍翰・琉璃訳）
・『すばらしき日本語』（2020 年、ポプラ新書）
・『日本語びいき』（2018 年、中公文庫）
・『辞書のすきま　すきまの言葉―あんな言葉やこんな言葉、英語では何と言う？』（2009 年、研究社）

【Outline (in English)】
Advanced Japanese for academic writing
Learning Objectives
By the end of the course, students should be able to do the followings:
− A. to acquire the necessary knowledge about Japanese expressions and sentence structure for writing clear and persuasive reports
− B. to write a clear and compelling report
Learning activities outside of classroom
Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. You have to take a quiz to check your understanding. Your required study time is at least one hour for each class meeting.
After each class meeting, students will be assigned to write a short essay, which will take one to two hours.
Grading Criteria
Grading will be decided based on quiz(20%), each assignment (50%), in-class contribution(10%), and the term-end paper(20%)

OTR502C1 － 1

日本語Ⅲ A

大場　理恵子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文作成に活かす（対象：留学生）。

【到達目標】
（1）論文で使用されている文型・表現・語彙を理解し、自分の修士論文執筆に活用できるようになる。
（2）自分の修士論文の概要を他者が理解できるように、適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoom によるオンライン授業を行います。
①講義と演習によって他者の論文で使用されている日本語の文型・表現・語彙などを分析し、発表する。
②各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
③学科での修論発表ワークショップに備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論の構想を書く
第 2 回	論文の構成・引用の仕方	①専門論文の構成を分析・理解する ②専門分野の引用の仕方を理解する
第 3 回	論文表現の分析＜序論－研究対象と背景＞	①序論の研究対象と背景の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第 4 回	論文表現の分析＜序論－先行研究の提示＞	①前回の分析を発表する ②序論の先行研究の提示部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 5 回	論文表現の分析＜序論－研究目的と研究行動の概略＞	①前回の分析を発表する ②序論の研究目的と研究行動の概略部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 6 回	論文表現の分析＜本論－研究方法＞	①本論の研究方法部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第 7 回	論文表現の分析＜本論－考察＞	①前回の分析を発表する ②本論の考察部分の書き方を理解する ③論文の該当部分を分析する
第 8 回	ワークショップ用発表練習 1	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 9 回	ワークショップ用発表練習 2	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 10 回	ワークショップ用発表練習 3	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 11 回	ワークショップ用発表練習 4	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 12 回	論文表現の分析＜結論＞	①結論部分の書き方を理解する ②論文の該当部分を分析する
第 13 回	論文表現の分析＜結論＞	①前回の分析を発表する ②文献リストの書き方を理解する
第 14 回	まとめ	前期の学習をふりかえり、夏休みの目標を決める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
①各授業の準備および授業後の課題に取り組む
②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】
①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009 年、2750 円
②適宜プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
小テスト（20 %）授業内課題を含む平常点（50 %）宿題課題（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
修論作成につながる内容以外にも、日本語運用に関する授業（ビジネス場面におけるコミュニケーション等）を学生のニーズに応じて行います。また、修士 2 年生同士のコミュニケーションの機会になるような場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出のために学習支援システムを利用します。また、一部 Zoom 授業の可能性がありますので、受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）と Wi-Fi 環境を準備してください。

【その他の重要事項】
・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1 年生は受講できません）
・秋学期の日本語Ⅲ B を受講することによって各自の修論完成に繋がるため、連続して受講すること。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語教育・日本語表現教育
＜研究テーマ＞日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
＜主要研究業績＞
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房,2012
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現（第 2 版）』ひつじ書房,2014
「大学教育における日本語ライティング指導の実践の動向」『言語文化と日本語教育』(51),2016

【Outline (in English)】
【Course outline and objectives】 You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare for the class/do assignment.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following
Quiz: 20%,in class contribution: 50%,homework:30 %

OTR502C1 － 2

日本語Ⅲ B

大場　理恵子

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
専門分野での修士論文作成と口頭発表に必要な日本語力を身に付け、自分の修士論文を作成・修正する（対象：留学生）

【到達目標】
（1）論文で使用される文型・表現・語彙を適切に使用し、自分の修士論文を執筆する。
（2）自分の修士論文の概要を他者が理解できるように適切な日本語で発表できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。以下の内容について、基本的には対面授業を行います。状況と必要に応じて、Zoom によるオンライン授業を行います。
①各自の修論作成を進捗させ、自己チェック、クラスでの他者チェック、教員によるチェックによって修正する。
③学科での修論発表ワークショップおよび修論審査に備えて、発表練習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①授業の目的や方法を理解する ②各自の修論執筆の進捗と今後の計画を確認する
第 2 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 3 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 4 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 5 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 6 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 7 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 8 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 9 回	ワークショップ用発表練習	①学科でのワークショップに備えて発表練習する ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 10 回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 11 回	ワークショップ用発表練習	①前回の練習を活かしてよりよい発表をする ②お互いにアドバイスしあう ③適切な日本語に修正する
第 12 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 13 回	修論執筆フォロー	各自執筆した部分を内容・文型・表現・語彙等、自己チェック・他者チェック・教師チェックによって修正する
第 14 回	まとめ	学習を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
①各自の修論作成を進め、執筆・作成したものをプリントアウトしておく
②該当する授業の前に、修論発表の準備・練習をしておく

【テキスト（教科書）】
①「留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック」二通信子・大島弥生ほか、東京大学出版会、2009 年、2750 円
②適宜プリントを配布する。

【参考書】
必要に応じて、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
授業内課題を含む平常点（50 %）宿題（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
修論作成につながる内容以外にも、日本理解および日本語運用に関する授業内容を学生のニーズに応じて行います。

【学生が準備すべき機器他】
課題提出のために学習支援システムを利用します。また、一部 Zoom 授業の可能性がありますので、受講が可能なパソコン（カメラ・マイク機能含む）と Wi-Fi 環境を準備してください。

【その他の重要事項】
・今年度に修士論文を提出する予定の学生のみが受講できます（1 年生は受講できません）
・春学期の日本語ⅢＡを受講しておくことが必要。未受講の場合は初回に相談すること

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞日本語教育・日本語表現教育
＜研究テーマ＞日本語学習者および母語話者を対象とする効果的な日本語表現法教育
＜主要研究業績＞
『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション』ひつじ書房,2012
『ピアで学ぶ大学生の日本語表現（第 2 版）』ひつじ書房,2014
「大学教育における日本語ライティング指導の実践の動向」『言語文化と日本語教育』(51),2016

【Outline (in English)】
【Course outline and objectives】 You can acquire the Japanese language skills for master's thesis writing and oral presentation, and utilize it for your own master's thesis writing.
【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare for the class/do assignment.
【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following
in class contribution and assignment: 50%, homework:50 %

ECN601C1 － 1

経済学演習Ｉ Ａ

馬　欣欣

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
中国経済論、労働経済学、開発経済学
＜研究テーマ＞
1. 中国所得格差と貧困の実証研究
2. 中国社会保障の経済分析
3. 中国雇用と賃金に関する実証研究
＜主要研究業績＞
1.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer Nature.
2. Ma, X. (2021) Female Employment and Gender Gap in China. Springer Nature.
3. Ma, X. and Li, S. (2022)“Self-employment in Urban China: Entrepreneurship or Disguised Unemployment?”China & World Economy, 30(1),166-195.
4.Ma, X. (ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan.
5.Ma, X. (2018)“Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” China Economic Review, 47, 96-115.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

馬　欣欣

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
中国経済論、労働経済学、開発経済学
＜研究テーマ＞
1. 中国所得格差と貧困の実証研究
2. 中国社会保障の経済分析
3. 中国雇用と賃金に関する実証研究
＜主要研究業績＞
1.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer Nature.
2. Ma, X. (2021) Female Employment and Gender Gap in China. Springer Nature.
3. Ma, X. and Li, S. (2022)“Self-employment in Urban China: Entrepreneurship or Disguised Unemployment?”China & World Economy, 30(1),166-195.
4.Ma, X. (ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan.
5.Ma, X. (2018)“Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” China Economic Review, 47, 96-115.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習ＩＡ

胥　鵬

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature.　In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria:　aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

胥　鵬

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature.　In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria:　aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習Ｉ Ａ

近藤　章夫

備考（履修条件等）：2021 **年度以降入学者**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

近藤　章夫

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習Ｉ Ａ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習Ⅰ A

松波　淳也

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs
＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第 6 章所収，2019 年
・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007 年
・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/ 4，2005 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

松波　淳也

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs
＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第 6 章所収，2019 年
・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007 年
・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/ 4，2005 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習ＩＡ

酒井　正

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

酒井　正

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習Ｉ Ａ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習Ｉ Ａ

八木橋　毅司

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/112/0011112/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

八木橋　毅司

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/112/0011112/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習Ｉ Ａ

菅　幹雄

備考（履修条件等）：**2021 年度以降入学者**

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞経済センサス、物価指数
＜主要研究業績＞『アメリカ経済センサス研究』慶応義塾大学出版会、『物価指数の測定論』日本評論社

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習ＩＢ

菅　幹雄

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞経済センサス、物価指数
＜主要研究業績＞『アメリカ経済センサス研究』慶応義塾大学出版会、『物価指数の測定論』日本評論社

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 1

経済学演習Ｉ Ａ

高橋　秀朋

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての基本的な知識を習得し、論文作成の準備を行う。

【到達目標】
基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法やプレゼンの方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
参照： http://sites.google.com/site/htakahashi141a/

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN601C1 － 2

経済学演習Ｉ Ｂ

高橋　秀朋

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての応用的な知識を習得し、論文作成の準備をさらに進める。

【到達目標】
応用文献の輪読・報告を通じ、自身の研究テーマを絞り込む。また、分析手法についての理解をさらに深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習方式とする。研究テーマに関連した応用知識の習得のために標準的なテキストを輪読する、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などが考えられる。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究の基づき、研究テーマを確認する
第 2 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 3 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 4 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 5 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 6 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 7 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 8 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 9 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 10 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 11 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 12 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 13 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	最終報告	1 年目のまとめとしての研究報告を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
研究テーマに沿った標準的なテキストや応用的な先行文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
参照： http://sites.google.com/site/htakahashi141a/

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習ⅡA

池上　宗信

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
① “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries? ” *Journal of Risk and Insurance*. Volume 88, Issue 2, pp. 293-324. 2021.
② “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
③ “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習Ⅱ B

池上　宗信

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
① “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries? ” *Journal of Risk and Insurance*. Volume 88, Issue 2, pp. 293-324. 2021.
② “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
③ “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習ⅡA

酒井　正

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形態とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習Ⅱ B

酒井　正

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習ⅡA

菅　幹雄

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞経済センサス、物価指数
＜主要研究業績＞『アメリカ経済センサス研究』慶応義塾大学出版会、『物価指数の測定論』日本評論社

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習ⅡB

菅　幹雄

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞経済統計
＜研究テーマ＞経済センサス、物価指数
＜主要研究業績＞『アメリカ経済センサス研究』慶応義塾大学出版会、『物価指数の測定論』日本評論社

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習ⅡA

菅原　琢磨

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞医療経済、社会保障論、医薬品・医療機器の産業組織論
＜研究テーマ＞医療保険制度、介護保険制度、医療提供体制、医薬品・医療機器政策
＜主要研究業績＞
『薬価の経済学』（小黒一正との共編著、日本経済新聞社（2018））
共著 Predictors of (in)efficiencies of Healthcare Expenditure Among the Leading Asian Economies – Comparison of OECD and Non-OECD Nations. Risk Management and Healthcare Policy . Dove Press Ltd 13, 2261-2280. 2020/10/21 10.2147/RMHP.S266386.
共著 Cost-effectiveness and resource allocation (CERA) 18 years of evolution: maturity of adulthood and promise beyond tomorrow. Cost Effectiveness and Resource Allocation . Springer Nature 18/ 15 2020/04/02 1478-7547 10.1186/s12962-020-00210-2.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習ⅡB

菅原　琢磨

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞医療経済、社会保障論、医薬品・医療機器の産業組織論
＜研究テーマ＞医療保険制度、介護保険制度、医療提供体制、医薬品・医療機器政策
＜主要研究業績＞
『薬価の経済学』（小黒一正との共編著、日本経済新聞社（2018））
共著 Predictors of (in)efficiencies of Healthcare Expenditure Among the Leading Asian Economies – Comparison of OECD and Non-OECD Nations. Risk Management and Healthcare Policy . Dove Press Ltd 13, 2261-2280. 2020/10/21 10.2147/RMHP.S266386.
共著 Cost-effectiveness and resource allocation (CERA) 18 years of evolution: maturity of adulthood and promise beyond tomorrow. Cost Effectiveness and Resource Allocation . Springer Nature 18/ 15 2020/04/02 1478-7547 10.1186/s12962-020-00210-2.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習Ⅱ A

武田　浩一

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/17/0001629/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習Ⅱ B

武田　浩一

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/17/0001629/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習Ⅱ A

武智　一貴

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001901/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習Ⅱ B

武智　一貴

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/20/0001901/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習Ⅱ A

馬　欣欣

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
中国経済論、労働経済学、開発経済学
＜研究テーマ＞
1. 中国所得格差と貧困の実証研究
2. 中国社会保障の経済分析
3. 中国雇用と賃金に関する実証研究
＜主要研究業績＞
1.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer Nature.
2. Ma, X. (2021) Female Employment and Gender Gap in China. Springer Nature.
3. Ma, X. and Li, S. (2022)“Self-employment in Urban China: Entrepreneurship or Disguised Unemployment?”China & World Economy, 30(1),166-195.
4.Ma, X. (ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan.
5.Ma, X. (2018)“Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” China Economic Review, 47, 96-115.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習Ⅱ B

馬　欣欣

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究指導①	参考文献の引用およびまとめ方
第 5 回	修士論文の研究指導②	実証分析の演習①
第 6 回	修士論文の研究指導③	実証分析の演習②
第 7 回	修士論文の研究指導④	実証分析の演習③
第 8 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点および修正案をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の初稿を修正し論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間とする。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
中国経済論、労働経済学、開発経済学
＜研究テーマ＞
1. 中国所得格差と貧困の実証研究
2. 中国社会保障の経済分析
3. 中国雇用と賃金に関する実証研究
＜主要研究業績＞
1.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer Nature.
2. Ma, X. (2021) Female Employment and Gender Gap inChina. Springer Nature.
3. Ma, X. and Li, S. (2022) “Self-employment in Urban China:Entrepreneurship or Disguised Unemployment?” China & World Economy,30(1),166-195.
4.Ma, X. (ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Palgrave Macmillan.
5.Ma, X. (2018) “Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” China Economic Review, 47,96-115.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master’s theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student’s own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習ⅡA

松波　淳也

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs
＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第 6 章所収，2019 年
・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007 年
・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/ 4，2005 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習Ⅱ B

松波　淳也

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs
＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第 6 章所収，2019 年
・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007 年
・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/ 4，2005 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習ⅡA

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習ⅡB

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

経済学演習ⅡA

明城　聡

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形態とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	先行研究と自らの研究を比較検討⑤	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 7 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	研究テーマ、分析方法の再検討	修士ワークショップでの指摘に基づく改善点をまとめる
第 14 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1.　On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2.　Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 2

経済学演習Ⅱ B

明城　聡

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の研究報告⑤	修士論文にむけた研究報告を行う
第 7 回	修士論文の研究報告⑥	修士論文にむけた研究報告を行う
第 8 回	修士論文の研究報告⑦	修士論文にむけた研究報告を行う
第 9 回	修士論文の研究報告⑧	修士論文にむけた研究報告を行う
第 10 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 11 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。
第 12 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる
第 13 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 14 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【【担当教員の専門分野等】】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
（Course outline）
Students will acquire applied knowledge about writing master's theses and further prepare for thesis writing.
（Learning Objectives）
Students will narrow down their own research themes through reading and reporting on applied literature. In addition, students will further deepen their understanding of analytical methods.
（Learning activities outside of classroom）
Students will make a resume of their problem awareness, analysis methods, and results (findings and implications) on standard texts and basic literature. Students will also prepare a research note on their own problem consciousness and analysis methods for their master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
The overall evaluation of the presentation, its preparation, and Term Paper (only when required) will be based on the following criteria: aptitude for literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, and appropriateness of the student's own problem awareness and analytical methods.

ECN602C1 － 1

論文指導Ⅱ A

松波　淳也

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第 7 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs
＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第 6 章所収，2019 年
・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007 年
・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/ 4，2005 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis.
（Learning Objectives）
Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.
（Learning activities outside of classroom）
While comparing your own research with previous research, write a resume of your problem consciousness, analysis method, and results (findings and implications). Students will also prepare research notes on their own problem consciousness and analytical methods for their master's thesis. Writing the master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN603C1 － 1

修士ワークショップA

松波　淳也

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
6 月下旬または 7 月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プリゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 2 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 3 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 6 回	修士論文中間発表（第１回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs
＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第 6 章所収，2019 年
・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007 年
・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/ 4，2005 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report.
（Learning Objectives）
Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.
（Learning activities outside of classroom）
Carry out daily research and writing activities for the preparation of the master's thesis. Prepare for the interim report and work on the post-event discussion and feedback to the master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score (including workshop presentation and comments)

ECN602C1 － 2

論文指導Ⅱ B

松波　淳也

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 7 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs
＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第 6 章所収，2019 年
・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007 年
・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/ 4，2005 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis.
（Learning Objectives）
Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.
（Learning activities outside of classroom）
Students are required to write a master's thesis by summarizing the results of their own research in a resume.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN603C1 － 2

修士ワークショップＢ

松波　淳也

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科　学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。
本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。
「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生 (修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む) が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。
また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。
授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第２回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】
特にないが、各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境経済学
＜研究テーマ＞循環型社会形成，SDGs
＜主要研究業績＞・「持続可能な国際的循環型社会の構築に向けて」，星野智編著『グローバル・エコロジー』，中央大学出版部，第 6 章所収，2019 年
・「国際的循環型社会形成の可能性」，『大原社会問題研究所雑誌』580，2007 年
・「廃棄物管理政策の経済手法に関する覚書」『経済志林』72/ 4，2005 年

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report.
（Learning Objectives）
Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.
（Learning activities outside of classroom）
Carry out daily research and writing activities for the preparation of the master's thesis. Prepare for the interim report and work on the post-event discussion and feedback to the master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score (including workshop presentation and
comments)

ECN602C1 － 2

論文指導Ⅱ B

濱秋　純哉

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 7 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
公共経済学・応用計量経済学
< 研究テーマ>
家計行動のミクロ計量分析
< 主要研究業績>
(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2019, “The intra-family division of bequests and bequest motives: Empirical evidence from a survey on Japanese households,” Journal of Population Economics, Vol.32(1), pp.309 － 346.
(2) 上野綾子・濱秋純哉，2017 年，「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金，労働時間，離職率に与えた影響」，『医療経済研究』，Vol.29(1)，33 頁-57 頁。
(3) Hamaaki, Junya, 2013, “The pension system and household consumption and saving behavior,” Public Policy Review, Vol.9(4), pp.687-716.
(4) Hamaaki, Junya, Yasushi Iwamoto, 2010, “A reappraisal of the incidence of employer contributions to social security in Japan,” Japanese Economic Review, Vol.61(3), pp.427-441.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master’s thesis.
（Learning Objectives）
Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.
（Learning activities outside of classroom）
Students are required to write a master’s thesis by summarizing the results of their own research in a resume.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN603C1 － 2

修士ワークショップＢ

濱秋　純哉

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科　学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。
本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。
「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生 (修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む) が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。
また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。
授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第２回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】
特にないが、各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
公共経済学・応用計量経済学
< 研究テーマ>
家計行動のミクロ計量分析
< 主要研究業績>
(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2019, “The intra-family division of bequests and bequest motives: Empirical evidence from a survey on Japanese households,” Journal of Population Economics, Vol.32(1), pp.309 – 346.
(2) 上野綾子・濱秋純哉，2017 年，「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金，労働時間，離職率に与えた影響」，『医療経済研究』，Vol.29(1)，33 頁-57 頁。
(3) Hamaaki, Junya, 2013, “The pension system and household consumption and saving behavior,” Public Policy Review, Vol.9(4), pp.687-716.
(4) Hamaaki, Junya, Yasushi Iwamoto, 2010, “A reappraisal of the incidence of employer contributions to social security in Japan,” Japanese Economic Review, Vol.61(3), pp.427-441.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will write and revise his/her master’s thesis through individual guidance and from the second workshop report.
（Learning Objectives）
Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master’s Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.
（Learning activities outside of classroom）
Carry out daily research and writing activities for the preparation of the master’s thesis. Prepare for the interim report and work on the post-event discussion and feedback to the master’s thesis.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score (including workshop presentation and
comments)

ECN602C1 － 1

論文指導Ⅱ A

杉浦　未樹

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についての高度な知識や分析手法を習得し、修士論文の端緒となる研究報告を行う。

【到達目標】
研究テーマに関わる文献のサーベイを行うとともに、修士論文全体のアウトラインを設定し、そのうちの一部について第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文について	学位論文としての修士論文
第 2 回	先行研究と自らの研究を比較検討①	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 3 回	先行研究と自らの研究を比較検討②	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 4 回	先行研究と自らの研究を比較検討③	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 5 回	先行研究と自らの研究を比較検討④	先行研究と比較しつつ、自らの研究の問題意識、分析方法、結果をまとめる
第 6 回	研究テーマ、分析方法の再検討	教員や他の院生・研究者の指摘に基づき改善点をまとめる
第 7 回	まとめ	春学期の成果をまとめ、夏期休暇中の研究予定をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
先行研究と自らの研究を比較しつつ、問題意識、分析方法、結果（発見と含蓄）についてレジュメにする。また、修士論文に向けた自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成。修士論文の執筆。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18～20 世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞
The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will acquire advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis, and make a research report that can be the base of a thesis.
（Learning Objectives）
Students will make an overall outline of a thesis by conducting a survey on his/her research theme, and start writing a first draft of the thesis.
（Learning activities outside of classroom）
While comparing your own research with previous research, write a resume of your problem consciousness, analysis method, and results (findings and implications). Students will also prepare research notes on their own problem consciousness and analytical methods for their master's thesis. Writing the master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN603C1 － 1

修士ワークショップA

杉浦　未樹

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個別指導や第 1 回ワークショップ報告を通じて、修士論文の執筆・改訂を進める。

【到達目標】
自身の研究内容に対して理解を深めつつ、分析手法を確立し、論文執筆を進める。ワークショップ報告では、修士論文作成のための春学期における成果を確定させる。具体的には、これまでに得られた分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを確認し、その後の改訂につなげる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
6 月下旬または 7 月上旬に行われる春季修士ワークショップの報告に向けて、指導教員の指導の下、春学期の研究成果の検討と確定を行い、ワークショップの報告に向けて、プリゼンテーションの方法についても、指導する。さらに、ワークショップ報告後に、ワークショップ時に受けた教員による指導、参加の学生によるコメントを受けて、研究の改訂を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 2 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 3 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う（指導教員による指導）
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表にむけた準備を行う。（指導教員による指導）
第 6 回	修士論文中間発表（第１回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「中間発表」を行う。7 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる（指導教員による指導）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。中間報告の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18～20 世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞
The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and the first workshop report.
（Learning Objectives）
Students are expected to deepen the understanding of his/her research contents, establish the analytical method, and proceed with writing the thesis. In a workshop report, students will define the outcome of spring semester on writing a thesis. More specifically, students are expected to create a link to a later revision by making a report on the obtained analyzed result, verifying the adequacy of the analysis technique and the validity of the interpretation on the result, and valuating his/her thesis in the field concerned.
（Learning activities outside of classroom）
Carry out daily research and writing activities for the preparation of the master's thesis. Prepare for the interim report and work on the post-event discussion and feedback to the master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score (including workshop presentation and comments)

ECN602C1 － 2

論文指導Ⅱ B

杉浦　未樹

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
修士論文執筆についてのより高度な知識や分析手法を習得し，修士論文の執筆・改訂をさらに進め、全体を見据えた研究報告を行う。

【到達目標】
すでに第 1 稿を作成済の部分についての改訂を進めるとともに、論文全体についての第 1 稿を作成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
主に演習形式とする。先行研究のサーベイや研究結果の報告を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	これまでの研究のまとめ	夏期休暇中の研究成果の報告
第 2 回	修士論文の研究報告①	修士論文にむけた研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告②	修士論文にむけた研究報告を行う
第 4 回	修士論文の研究報告③	修士論文にむけた研究報告を行う
第 5 回	修士論文の研究報告④	修士論文にむけた研究報告を行う
第 6 回	修士論文の仕上げ	修士論文の改善点をまとめて論文を仕上げる
第 7 回	修士論文最終報告	修士論文提出（前または後）の最終報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
自らの研究の成果をレジュメにまとめ、修士論文を執筆する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（研究内容や研究の成果を含む）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18～20 世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞
The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will obtain a more advanced knowledge and analytical method on writing a master's thesis.
（Learning Objectives）
Students will proceed further on writing and revising the thesis, and make an overall report. Students will continue revising and finish writing the first draft of the thesis.
（Learning activities outside of classroom）
Students are required to write a master's thesis by summarizing the results of their own research in a resume.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN603C1 － 2

修士ワークショップＢ

杉浦　未樹

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
個別指導や第 2 回ワークショップ報告を通じて、修士論文を完成させる。

【到達目標】
論文の最終調整を行い、学位論文としての修士論文を完成させる。ワークショップ報告では、修士論文の分析結果を報告し、分析手法の適切さ、結果の解釈の妥当性、当該分野における自身の論文の位置づけなどを再確認する。より詳細な到達目標は「経済学研究科　学位論文審査基準」を参照のこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
「ワークショップ」に向けた各自修士論文の研究内容の報告及び「ワークショップ」で受けたコメント等を反映した研究手法、結果、論文構成などの改訂には、指導教員が各自の報告に対して個別指導を行う。さらに、講義「論文指導Ⅱ B」と併せて指導が行われる。
本講義の核となる「ワークショップ」は、発表する大学院生が、指導教員だけでなく、他の教員からも研究上のアドバイスを受け、また同じ大学院生から質疑や批判、助言を受けることによって、より優れた修士論文を執筆するための一助とする科目である。聞き手の大学院生にとっては、発表者が、どのような問題に関心を持ち、どのような方法で研究に取り組んでいるかを知る機会になる。修士論文執筆は、最終的にはそれぞれが自らの研究テーマに取り組む個別の作業になるが、「ワークショップ」は同じ境遇にある院生同士で、研究の技法や様々な情報を交換し合い、相互に研鑽をつむ機会を提供する。
「ワークショップ」は、今年度、修士論文の提出を考えている院生 (修士 1 年次に修士課程修了を目指す方を含む) が履修するが、それ以外の修士課程大学院生のみならず、博士後期課程の大学院生にも参加を奨励する。修士課程在籍者は発表者の研究を理解することによって自らの研究テーマの選び方、研究の進め方に大きなヒントを得ることが出来る。
また既に博士後期課程に進んでいる大学院生にとっては、自らの修士論文執筆の経験を踏まえてアドバイスすることによって、自らの研究者としての資質を高めることにも役立つ。
授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	修士論文の研究報告①	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 2 回	修士論文の研究報告②	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 3 回	修士論文の研究報告③	ワークショップ報告に向けた修士論文の研究報告を行う
第 4 回	ワークショップの準備①	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 5 回	ワークショップの準備②	修士ワークショップでの発表に向けた準備を行う。
第 6 回	修士論文最終発表（第２回修士ワークショップ）	修士論文執筆者全員が、修士論文に関して「最終発表」を行う。12 月上旬を予定。
第 7 回	ワークショップの反省	修士ワークショップで指摘された論点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
修士論文の作成のための日常的な研究と執筆活動を行う。最終発表の準備と、事後の論点整理と修士論文へのフィードバックの作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100%（ワークショップ報告およびコメントシートの内容も含む）

【学生の意見等からの気づき】
特にないが、各発表セッションでの報告論文の配置と教員複数の参加を工夫する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
世界経済史、
＜研究テーマ＞
18～20 世紀の繊維品の発展と世界的流通
都市における商品流通と地域ネットワークの形成
女性と財産形成
＜主要研究業績＞
The urban logistic network. Cities, transport and distribution in Europe from the Middle Ages to the Modern Times（共編著）Palgrave, 2019; 'The Mass consumption of refashioned clothes: Re-dyed kimono in post war Japan' in Business History,61-1; 'Coolies' Hats. Chinese Coolie Hats: Global Dialogues on a Sign of Servitude, c. 1840-1940', C.Breward,B.Lemire, G.Riello eds., The Cambridge History of Fashion , Cambridge UP, 2022.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course students will write and revise his/her master's thesis through individual guidance and from the second workshop report.
（Learning Objectives）
Students will make final adjustments of the thesis and complete a thesis of master degree. In a workshop report, students will report the analysis results of the thesis and revalidate the adequacy of the analysis technique, the validity of the interpretation on the result, and the valuation of his/her thesis in the field concerned. For further details on the Outline and Objectives, refer to the Evaluation Criteria for Master's Thesis and Ph.D. Dissertation of Graduate School of Economics.
（Learning activities outside of classroom）
Carry out daily research and writing activities for the preparation of the master's thesis. Prepare for the interim report and work on the post-event discussion and feedback to the master's thesis.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score (including workshop presentation and
comments)

ECN522C1 － 3

応用マクロ経済学ＤＡ

蓮見　亮

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
近年、経済政策の現場では、「新しいケインジアンのマクロ経済モデル」を念頭に置いて議論する方向にあります。この授業では、トピックを絞った上で最適化理論（家計の効用最大化、企業の利潤最大化）に基づくマクロ経済学の考え方を学んでいきます。
数式を使った解説がメインになりますが、それぞれの変数の持つ意味がイメージできれば、図のみに頼るよりもかえって理解がはかどるはずです（全くの数式アレルギーの人には薦められませんが）。網羅的な説明は目標としないので、極力やさしく丁寧に解説します。理解を深めるために、必要に応じてコンピュータによる数値計算などの結果も示します。
例えば学生が経済政策の立案者となったとき、適切な提言をするための知識を習得すること、あるいは将来企業の企画立案者や経営者となったとき、企業経営に関する重要な意思決定する際の判断の基礎とすべき基本的な概念と考え方を習得することを目的とします。

【到達目標】
分析目的に応じた独自のモデルを構築し、高度な政策分析を行えるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読形式（学生に担当個所を割り振り、説明してもらう）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	イントロダクション	マクロ経済モデルの基本的な考え方
2.	ソローモデル（１）	経済成長、生産関数、資本ストックの蓄積、消費と投資のトレードオフ
3.	数学の準備	指数関数・対数関数、偏微分、テイラー展開
4.	ソローモデル（２）	定常状態の計算、成長会計
5.	ラムゼイモデル（１）	効用関数
6.	ラムゼイモデル（２）	ラグランジュの未定乗数法、オイラー方程式の導出
7.	ラムゼイモデル（３）	定常状態への経路の計算
8.	税制モデル	税制の変更シミュレーション
9.	RBC モデル（１）	技術ショック、労働供給の内生化
10.	RBC モデル（２）	技術ショックに対するインパルス応答、景気循環
11.	ニューケインジアン・モデル（１）	独占的競争モデル
12.	ニューケインジアン・モデル（２）	ニューケインジアン・フィリップス曲線、IS 曲線
13.	ニューケインジアン・モデル（３）	解の存在条件、最適金融政策
14.	まとめと復習	講義を振り返り、最適化理論に基づくマクロ経済学の体系を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
授業中にも解説しますが、高校数学程度の指数関数・対数関数、微分・積分、数列を復習しておいてください。また、余力があれば、極限、自然対数、e（ネイピア数）を予習しておいてください。
週 3 時間程度の準備学習・復習が単位認定の目安となります。

【テキスト（教科書）】
蓮見 亮 (著)『動学マクロ経済学へのいざない』、日本評論社、2020 年
必要に応じて授業支援システム経由で講義ノートを配布します。

【参考書】
特になし（授業中に指示します）。

【成績評価の方法と基準】
平常点２０％、割り当てた輪読箇所のプレゼンテーション８０％の配点で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につき該当なし。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン講義につき、機材（PC、タブレット等）・ネットワーク環境が必要です。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学、計量経済学（ベイズ統計学）
＜研究テーマ＞
マクロ経済モデルによるシミュレーション分析
＜主要研究業績＞
Ono, Arito, Ryo Hasumi, and Hideaki Hirata, “Differentiated use of small business credit scoring by relationship lenders and transactional lenders: Evidence from firm-bank matched data in Japan”, Journal of Banking & Finance 42, 371-380, 2014.
Hasumi, Ryo and Hideaki Hirata, “Small Business Credit Scoring and Its Pitfalls: Evidence from Japan”, Journal of Small Business Management 52, 555-568, 2014.
Hasumi, Ryo , Hirokuni Iiboshi, and Daisuke Nakamura, “ Trends, Cycles and Lost Decades – Decomposition from a DSGE Model with Endogenous Growth”, Japan & The World Economy 46, 9-28, 2018.
Hasumi, Ryo, Hirokuni Iiboshi, Tatsuyoshi Matsumae, and Daisuke Nakamura. “Does a Financial Accelerator Improve Forecasts during Financial Crises?: Evidence From Japan with Prediction-pool Methods”, Journal of Asian Economics, 60, 45-68, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
In recent years, macroeconomic policy has often been discussed in line with New Keynesian macroeconomic models. In this class, students will learn a macroeconomic theory based on optimization, which includes utility maximization of households and profit maximization of firms.
（Learning Objectives）
The objective of this course is that students will be able to conduct policy analysis using applied models based on an understanding of the basic concepts of macroeconomics.
（Learning activities outside of classroom）
Approximately three hours of preparatory study and review per week is required for credit.
（Grading Criteria /Policy）
Grading will be based on class participation (40%) and presentation of assigned readings (60%).

ECN522C1 － 4

応用マクロ経済学ＤＢ

宮﨑　憲治

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では DSGE モデルの様々なモデル，特に THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) モデルについて学び, 自身でモデルを作成できるようになる.

【到達目標】
最近の DSGE モデルの先行研究を理論的に理解し, その数値計算法を習熟することができ,
モデルの改善を模索できるようになる.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
テーマごとに学術論文を輪読する.
原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	On DSGE	Christiano, L. J., Eichenbaum, M. S., & Trabandt, M. (2018). On DSGE Models. Journal of Economic Perspectives, 32(3), 113 － 140.
第 2 回	RANK with capital utilization	Greenwood, J., Hercowitz, Z., & Huffman, G. W. (1988). Investment, Capacity Utilization, and the Real Business Cycle. The American Economic Review, 78(3), 402 － 417.
第 3 回	RANK with sticky wage	Yun, T. (1996). Nominal price rigidity, money supply endogeneity, and business cycles. Journal of Monetary Economics, 37(2), 345 － 370.
第 4 回	Medium Scaled RANK 1	Christiano, L. J., Eichenbaum, M., & Evans, C. L. (2005). Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy. Journal of Political Economy, 113(1), 1 － 45
第 5 回	Medium Scaled RANK 2	Smets, F., & Wouters, R. (2007). Shocks and Frictions in US Business Cycles: A Bayesian DSGE Approach. American Economic Review, 97(3), 586 － 606.
第 6 回	RANK with Bank sector	Gertler, M., & Karadi, P. (2011). A model of unconventional monetary policy. Journal of Monetary Economics, 58(1), 17 － 34.
第 7 回	TANK & Monetary Policy	Galí, J., López-Salido, J. D., & Vallés, J. (2004). Rule-of-Thumb Consumers and the Design of Interest Rate Rules. Journal of Money, Credit and Banking, 36(4), 739 － 763.
第 8 回	TANK & Fiscal Policy	Galí, J., López - Salido, J. D., & Vallés, J. (2007). Understanding the Effects of Government Spending on Consumption. Journal of the European Economic Association, 5(1), 227 － 270.
第 9 回	TANK with Sticky Wages	Colciago, A. (2011). Rule-of-Thumb Consumers Meet Sticky Wages. Journal of Money, Credit and Banking, 43(2/3), 325 － 353.
第 10 回	TANK with Limited Asset Market Partitions	Bilbiie, F. O. (2008). Limited asset markets participation, monetary policy and (inverted) aggregate demand logic. Journal of Economic Theory, 140(1), 162 － 196.
第 11 回	THANK & Monetary Policy	Bilbiie, F. O. (2019).Monetary Policy and Heterogeneity: An Analytical Framework, forthcoming
第 12 回	THANK & Fiscal Policy	Bilbiie, F. O. (2018).The New Keynesian Cross, Journal of Monetary Economics, forthcoming
第 13 回	THANK with Capital	Bilbiie, F. O. (2020). Capital and Income Inequality: An Aggregate-Demand Complementarity, mimeograph
第 14 回	GHH-CARA Utility	Bilbiie, F. O. (2020).A GHH-CRRA Utility for Macro: Complementarity, Income, and Substitution, mimeograph

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
事前に指定した論文を読んでおく. 本授業の予習・復習時間は, あわせて各回 5 時間とする.

【テキスト（教科書）】
授業内に指定する

【参考書】
授業内に指定する

【成績評価の方法と基準】
課題報告 (70%), 平常点 (30%)

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
特になし

【その他の重要事項】
マクロ経済学 AB を受講済みであることが望ましい.

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
(Course outline)

This lecture studies several DSGE models including THANK (Tractable Heterogeneous Agent New Keynesian) models.
（Learning Objectives）
To understand the recent studies on DSGE model theoretically and to be able to master its numerical method, we will be able to seek for improvement of the model.
（Learning activities outside of classroom）
Students are required to read the papers specified in advance. The total time for preparation and review of this class is 5 hours for each session.
（Grading Criteria /Policy）
Report of assignments (70%), Usual performance score (30%)

ECN521C1 － 3

応用ミクロ経済学ＤＡ

平井　俊行

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義ではゲーム理論の特に協力ゲームと呼ばれる理論を学びます。プレイヤーが協力して何らかの結果を達成した時にどのような利得分配がおこなわれるのか、正当化されるのかを学びます。

【到達目標】
・協力ゲーム理論の基礎概念を理解し、数学的に表現できるようになる。
・テキストの練習問題レベルの問題を独力で解けるようになる。
・協力ゲームを用いた専門論文を独力で読めるようになる。
・協力ゲーム理論を用いて専門論文を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
シラバス執筆時点 (2022 年 1 月中旬) では対面授業を予定しています。教科書は使わず、講義資料を学習支援システム (Hoppii) を通じて配布するので、授業開始日までに利用できるようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス、協力ゲームとは何か
2	ナッシュ交渉解	交渉問題、ナッシュ交渉解
3	TU ゲーム (1)	TU ゲームの定義、配分、優加法性
4	TU ゲーム (2)	コアと安定集合
5	TU ゲーム (3)	凸ゲーム、平衡ゲーム
6	TU ゲーム (4)	交渉集合、カーネル、仁
7	TU ゲーム (5)	シャプレイ値
8	中間試験	中間試験
9	NTU ゲーム (1)	NTU ゲームの定義、配分、優加法性、凸性、平衡性
10	NTU ゲーム (2)	NTU ゲームにおける凸性、平衡性
11	NTU ゲーム (3)	純粋交換経済、公共財経済
12	提携を許す戦略形ゲーム (1)	戦略形ゲームの復習、強ナッシュ均衡、結託耐性ナッシュ均衡
13	提携を許す戦略形ゲーム (2)	α-コア、β-コア
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学部レベルの経済数学 (基本的な微分・積分、確率計算等) を前提として講義を進めるので必要に応じて自習しておいてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】
中山幹夫・船木 由喜彦・武藤 滋夫 「協力ゲーム理論」勁草書房、2008 年、3080 円
必ずしもこの通りに進むわけではありませんが、講義内容の多くはこの書籍に依っています。

【参考書】
講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】
期末試験 60 %、中間試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】
配布資料のタイポを減らします。

【担当教員の専門分野等】
以下のリンク先を参照してください。
https://sites.google.com/site/toshiyukihirai54/research

【Outline (in English)】
Course outline: This course provides graduate level cooperative game theory. The contents include TU games, NTU games, and strategic games with coalitions, which are useful to analyze real-life cooperative behavior of people, firms, and countries.
Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of cooperative game theory and become able to express them mathematically; B) become able to solve graduate coursework level exercise; C) become able to read and understand research papers in the field of game theory by themselves; D) become able to write a research paper by using cooperative game theory.
Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 60%, Mid-term exam 40%

ECN521C1 － 4

応用ミクロ経済学ＤＢ

小林　克也

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では、ミクロ経済学の応用の立場で、民間と政府との関係に焦点を当てながら、いくつかの基本的なモデルについて説明をします。みなさんが応用理論の論文を自分で読めるようになるために必要な考え方を学びます。

【到達目標】
博士課程のみなさんは、分析をして結果を得て、論文にまとめるということが課程での目標です。このために、自分で論文を読んで、モデルを理解し、それらを自分の分析の中で応用することが求められます。学生のみなさんはこうしたスキルを身につけることがこの授業の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業はすべて対面です。講義形式で進めます。講義の区切りごとに、簡単な宿題を出します。みなさんが提出した宿題に私が採点とコメントを書いてお返しします。みなさんの質問は授業中かその前後に私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自然独占産業と公的規制 (1)	自然独占
第 2 回	自然独占産業と公的規制 (2)	ピークロード料金
第 3 回	自然独占産業と公的規制 (3)	ラムゼイ料金
第 4 回	公共選択 (1)	意思決定のルール
第 5 回	公共選択 (2)	直接民主制、中位投票者の定理、投票のパラドックス
第 6 回	公共選択 (3)	間接民主制、投票の棄権
第 7 回	公共選択 (4)	レントシーキング
第 8 回	公共選択 (5)	コンテストモデル
第 9 回	公共選択 (6)	CES 生産関数について
第 10 回	公共選択 (7)	CES 生産関数を用いたグループコンテストモデル
第 11 回	公共選択 (8)	ゲリマンダリング
第 12 回	課税	ラムゼイルールの考え方
第 13 回	地方分権	住民移動と地方公共財
第 14 回	まとめと試験	まとめをした上で試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
微分の計算をして最適化をするので、基本的な計算をあらかじめ理解をしておいて下さい。ミクロ経済学 A と B で扱う計算や経済学の基本的概念を用いるので、これらの講義を履修していることを推奨します。これらの授業で扱うゲーム理論や価格理論の基本的な概念を用います。これらの復習やこの授業の復習、宿題の解答に各回とも 4 時間程度の学習が標準です。

【テキスト（教科書）】
テキストは用いませんが、以下の参考書の該当する部分を参照しながら講義します。

【参考書】
井堀利宏 (1996)『公共経済の理論』有斐閣
小西秀樹 (2009)『公共選択の経済分析』東京大学出版会

Konrad, K. (2009), Strategy And Dynamics In Contests,Oxford University Press.
を部分的に参照します。その他論文は授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】
期末試験を 100%として成績を付けます。

【学生の意見等からの気づき】
昨年度は履修者が少数でしたので授業改善アンケートは実施しませんでした。履修するみなさんと話をしながら、上記の内容を取捨選択して丁寧に授業を勧めたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】
対面で私が板書をしていきますので、特に機器は必要ありません。

【その他の重要事項】
連絡事項は、なるべく授業内でお話しします。ですが学期前や学期後、急ぎの連絡は Hoppii のお知らせを通じて連絡をします。ときどき見るようにして下さい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
＜研究テーマ＞
＜主要研究業績＞
詳細は私の website をご覧下さい。
http://www.t.hosei.ac.jp/~katsuyak/

【Outline (in English)】
Course outline:
In this course, I explain several basic models, focusing on the relation of the private and public sectors from the standpoint of the applied microeconomics. Students learn the skills to read papers of applied theory on their own.
Learning objective:
The goals of this course are to read papers, to understand its models, and to apply those models to their own analysis.
Leaning activities outside of classroom:
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.
Grading criteria/policies:
Final grade will be calculated by term exam:100%.

ECN563C1 － 4

開発経済論 D B

池上　宗信

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
開発経済学の主要な実証分析手法と論文を学ぶ。
先行研究をサーベイするのではなく、特定の論文に焦点をあて、その論文の先行研究の不備、問、貢献、データ、手法を学ぶ。
実証分析手法として、差の差の分析、回帰不連続デザイン、操作変数法を学ぶ。
これらの手法を用いて、人的資本、リスク、信用などに関する問を研究した論文を学ぶ。

【到達目標】
各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになる。
各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の問、アイデアを探すことができるようになる。
各自の研究分野における先行研究を理解し、あらたな実証研究論文のプロポーザルを執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は対面授業の予定である。
各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントとして指定された部分を読む。
各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づく。
情報実習室と呼ばれる、各受講生に 1 台ずつデスクトップパソコンが用意された教室を用いる予定である。
授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問する。
授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする。
演習問題、試験には統計計算ソフト R を用いた問題が含まれる。
感染症対策のためにオンライン授業となってしまった場合は、以下で代替する。
- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解くか、課題を提出する。
- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取る。
- 受講生は課題の解答例をフィードバックとして受け取る。
- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用する。
- 中間試験および期末試験を、リモート試験とし、学習支援システム上の課題として試験の解答を提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境	産業革命と石炭、Fernihough and O'Rourke (2021), 操作変数法
第 2 回	教育	就業機会と教育、Atkin (2016), 操作変数法
第 3 回	出産	メロドラマと出生率、La Ferrara, Chong, and Duryea (2012), 差の差の分析
第 4 回	栄養	ヨウ素と就学、Field, Robles, and Torero (2009)、差の差の分析

第 5 回	健康 1	マラリアの所得減少効果、Bleakley (2010), 差の差の分析
第 6 回	健康 2	コレラと住宅価格、Ambrus, Field, and Gonzalez (2020), 空間における回帰不連続デザイン
第 7 回	まとめと復習、中間試験	第 1 回から第 7 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	リスク 1	失業保険、Gerard and Gonzaga (2021) 回帰不連続デザイン
第 9 回	リスク 2	災害と保険, del Valle, de Janvry, and Sadoulet (2020), ファジーな回帰不連続デザイン
第 10 回	リスク 3	干ばつと魔女殺し、Miguel (2005)、差の差の分析
第 11 回	信用 1	債務免除の効果、Kanz (2016)、回帰不連続デザイン
第 12 回	信用 2	信用の経済効果、Breza and Kinnan (2021)、差の差の分析
第 13 回	制度	携帯電話と選挙違反、Gonzalez (2021), 空間における回帰不連続デザイン
第 14 回	まとめと復習、期末試験	第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各講義スライドの基となっている文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読む。
授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
感染症対策のためにオンライン授業となってしまった場合は、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを受けるか、課題を提出する。

【テキスト（教科書）】
教科書は指定しない。

【参考書】
高野久紀 (2014,2015)「実践　開発経済学　1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号

Ambrus, Attila, Erica Field, and Robert Gonzalez. 2020. “Loss in the Time of Cholera: Long-run Impact of a Disease Epidemic on the Urban Landscape.” *American Economic Review* 110 (2): 475-525.
Atkin, David. 2016. “Endogenous skill acquisition and export manufacturing in Mexico.” *American Economic Review* 106 (8): 2046-85.
Bleakley, Hoyt. 2010. “Malaria in the Americas: A retrospective analysis of childhood exposure.” *American Economic Journal: Applied Economics* 2:1-45.
Breza, Emily, and Cynthia Kinnan. 2021. “Measuring the Equilibrium Impacts of Credit: Evidence from the Indian Microfinance Crisis.” *Quarterly Journal of Economics* 136 (3): 1447-97.
Fernihough, Alan, and Kevin Hjortshøj O’Rourke. 2021. “Coal and the European Industrial Revolution.” *The Economic Journal* 131: 1135-49.
Field, Erica, Omar Robles, and Maximo Torero. 2009. “Iodine deficiency and schooling attainment in Tanzania.” *American Economic Journal: Applied Economics* 1 (4): 140-69.
Gerard, François, and Gustavo Gonzaga. 2021. “Evidence from Unemployment Insurance in Brazil.” *American Economic Journal: Economic Policy* 13 (3): 167-206.
Gonzalez, Robert M. 2021. “Cell Phone Access and Election Fraud: Evidence from a Spatial Regression Discontinuity Design in Afghanistan.” *American Economic Journal: Applied Economics* 13 (2): 1 – 51.
Kanz, Martin. 2016. “What does debt relief do for development? Evidence from India’s bailout for rural households.” A*merican Economic Journal: Applied Economics* 8 (4): 66 – 99.
La Ferrara, Eliana, Alberto Chong, and Suzanne Duryea. 2012. “Soap Operas and Fertility: Evidence from Brazil.” *American Economic Journal: Applied Economics* 4 (4): 1 – 31.
Miguel, Edward. 2005. “Poverty and witch killing.” *Review of Economic Studies* 72 (4): 1153 – 72.
Valle, Alejandro del, Alain de Janvry, and Elisabeth Sadoulet. 2020. “Rules for Recovery: Impact of Indexed Disaster Funds on Shock Coping in Mexico.” A*merican Economic Journal: Applied Economics* 12 (4): 164 – 95.

【成績評価の方法と基準】
中間試験 30 %、期末試験 30 %、期末レポート 20 %、平常点 20 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】
担当教員が本講義を担当するのは初めてである。
実証経済学基礎 A もしくは計量経済学 A のどちらかを履修した後に、本講義を履修することを推奨したい。
開発経済論 A が開講された 2021 年度春学期から 1 年以上経過しているので、開発経済論 A の履修を前提としない。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学
東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
“Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries?” J*ournal of Risk and Insurance*, 88(2): 293-324. 2021.
“Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, 101(3): 672-691. 2019.
“Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6, pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
< Course outline >
We will study major empirical methods and papers in Development Economics.
As the major empirical methods, we will study difference in difference, regression discontinuity design, and instrument variable method.
We will study papers using these empirical methods and analyzing questions related to human capital, risk, and credit.
< Learning Objectives >
We will try to become able to understand the empirical methods in journal articles.
We will try to become able to look for research paper idea keeping the empirical methods in our minds.
We will try to become able to understand previous studies and write a empirical paper proposal.
< Learning activities outside of classroom >
Before each class, we will read assigned article, on which class slides are based.
After each class, if needed, we will review class materials by ourselves.
We expect 2 hours for preparing for each class and 2 hours to review class materials by ourselves after class.
If we need to have online classes for combating infectious diseases, we will take online mini test or assignment after each class.
< Grading Criteria/Policies >
We will make class grade based on the following factors and weights: mid-term exam 30%; end-term exam 30%; end-term report; participation 20%.

ECN542C1 － 3

金融ファイナンス論ＤＡ

胥　鵬

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、分散投資の考え方を理解してもらうことをめざす。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQ などの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を得る？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	2 銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	βの導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業活躍などの加点は 30 %。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことが必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about one hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN542C1 － 3

金融システム論ＤＡ

胥　鵬

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融ファイナンス理論は、リスクに始まりリスクに終わる。しかし、リスクの定義とはなんであろうか？ リスクの定義の出発点として、収益率のばらつきを表す標準偏差から出発し、二つの銘柄の株式投資収益率の相関と分散投資を中心に講義をする。その上で、リスキー資産から有効ポートフォリオ・フロンティアを導く。さらに、安全資産についてわかりやすく解説し、安全資産を含む資本市場線と証券市場線の考え方を用いて均衡におけるリスクの定義及びリスクとリターンの関係を説明する。

【到達目標】

日々の株価を用いて、金融・ファイナンスだけではなく、様々な経済政策を研究することが可能である。この授業は金融ファイナンスの基礎理論を紹介し、とりわけ、株式投資のリターンとリスクとの関係に関する理論分析を理解することを目的とする。学生には、日々の株価変動の背後にある個別リスクとシステマチック・リスクの意味について考え、分散投資の考え方を理解してもらうことをめざす。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、パソコンなどで自分のために自分の手で自分の問題を解くことによって講義内容をマスターします。さらに，FQ などの学内データベースの活用方法を紹介し，修士論文作成へのステップアップを目指す。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論や実証分析を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	景気・業況・金利の変動と株価	日々の株価の変動、リスクとリターン
2	投資のリターンとは何か？	期待投資収益率はリターン
3	リスクとは何か？	投資収益率のばらつきはリスク
4	二株を追う者は何を得る？	2 銘柄の分散投資の収益率
5	2 銘柄の分散投資からの拡張	複数銘柄の分散投資
6	リスクとリターンのトレードオフ	危険資産からなる有効ポートフォリオ・フロンティア
7	資本市場線	安全資産の導入
8	証券市場線	安全資産を含む有効ポートフォリオ・フロンティア
9	βの導出	個別銘柄株式のリスク
10	マーケット・モデル	個別銘柄株式のリスクの計測
11	株式相場の影響	株式増場の影響を除いた異常収益率の計算
12	イベント・スタディー	利益・配当・政策などの変動の株価に対する効果を計測する分析手法
13	データ収集	株価データを収集する
14	仮説検定	集計した異常収益率に基づいて経済学・金融・ファイナンスの様々な仮説を検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

簡単な予習はもちろん、理解できない点については必ず復習してください。宿題や課題を通じて自分の理解を深めましょう。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

斉藤誠　『金融技術の考え方・使い方：リスクと流動性の経済分析』、有斐閣

『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記、白桃書房

【参考書】

必要に応じて、専門誌論文を授業支援システムにアップロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業活躍などの加点は 30 %。博士課程受講生は、株価データを用いて、イベントスタディーを応用して論文を書くことが必須。

【学生の意見等からの気づき】

他のテーマについてもリクエストに応じて適宜に取り上げる。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン持参。留学生は必ず日本語システムのパソコンとエクセルを使用してください。

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を皆様に届ける。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this course, we learn basic monetary and finance theories. Finance theory begins and ends with risk. The goal of the course is to understand risks based on the Capital Asset Pricing Model and the method of event study. Students are expected to calculate abnormal return and test economic hypotheses. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about one hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN565C1 － 3

地域経済論ＩＤＡ

馬場　敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の文化、経済、産業、発展の経緯、現状などを学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】
対象各国の経済の現状、問題点、発展の経緯、産業動向などについて理解を深めることを到達目標とします。修士受講学生は各国の経済状況や発展の過程、背後にあるメカニズムについて十分理解することを目標とします。博士課程については修士課程の到達目標に加え、産業ごとでの理解向上を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は Zoom やオンデマンドで行います。当初は講義により各国の状況について説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第 2 回	経済データベース 1	オンラインデータベースを学び、主要な経済統計を検索・取得できるようにします。
第 3 回	アジア地域のアウトライン	主要な経済統計によりアジア各国を概観します
第 4 回	通貨とグローバリゼーション	為替レートとグローバリゼーションについて学びます
第 5 回	工業化と技術学習	技術導入戦略、技術学習の経路、OEM 戦略などについて学びます
第 6 回	経済データベース 2	貿易データベースについて学び、データの検索・取得を行えるようにします。
第 7 回	エリアスタディ 1	シンガポール
第 8 回	エリアスタディ 2	香港
第 9 回	エリアスタディ 3	韓国
第 10 回	エリアスタディ 4	タイ
第 11 回	エリアスタディ 5	インドネシア
第 12 回	エリアスタディ 6	マレーシア
第 13 回	エリアスタディ 7	フィリピン
第 14 回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前 1 時間、講義後 3 時間、合計 4 時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PC を推奨します

【地域経済】
新興工業国の経済発展
自動車産業
サポーティングインダストリー

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics, geographies, industries of Asian countries and other emerging countries. You learn various economic backgrounds and development engines of each country. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN565C1 － 4

地域経済論ＩＤＢ

馬場　敏幸

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
おもに第二次世界大戦後に発展した新興経済発展国について、それらの国の産業について学びます。特に自動車産業およびサポーティングインダストリィーの現状と発展について学びます。国・地域についてはアジアを中心にしますが、アフリカや北米・中南米、ヨーロッパなども必要に応じて紹介したいと考えています。

【到達目標】
自動車産業およびサポーティングインダストリーの歴史、特質、現状、今後の発展の方向性などについてグローバルな視点から理解することを目標とします。修士受講学生は自動車産業の特質、各国での発展史、現状について理解を深めることを目標とします。博士受講学生については修士学生の目標に加え、サポーティングインダストリーの状況、グローバルバリューチェーンなどについても理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義は Zoom やオンデマンドで行います。当初は講義により説明を行いますが、より学びを深めるために受講生交代で課題を発表し、相互に意見交換する、双方向型の授業が行えればよいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方について説明します
第 2 回	自動車産業データベース	オンラインデータベースを学び、自動車産業の主要なデータを検索・取得できるようにします
第 3 回	貿易データベース	貿易データベースについて学びます
第 4 回	自動車産業の現状 1	自動車産業の現状について学びます
第 5 回	自動車産業の現状 2	世界の自動車産業の状況について概観します
第 6 回	サポーティング産業	サポーティング産業について学びます
第 7 回	自動車産業の発展史 1	自動車産業の発展史について学びます
第 8 回	自動車産業の発展史 2	自動車産業の発展史について学びます
第 9 回	グローバルバリューチェーン 1	自動車部品の GVC について学びます
第 10 回	グローバルバリューチェーン 2	自動車部品の GVC について学びます
第 11 回	各国の自動車産業 1	各国の自動車産業のケーススタディ
第 12 回	各国の自動車産業 2	各国の自動車産業のケーススタディ
第 13 回	各国の自動車産業 3	各国の自動車産業のケーススタディ
第 14 回	総括	講義の総括を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
講義前 1 時間、講義後 3 時間、合計 4 時間の授業外学習を想定しています。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】
必要に応じて紹介します

【成績評価の方法と基準】
授業態度（40%）、課題やプレゼンテーション（60%）

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
PC を推奨します

【地域経済】
自動車産業・サポーティング産業

【Outline (in English)】
In this class, you learn economics and industries of Asian countries and other emerging countries. In this class, we especially focus on automobile industry and supporting industries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is based on attitude for class study(40%) and reports & presentations(60%).

ECN523C1 － 3

統計学ＤＡ

阿部　俊弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
主として多変量解析の基本的手法に焦点を当て、データの例と分析手法を考えていきます。回帰モデルや統計的分布のパラメータ推定法をいくつかを調べ、最尤法を用います。また、統計学はデータを意識した学問であることから、統計的ソフトウェア R を用いてデータ分析手法も身に着け、実践力を付けていきます。

【到達目標】
回帰分析の概念を理解し、最小二乗法と最尤法によるパラメータ推定を理解する。また、多変量解析の手法や実データに対してどの統計手法を用いれば良いか理解する。
博士後期課程の研究にも対応できるよう、統計的ソフトウェアを使った実データ分析により、問題解決を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進め、R を用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。
配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概要と準備	統計ソフト R について
第 2 回	回帰分析の概要	最小二乗法による回帰係数の推定
第 3 回	単回帰分析の復習	区間推定と検定による検証
第 4 回	重回帰分析の復習	単回帰分析の拡張
第 5 回	最尤法	最尤法によるパラメータ推定
第 6 回	最適化手法を用いた分析	ソルバーによる最適化
第 7 回	様々な種類のデータの扱い	ダミー変数
第 8 回	モデル選択	AIC と BIC
第 9 回	正則化法に基づく回帰分析	リッジ回帰・Lasso
第 10 回	統計的分類手法としての判別分析	判別分析の理論
第 11 回	判別分析を用いた評価	予測と誤判別率
第 12 回	判別分析とサポートベクターマシン	2 つの手法の比較
第 13 回	ロジスティック回帰モデルの理論	データの例とモデルの導入
第 14 回	ロジスティック回帰分析の実際	データを用いた分析と手法の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
林 賢一 (著)・下平 英寿 (編集) (2020)『R で学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』
配布資料も用いながら講義を行う。

【参考書】
宮田庸一 (著)(2012)『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

【成績評価の方法と基準】
通常の課題レポート (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
身の回りの現象との関連を見るために、実データを用いて理解を深めていきます。

【学生が準備すべき機器他】
・統計ソフトウェアの R を使用します。
・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞統計科学
＜研究テーマ＞方向統計学・EM アルゴリズム
＜主要研究業績＞
[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.
[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.
[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.
[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.
[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
In this course, we mainly focus on basic methods of multivariate analysis and consider the theory and its illustrative examples. We also investigate parameter estimation for probability distributions, and apply the method of maximum likelihood as statistical inference. In addition, we will use a popular statistical software R to investigate a behavior of the statistical model.
[Learning Objectives]
The students are expected to understand the concept of regression analysis and its parameter estimation by least squares method as well as method of maximum likelihood.
They are also expected to learn fundamental statistical methods for multivariate analysis by making use of actual data sets.
For Ph.D. course students, we will analyze actual data sets using statistical software.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.
[Grading Criteria /Policy]
Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN523C1 － 4

統計学ＤＢ

阿部　俊弘

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では前半は様々な多変量解析の手法を調査し、その手法の理論と実践を身に着けていきます。また、様々なところで耳にすることも多い「シミュレーション」は様々な状況で使われています。ここでは、疑似乱数を用いて解析的に解くことは難しいような問題に対して「真の解はどこにありそうなのか？」という解決法について取り組んでいきます。

【到達目標】
様々な多変量解析の概念を調査し、高度な手法を身に着けていく。また、統計的分布の疑似乱数の生成を行い、乱数を用いた予測を行う。博士後期課程の研究にも対応できるよう、乱数を用いたシミュレーションの実装をした問題解決を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】
講義形式で授業を進め、R を用いた課題を提出します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel も必要に応じて利用していきます。
配布資料も用いながら講義を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	単純な規則に基づく判別モデル	決定木の考え方
第 2 回	決定木を用いたデータ解析	木の描画・あてはめ
第 3 回	主成分分析の理論	データの例と主成分分析の理論
第 4 回	主成分分析の適用	主成分分析の解釈
第 5 回	クラスター分析の理論	データの例とクラスター分析の理論
第 6 回	クラスター分析の応用	実データの群分けと解釈
第 7 回	クラスター分析に関する話題	クラスター分析の注意点
第 8 回	正準相関分析	データの例と理論の適用
第 9 回	ブートストラップ法の基本	リサンプリングとブートストラップ標本
第 10 回	ブートストラップ法の応用	ブートストラップ法の適用
第 11 回	シミュレーションのための準備	基本的なプログラミングコード
第 12 回	シミュレーションの実際	乱数を用いて統計学を実感する
第 13 回	歪対称分布	誤差項が非対称となるデータへの対応
第 14 回	まとめ	近年の統計的手法の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
林 賢一 (著)・下平 英寿 (編集) (2020)『R で学ぶ統計的データ解析 (データサイエンス入門シリーズ)』

【参考書】
宮田庸一 (著)(2012)『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション
永田靖・棟近雅彦 (共著)(2001)『多変量解析法入門』、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】
授業での平常点 (50%) と最終課題レポート (50%) を考慮し、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】
特になし

【学生が準備すべき機器他】
・統計ソフトウェアの R を使用します。
・レポート提出のために、Microsoft Word または TeX を使用します。
・学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞統計科学
＜研究テーマ＞方向統計学・EM アルゴリズム
＜主要研究業績＞
[1] Abe, T. & Pewsey, A. (2011). Sine-skewed circular distributions. Statistical Papers, Springer, Volume 52, Number 3, August 2011, pp. 683-707.
[2] Abe, T., Pewsey, A. & Shimizu, K. (2013). Extending circular distributions through transformation of argument. Annals of the Institute of Statistical Mathematics, Springer, Volume 65, Issue 5, October 2013, pp. 833-858.
[3] Abe, T. (2015). Discussion: "On families of distributions with shape parameters". International Statistical Review, Wiley, Volume 83, Issue 2, September 2015, pp. 193-197.
[4] Abe, T. & Ley, C. (2017). A tractable, parsimonious and flexible model for cylindrical data, with applications. Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 4, October 2017, pp. 91-104.
[5] Abe, T., Fujisawa, H. & Kawashima, T. EM algorithm using overparameterization for multivariate skew-normal distribution, Econometrics and Statistics, Elsevier, Volume 19, July 2021, pp. 151-168.

【Outline (in English)】
[Outline and objectives]
In this course, we introduce various illustrative examples and theory in multivariate analysis. The term "simulation", which is often heard in our real life, is used in various situations. As examples of that, we will tackle to a problem which is difficult to solve analytically. As a result, we will consider a solution to the problem "Where is the true solution?" by using pseudo-random numbers.
[Learning Objectives]
The students are expected to investigate various concepts of multivariate analysis and acquire advanced methods.
In addition, they are also expected to learn how to generate pseudo-random numbers from statistical distributions, and predict the phenomenon using them.
(Ph.D.)
For Ph.D. course students, we will consider illustrative examples by implementing simulated random numbers.
[Learning activities outside of classroom]
The standard preparatory study and review time for this class is about 2 hours.
[Grading Criteria /Policy]
Grading Criteria /Policy is evaluated by the Regular report (50%) and the final report(50%).

ECN544C1 － 4

企業経済学ＤＢ

砂田　充

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義は、産業組織論（Industrial Organization）・企業経済学（BusinessEconomics）・競争政策の経済学（Antitrust Economics）の基本・応用モデルを学習する。特に価格差別，カルテル，合併および垂直的取引の様々なモデルについて学習する。また，関連する実証的先行研究についても受講者と議論する予定である。授業形態については未定としているが，詳細は学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学の基本・応用モデルを自ら構築・解析できる能力および実証的産業組織論の学術論文を読解する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
スライドと黒板を使った講義形式がメイン。学生による報告（輪読による報告を含む）を求める場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	オリエンテーション
第 2 回	寡占市場①	寡占市場の基本モデル（復習）
第 3 回	寡占市場②	消費者の離散選択モデル/Logit モデル
第 4 回	価格差別①	価格差別の基礎/グループ別価格
第 5 回	価格差別②	二部料金/抱き合わせ/メニュー価格
第 6 回	カルテル①	カルテルの最適化行動と安定性/報復の脅威による協調の維持
第 7 回	カルテル②	カルテル規制/不当な取引制限
第 8 回	合併①	企業結合規制/水平的合併と効率性/水平的合併と社会的厚生
第 9 回	合併②	合併シミュレーション/合併の実証研究
第 10 回	合併③	垂直的合併と効率性
第 11 回	垂直的取引①	垂直的取引における最適行動/再販とテリトリー制
第 12 回	垂直的取引②	垂直的取引の競争制限効果/不公正な取引方法
第 13 回	競争戦略	戦略的行動/競争戦略の分類/コスト優位/差別化優位
第 14 回	総括	これまでの内容のおさらいと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度），講義後には講義資料および自筆ノート等を使って復習（2 時間程度）することが必要である。

【テキスト（教科書）】
特に指定しない。

【参考書】
小田切宏之『新しい産業組織論：理論・実証・政策』（有斐閣，2001 年），丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣，2017 年），Belleflamme, P. and M. Peitz Industrial Organization: Markets and Strategies, Cambridge Univ. Press, 2010，Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Shaefer Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013，Motta, M. Competition Policy: Theory and Practice, Cambridge Univ.Press, 2004，Shy, O. Industrial Organization: Theory and Applications, MIT Press,1996，Tirole, J. The Theory of Industrial Organization, MIT Press, 1988 他適宜紹介する予定。

【成績評価の方法と基準】
期末試験（50～95%），平常点（50～5%），により評価をする。

【学生の意見等からの気づき】
学生が自らの研究テーマについて分析モデルを構築できるように指導を心掛けたい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
産業組織論・企業経済学・競争政策の経済学
＜研究テーマ＞
企業の経営戦略と公共政策の経済分析
＜主要研究業績＞
"Competition among Movie Theaters: An Empirical Investigation of the Toho-Subaru Antitrust Case," Journal of Cultural Economics, Vol. 36,Number 3, pp. 179-206, August 2012.
"Coverage Area Expansion, Customer Switching, and Household Profiles in the Japanese Broadband Access Market," Information Economics and Policy, Vol. 23, Issue 1, pp. 12-23, March 2011 (with Masato Noguchi,Hiroshi Ohashi, and Yosuke Okada).
"Measuring the Cost of Living Index, Output Growth, and Productivity Growth in the Retail Industry: An Application to Japan," Review of Income and Wealth, Vol. 56, Issue 4, pp. 667-692, December 2010.

【Outline (in English)】
This course is graduate-level introduction to industrial organization and managerial economics.
The goal of this course is that students understand various models in the fields and acquire modeling skills for their own research interests. This course will focus on the topics as follows: pricing strategy, cartel, horizontal and vertical merger, vertical restraints, and so on.
Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, if required, to complete a homework assignment through HOPPII (about two hours required).
Students are also expected to have solid comprehension of undergraduate microeconomics.
The grade will be based on the final exam (50-95%) and the homework (5-50%).

ECN562C1 － 3

国際金融論ＤＡ

ブー　トウン　カイ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。博士後期課程では専門誌掲載の論文を通じて国際金融論の理論体系や実証研究手法の取得・応用に重点を置く。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。博士後期課程の受講者には、期末に講義で学んだことを活用し、国際金融論のテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論の紹介
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定、資金循環勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支表
5	貨幣	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	貨幣と物価に関する理論と実証研究	貨幣需要関数の理論と推定、貨幣と物価との関係の実証分析
8	為替レート	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート、データを用いる実効為替レートの算出
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論（1）	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	金利平価の検証	金利平価の実証研究文献、データとパソコンを用いる演習
13	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論（2）	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
14	購買力平価からの乖離	データでみる実質為替レートの長期的トレンド、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を 2 時間程度で復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年.
2.『MBA のための国際金融』小川 英治・川崎 健太郎、有斐閣 2007 年.

【参考書】
1.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック.
2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,”by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12)（ハードカバー）.
3.『新しい国際金融論 – 理論・歴史・現実』勝 悦子、有斐閣 2011 年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 25%、中間レポート： 25 %、学期末レポート： 50 %
（博士後期課程の受講者には、期末に自らテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。）

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。 授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際マクロ経済学、国際金融論
＜研究テーマ＞
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
＜主要研究業績＞
(1) "News Shocks and Japanese Macroeconomic Fluctuations," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 4, pp.292-304, 2012 (with Jun-Hyung Ko and Kensuke Miyazawa).
(2)「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」, 『アジア太平洋研究』第 39 巻, pp.149-162, 2014 年.
(3) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1-21 (with Hayato Nakata).

【Outline (in English)】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on fi nancial assets and currencies. In the PhD course we put more weight on understanding and applying basic theories and empirical methods in international finance.
To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.
Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN562C1 － 4

国際金融論ＤＢ

ブー　トウン　カイ

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介として行われる。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。博士後期課程では専門誌掲載の論文を通じて国際金融論の理論体系や実証研究手法の取得・応用に重点を置く。

【到達目標】
対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や為替制度選択、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、経済学の手法を用いて理論的・実証的に分析できることを目標とする。博士後期課程の受講者には、期末に講義で学んだことを活用し、国際金融論のテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
授業で扱うテキストの各章を受講者間で担当を決め、毎回の授業で最初に受講者が事前に準備した各章の内容を発表し、最後に教員が総括を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レート決定の理論（3）	ポートフォリオ・アプローチとその実証分析
2	為替レート決定の理論（4）	ニュースの理論とその実証分析
3	外国為替市場の効率性	効率的市場仮説、先物相場と直物相場、先物相場プレミアムに関する実証分析
4	為替レートと実体経済（1）	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
5	為替レートと実体経済（2）	為替レートと経常収支、弾力性アプローチとその実証分析
6	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習：名目価格硬直性、短期と長期、短期のマクロ経済理論としての IS-LM モデル、総生産の決定、外生ショックと景気変動、マクロ経済政策の効果
7	開放経済分析の理論的枠組み（1）	マンデル・フレミングモデルの構築、それを用いる分析：変動相場制下の金融・財政政策の効果
8	開放経済分析の理論的枠組み（2）	マンデル・フレミングモデルを用いる分析：固定相場制下の金融・財政・為替政策の効果
9	マンデル・フレミングモデルから動学的開放マクロ経済学へ	動学的開放マクロ経済学の理論と実証
10	為替介入	為替介入の定義、実際、仕組み、理論・実証的効果、固定相場制維持介入と通貨危機
11	為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、世界各国の為替制度の現状、為替制度選択問題と「両極の解」の議論
12	通貨同盟と最適通貨圏	EU とユーロの概要、最適通貨圏の理論と実証分析
13	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
14	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
各自で毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。

【テキスト（教科書）】
1.『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年.
2.『MBA のための国際金融』小川英治・川崎健太郎、有斐閣 2007 年.

【参考書】
1.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック.
2.“International Finance and Open-Economy Macroeconomics,”by Giancarlo Gandolfo, Springer; 2nd Edition (2016/7/12)（ハードカバー）.
3.『新しい国際金融論– 理論・歴史・現実』勝悦子、有斐閣 2011 年.

【成績評価の方法と基準】
以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。
小テスト・宿題： 25%、中間レポート： 25 %、学期末レポート： 50 %
（博士後期課程の受講者には、期末に自らテーマを設定し研究を行い、その研究成果を提出することを求められる。）

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度を見ながら若干内容を変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】
コンピュータによるデータ分析の演習があるので、ノートパソコンをもつことが望ましい。

【その他の重要事項】
教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
国際マクロ経済学、国際金融論
＜研究テーマ＞
開放経済の理論と実証、経済政策の効果、東アジアの為替制度、アジア諸国のマクロ経済問題
＜主要研究業績＞
(1) "News Shocks and Japanese Macroeconomic Fluctuations," Japan and the World Economy, Vol.24, Issue 4, pp.292-304, 2012 (with Jun-Hyung Ko and Kensuke Miyazawa).
(2)「東アジアの貿易構造と為替制度選択問題に関する理論的考察」, 『アジア太平洋研究』第 39 巻, pp.149-162, 2014 年.
(3) "Oil Price Fluctuations and the Small Open Economies of Southeast Asia: An Analysis Using Vector Autoregression with Block Exogeneity," Journal of Asian Economics 54 (2018), pp.1 – 21 (with Hayato Nakata).

【Outline (in English)】
International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on fi nancial assets and currencies. In the PhD course we put more weight on understanding and applying basic theories and empirical methods in international finance.
To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and related journal papers) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading is based on the students' homework and (midterm & final) report performance.

ECN552C1 － 3

環境政策論ＤＡ

西澤　栄一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
　環境政策の経済分析－政策手法を中心に－

【到達目標】
①環境問題に関わる政策手法を理解する。
②環境政策の経済学的分析手法を身につけ、実証分析が行えるようになる。
③他国・地域の環境政策の手法について調べ、日本と対比する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
　環境政策の経済分析を主たるテーマとする。環境問題の経済的分析手法を解説し、具体的な政策手法について分析する。
　講義と輪読を併用するが、具体的な進め方については受講者と相談して決める。期末にはリポート提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・日本の環境問題の史的変遷	オリエンテーション、江戸時代から 20 世紀末までの歴史
第 2 回	地球温暖化対策	気候変動枠組み条約、京都議定書、パリ協定
第 3 回	環境問題の経済分析	余剰分析、厚生経済学の基本定理、市場の失敗、公共財、外部性
第 4 回	環境政策の手段①	政策手段の分類、直接規制、環境税
第 5 回	環境政策の手段②	排出取引、環境補助金、デポジット制度
第 6 回	環境政策の政治過程	政策過程論、政策ネットワーク
第 7 回	環境政策の実証研究	実証論文の講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
　下記の参考書や各回に紹介する参考文献を読むこと。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
　テキストは指定しない。配付資料により講義を行う。

【参考書】
①ハンレー・ショグレン・ホワイト (2021)『環境経済学入門』昭和堂
②大沼あゆみ・柘植隆宏 (2021)『環境経済学の第一歩』有斐閣
③栗山浩一・馬奈木俊介 (2020)『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣
④有村俊秀・片山東・松本茂編 (2017)『環境経済学のフロンティア』日本評論社

【成績評価の方法と基準】
　輪読およびリポートとその内容に関する発表（50 %）、平常点と授業への参加（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
　アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境政策論、農業経済学
＜研究テーマ＞欧米の環境政策・農業環境問題
＜主要研究業績＞
①『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017 年.

②『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014 年.
③「オランダの環境協同組合」清水純一・坂内久・茂野隆一編『復興から地域循環型社会の構築へ』農林統計出版，2013 年.

【Outline (in English)】
（Course outline）This course deals with economic analyses of environmental policies.
（Learning Objectives）The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.
（Learning activities outside of classroom）Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
（Grading Criteria /Policy）Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in-class contribution including presentation (50%).

ECN552C1 － 4

環境政策論 D B

西澤　栄一郎

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
環境の経済的評価手法

【到達目標】
①環境の経済的評価手法について、その概要を理解する。
②評価手法を論文が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
環境の経済的評価手法を解説する。理論的基礎となる、厚生経済学や費用便益分析を概説したあと、旅行費用法、ヘドニック法、CVM(仮想評価法)、コンジョイント分析などをとりあげる。各手法を解説したあと、その手法を用いた実証研究の論文を講読したうえで、実証研究に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・費用便益分析	オリエンテーション、環境の経済的評価の必要性
第 2 回	厚生経済学・環境の価値と評価手法の概要	経済的余剰の諸概念、支払意志額、受取補償額、環境の価値、表明選好、顕示選好
第 3 回	旅行費用法	家計生産モデル、弱補完性
第 4 回	ヘドニック法	ヘドニック価格関数、付け値関数
第 5 回	CVM（仮想評価法）	各種のバイアス、ランダム効用モデル
第 6 回	コンジョイント分析	選択型実験、多項ロジットモデル
第 7 回	回避支出法、ライフサイクルアセスメント	被害算定型影響評価手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
テキストは事前に読んでおくこと。配布する論文を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
栗山浩一・柘植隆宏・庄子康（2013）『初心者のための環境評価入門』勁草書房

【参考書】
①栗山浩一・庄子康編 (2005)『環境と観光の経済評価』勁草書房
②柘植隆宏・栗山浩一・三谷羊平編 (2011)『環境評価の最新テクニック』勁草書房

【成績評価の方法と基準】
実証論文についての、レジュメの作成と報告（25 %）、実証論文の提出（25 %）、平常点と授業への参加（50 %）

【学生の意見等からの気づき】
アンケートを実施していないため、該当なし

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞環境政策論、農業経済学
＜研究テーマ＞欧米の環境政策・農業環境問題
＜主要研究業績＞
①『環境政策史－なぜいま歴史から問うのか』（共編著）ミネルヴァ書房，2017 年.
②『農業環境政策の経済分析』（編著）日本評論社，2014 年.
③「オランダの環境協同組合」清水純一・坂内久・茂野隆一編『復興から地域循環型社会の構築へ』農林統計出版，2013 年.

【Outline (in English)】
(Course outline) This course deals with economic valuation methods for the environment.
(Learning Objectives) The aim of this course is to help students conduct an economic valuation of the environment.
(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the report on a journal article with empirical research (25%), term-end report on empirical research (25%) and in-class contribution including presentation(50%).

ECN553C1 － 3

経済政策ＤＡ

濱秋　純哉

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
この講義では，経済政策のうちとくに社会保障政策について制度と理論の両面から学ぶ。

【到達目標】
日本の社会保障政策についての理解を深め，自ら政策を評価できるようになること。社会保障政策に関する最先端の学術論文を読んで理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
社会保障制度の内容の説明と経済学に基づく理論的背景の解説を行う。教員が作成したパワーポイント資料に基づいて解説を行うが，授業の途中で受講者が考えたり，計算したりする時間も設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要の説明
第 2 回	社会保障とは何か	社会保障の目的と機能
第 3 回	社会保障とは何か	社会保障制度の歴史
第 4 回	社会保障とは何か	社会保障給付の増加と財政の悪化
第 5 回	社会保障の財源調達	社会保障財源の構造
第 6 回	社会保障の財源調達	社会保障財源の推移
第 7 回	所得格差と所得再分配	日本の所得格差
第 8 回	所得格差と所得再分配	所得格差の指標と再分配政策
第 9 回	公的年金の基礎理論	日本の公的年金制度の概要
第 10 回	公的年金の基礎理論	公的年金はなぜ強制加入なのか？
第 11 回	公的年金の基礎理論	モラル・ハザードを抑制する公的年金のデザイン
第 12 回	公的年金の基礎理論	年金の財政方式
第 13 回	公的年金の基礎理論	賦課方式から積立方式への移行の効果
第 14 回	まとめと期末試験	まとめと期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。本授業を履修するにあたり，ある程度の社会保障制度の知識を持っていた方がよいが，それを前提とはしない。なお，知識に不安がある者は，椋野美智子・田中耕太郎著『はじめての社会保障-福祉を学ぶ人へ』（各年版，有斐閣）の 1 章～4 章，7 章・8 章を事前に一読することを勧める。

【テキスト（教科書）】
小塩隆士，2013 年，『社会保障の経済学 [第 4 版]』日本評論社

【参考書】
島崎謙治，2020 年，『日本の医療: 制度と政策［増補改訂版］』東京大学出版会
堤修三，2018 年，『社会保険の政策原理』国際商業出版
小西砂千夫，2016 年，『社会保障の財政学』日本経済評論社

【成績評価の方法と基準】
期末試験（70%）と学術論文の内容報告（30%，博士学生が履修した場合には授業の一回分を学術論文の内容報告に充てる）

【学生の意見等からの気づき】
学生が受け身の学習にならないように，授業の途中で受講者自身が考えたり，計算したりする時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】
授業支援システムを通じて資料などのアップロードを行う。この際に，受講者に通知のメールが届くようにするので，授業支援システムに登録されているメールアドレスを通常使用しているものに更新しておくことを勧める。

【担当教員の専門分野等】
< 専門領域>
公共経済学・応用計量経済学
< 研究テーマ>
家計行動のミクロ計量分析
< 主要研究業績>
(1) Hamaaki, Junya, Masahiro Hori, Keiko Murata, 2019, "The intra-family division of bequests and bequest motives: Empirical evidence from a survey on Japanese households," Journal of Population Economics, Vol.32(1), pp.309 – 346.
(2) 上野綾子・濱秋純哉，2017 年，「2009 年度介護報酬改定が介護従事者の賃金，労働時間，離職率に与えた影響」，『医療経済研究』，Vol.29(1)，33 頁-57 頁。
(3) Hamaaki, Junya, 2013, "The pension system and household consumption and saving behavior," Public Policy Review, Vol.9(4), pp.687-716.
(4) Hamaaki, Junya, Yasushi Iwamoto, 2010, "A reappraisal of the incidence of employer contributions to social security in Japan," Japanese Economic Review, Vol.61(3), pp.427-441.

【Outline (in English)】
Course Outline
This course explains social security policy from both a theoretical and practical perspective.

Learning Objectives
At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics and to understand academic papers on a social security policy.

Learning Activities Outside of Classroom
Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy
Final grade will be decided based on the following:
Term-end examination: 70%, Presentation on the contents of an academic paper: 30%

ECN564C1 – 4

経済地理学ＤＢ

近藤　章夫

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
経済地理学の主要テーマに関する重要論文および展望論文の読解を通して、研究の到達点や今後の課題について議論する。

【到達目標】
経済地理学の最先端での研究を理解し、国際的に名声の高い学術誌に掲載された論文を読解できるようになることと、分析手法を理解し、研究領域のフロンティアを拡張していく能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
輪読文献リストを初回に配布する。また関連文献については適宜紹介する。参加者には輪読文献の報告を求める。毎回の出席と積極的な議論への参加を重視する。なお、履修者の関心および講義の進捗状況によっては、輪読文献を柔軟に変更する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	輪読文献の概要と講義の進め方
第 2 回	経済学と地理・空間（1）	主要論文の輪読
第 3 回	経済学と地理・空間（2）	主要論文の輪読
第 4 回	経済学と地理・空間（3）	主要論文の輪読
第 5 回	都市と集積（1）	主要論文の輪読
第 6 回	都市と集積（2）	主要論文の輪読
第 7 回	都市と集積（3）	主要論文の輪読
第 8 回	イノベーションとネットワーク（1）	主要論文の輪読
第 9 回	イノベーションとネットワーク（2）	主要論文の輪読
第 10 回	イノベーションとネットワーク（3）	主要論文の輪読
第 11 回	空間経済の理論と実証（1）	主要論文の輪読
第 12 回	空間経済の理論と実証（2）	主要論文の輪読
第 13 回	空間経済の理論と実証（3）	主要論文の輪読
第 14 回	経済地理学のフロンティアとまとめ	主要論文の輪読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。テキストおよび参考文献の読解および事後の課題への取り組みを求める。

【テキスト（教科書）】
なし。

【参考書】
Brakman, S., et al.（2019）『An Introduction to Geographical and Urban Economics: A Spiky World（3rd edition）』Cambridge University Press
Clark, G. L., et al.（2018）『The New Oxford Handbook of Economic Geography』Oxford University Press

Combes, P. P., et al.（2008）『Economic Geography: The Integration of Regions and Nations』Princeton University Press
Cooke, P. et al.（2013）『Handbook of Regional Innovation and Growth』Edward Elgar Pub
松原宏（2006）『経済地理学－立地・地域・都市の理論－』東京大学出版会
佐藤泰裕ほか（2011）『空間経済学』有斐閣
その他の参考文献は適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】
授業への参加が評価の中心となる。
平常点（出席および輪読文献の紹介等）80%、期末レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】
受講生の関心と理解度に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【学生が準備すべき機器他】
資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 経済地理学、都市・地域経済学、空間情報科学
＜主要研究業績＞
①共著（2015）『都市空間と産業集積の経済地理分析』日本評論社
②共著（2012）『産業立地と地域経済』放送大学教育振興会
③単著（2007）『立地戦略と空間的分業』古今書院

【Outline (in English)】
Through the reading of key and prospective papers on major topics in economic geography, we will discuss the achievements of their research and future challenges.
The goals of this course are to overview the cutting-edge researches of economic geography and to understand the analysis methods used in articles published in journals of international repute.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end report: 20%, in class contribution: 80%

ECN555C1 － 4

公共経済学ＤＢ

篠原　隆介

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では、メカニズム・デザイン理論 (Mechanism Design Theory) を学習する。メカニズム・デザイン理論とは、(1) 分権的な経済制度・システムを構築することによって、どのような経済社会状態を実現することができるのか、(2) ある社会的な目標を実現するためには、どのような制度を設計しなければならないのか、を研究する学問である。メカニズム・デザイン理論は、様々な分野において研究されており、例えば、古典的な純粋交換経済や公共財経済だけではなく、労使の契約問題、オークション理論、臓器移植や研修医のマッチングにおいても盛んに研究が行われている。誤解を恐れずに言うのならば、様々な社会環境において、より良い結果を実現するための、制度やルール設計を考察するのがメカニズム・デザイン理論であると言って良い。本講義では、完備情報下におけるメカニズムデザイン理論の基本事項を取り上げる。

【到達目標】
博士論文作成の礎となるよう、本講義において、メカニズムデザイン理論の基本事項を徹底的に理解すること。ゲーム理論の応用分析でもあるので、ミクロ経済学Ａ等で習得した技術を、博士課程における研究活動に活かせるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
担当教員が作成する講義資料を用いて講義を行う。ときに、受講生に意見を求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	初回ガイダンス	メカニズム・デザイン理論とは？
第 2 回	完備情報ゲーム理論 (1)	戦略形ゲーム、ナッシュ均衡、戦略間の支配関係、支配戦略
第 3 回	完備情報ゲーム理論 (2)	展開形ゲームと部分ゲーム完全均衡
第 4 回	完備情報下のメカニズムデザイン (1)	ソロモン王のジレンマと定式化
第 5 回	完備情報下のメカニズムデザイン (2)	ソロモン王のジレンマとナッシュ遂行、無支配ナッシュ遂行
第 6 回	完備情報下のメカニズムデザイン (3)	ソロモン王のジレンマと部分ゲーム完全遂行
第 7 回	完備情報下のメカニズムデザイン (4)	公共財の自発的寄付ゲームとフリーライダー
第 8 回	完備情報下のメカニズムデザイン (5)	公共財のパレート効率供給とサミュエルソン条件
第 9 回	完備情報下のメカニズムデザイン (6)	公共財供給と支配戦略遂行 (クラーク・メカニズム)
第 10 回	完備情報下のメカニズムデザイン (7)	公共財供給と支配戦略遂行 (グローブズ・メカニズム)
第 11 回	完備情報下のメカニズムデザイン (8)	離散量で供給可能な公共財とメカニズムデザイン
第 12 回	メカニズムと自発的参加 (1)	公共財供給メカニズムへの自発的参加問題
第 13 回	メカニズムと自発的参加 (2)	自発的参加問題への処方箋
第 14 回	講義総括	本講義の理解度の確認とより進んだ話題の提供

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
「ミクロ経済学 A」の学習内容を前提として講義を行う。ゲーム理論の基礎知識は、ギボンズ (2020) などで自主学習すること。本授業の準備・復習時間は、各２時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
担当講師作成の講義ノート (学習支援システムにて配布)

【参考書】
· Moore, J. (1992) "Implementation, contracts, and renegotiation in environments with complete information," in Advances in Economic Theory: Sixth World Congress, vol. I, edited by J.J. Laffont, Cambridge University Press.
· 坂井豊貴, 藤中裕二, 若山琢磨 (2008)『メカニズムデザイン―資源配分制度の設計とインセンティブ』ミネルヴァ書房
· 川越敏司 (2021)『基礎から学ぶマーケット・デザイン』有斐閣
· ロバート・ギボンズ (2020)『経済学のためのゲーム理論入門』(福岡正夫, 須田伸一訳) 岩波書店
· アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラーノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第 2 版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエーピー出版

【成績評価の方法と基準】
教場試験 (100 %) により評価する。博士課程における研究活動において必要な発展的な知識で構成された試験問題で、試験を行う。

【学生の意見等からの気づき】
特に無し。

【その他の重要事項】
公共経済学 A を未受講であっても、公共経済学 B は受講可能です。公共経済学は、A と B で、独立した話題を取り上げるので、継続的な履修は必要ありません。

【担当教員の専門分野等】
https://researchmap.jp/read0131683 を参照のこと。

【Outline (in English)】
In this lecture, we will study mechanism design theory. Mechanism design theory studies (1) what kind of economic and social conditions can be achieved by constructing decentralized economic systems and (2) what kind of institutions must be designed to achieve specific social goals. The theory has been studied in various fields, such as the classical pure exchange economy, public goods economy, labor-management contract, auction theory, organ transplantation, residency matching. In this lecture, students will learn the basic theory of mechanism design.

As a preparation for this class, students are strongly recommended to review the basics of game theory by using some intermediate-level textbook such as Gibbons. Students are required to prepare and review the content of this class for four hours per week. Evaluation will be based on the classroom examination (100%).

ECN556C1 – 3

社会保障論 D A

小黒　一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、年金制度に関連する主要論点を、後半は医療制度に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】
年金制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（1）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（2）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（3）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	年金制度（1）	ガイダンス
2	年金制度（2）	年金制度間の財政調整
3	年金制度（3）	財源調達の仕組みと問題点
4	年金制度（4）	給付水準と留意点
5	年金制度（5）	人口動態と賦課方式、所得代替率の定義と留意点、世代間格差
6	年金制度（6）	2004 年改正と課題
7	年金制度（7）	雇用形態の多様化と公的年金
8	年金制度（8）	厚生年金と共済年金の一元化
9	年金制度（9）	スウェーデンの年金制度
10	年金制度（10）	カナダの年金制度
11	年金制度（11）	イギリスの年金制度
12	年金制度（12）	社会保障・税の一体改革、2016 年改正
13	年金制度（13）	2019 年財政検証
14	年金制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
· 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
· 吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016

【参考書】
① Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
②西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社, 2008
③吉原健二・畑満『日本公的年金制度史: 戦後七〇年・皆年金半世紀』中央法規出版, 2016
④小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020

【成績評価の方法と基準】
授業内での貢献（70 %）+ レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoom を利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%、in class contribution: 70%).

ECN556C1 － 4

社会保障論ＤＢ

小黒　一正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
急速に進む少子高齢化や人口減少に伴い、年金や医療などの社会保障制度は様々な課題に直面している。そこで、本講義の前半では、年金制度に関連する主要論点を、後半は医療制度に関する主要論点をテーマに取り上げる。

【到達目標】
医療制度に関連する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。博士後期課程の研究に資するよう、より高い水準の考察や分析ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
（１）前半は、年金制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（２）後半は、医療制度に関する主要論点や研究テーマ、理論モデルや分析手法を理解する。
（３）必要に応じて、参加者に、参考文献の報告を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	医療制度（１）	ガイダンス
2	医療制度（２）	日本の医療制度の沿革、医療制度の確立・拡張期
3	医療制度（３）	医療制度の改革期
4	医療制度（４）	医療制度・政策の国際比較①（ドイツの医療制度改革）
5	医療制度（５）	医療制度・政策の国際比較②（アメリカの医療制度改革）
6	医療制度（６）	医療制度・政策の国際比較③（スウェーデンの医療制度改革）
7	医療制度（７）	医療保険制度の基本問題
8	医療制度（８）	各医療保険制度の構造と政策課題
9	医療制度（９）	医療供給制度の構造と改革の方向性
10	医療制度（10）	医療供給の改革手法
11	医療制度（11）	薬価制度・高額薬剤の現状と課題
12	医療制度（12）	医薬品の現状と改題
13	医療制度（13）	薬価制度改革と今後の方向性
14	医療制度（14）	年金改革の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
参考文献（テキストや主要論文）を事前に読んでおくことが望ましい。また報告にあたっては、当該文献のみでなく、関連文献にも目を通しておくこと。準備・復習時間は、各 2 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】
参加者と相談して決めるが、現在のところ、以下を予定している。
・島崎謙治『日本の医療: 制度と政策』東京大学出版会, 2020
・小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【参考書】
① Persson and Tabellini, Political Economics, MIT Press, 2002
②島崎謙治『日本の医療: 制度と政策』東京大学出版会, 2020
③小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社, 2020
④小黒一正・菅原琢磨編『薬価の経済学』日本経済新聞出版社, 2018

【成績評価の方法と基準】
授業内での貢献（70 %）＋レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【その他の重要事項】
基本は対面だが、感染が再拡大した場合、Zoom を利用したオンラインで授業を行うことも検討する。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your overall grade in the class will be decided based on the following (Short reports : 30%、in class contribution: 70%).

ECN574C1 － 3

労働経済学ＤＡ

酒井　正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
ミクロ経済理論を応用することで，労働市場における諸現象を解釈すると同時に，労働市場に関する統計資料を読み解く力を養うと同時に，労働経済学における高度な分析をおこなう下地とします．

【到達目標】
学生は，この講義を通して，基本的な労働供給・労働需要・市場均衡の理論を理解します．更に，人的資本理論や補償賃金格差といった理論についても学習し，働き方を巡る様々な現象について，何が解っており何が解っていないのかを把握したうえで，この分野の発展に貢献しうる研究をおこなうための実証上の作業仮説を立てられるようになることを最終目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，対面授業形式でおこないます．授業内で演習をおこない，学生の理解度を把握します．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働経済学とは
第 2 回	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
第 3 回	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
第 4 回	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
第 5 回	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
第 6 回	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
第 7 回	労働市場均衡	競争均衡，買手独占
第 8 回	実証分析の方法（1）	回帰分析
第 9 回	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
第 10 回	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
第 11 回	人的資本投資（1）	教育投資モデル，シグナリング・モデル
第 12 回	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特殊的訓練
第 13 回	賃金格差・所得格差	所得格差の概観，グループ間賃金格差
第 14 回	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義で使用した資料をよく復習することが求められます．また，授業内で示された文献にも，極力，目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な時間は，4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
Borjas, G『Labor Economics 8th Edition』（McGraw Hill Higher Education, 2019 年）
川口大司『労働経済学 理論と実証をつなぐ』（有斐閣，2017 年）

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．研究者の養成という目標に沿って評価をおこないます．

【学生の意見等からの気づき】
学生の理解度や学生が関心のあるトピックを把握するように努めたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 労働経済学，社会保障論
＜研究テーマ＞ 就業と社会保険
＜主要研究業績＞
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
As an applied micro-economics, this course deals with theories of labor supply, labor demand and labor market equilibrium. It also deals topics such as human capital investment and compensation wage differentials.
The goal of this course is to learn how to analyze phenomenon in labor market with data.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based only on term paper (100%).

ECN574C1 － 4

労働経済学ＤＢ

酒井　正

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
労働経済学 A で学んだことを踏まえ，労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説します．特に，労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討します．（取り上げるトピックの例．「介護離職」，「長時間労働」，「待機児童」等）
また，コロナ禍における労働市場のセーフティーネットについても議論します．

【到達目標】
学生が，働き方を巡る「論点」を知り，それを経済学的に考えることを通じて，労働問題や公共政策の議論に真の意味で貢献しうる高度な実証研究をおこなえるようになることを最終目標とします．

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
この授業は，対面授業形式でおこないます．授業内で，文献に基づいた報告をおこなってもらう場合があります．

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働経済学及び実証分析の基本概念の復習
第 2 回	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
第 3 回	人事の経済学（2）	相対評価，後払い賃金
第 4 回	労働市場における差別	差別の経済理論，男女間賃金格差
第 5 回	失業（1）	日本の失業の概観
第 6 回	失業（2）	失業を説明する理論
第 7 回	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析，労働災害の現状
第 8 回	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
第 9 回	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因，仕事の二極化
第 10 回	若年就業	若年就業の現状と「烙印効果」
第 11 回	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因，介護離職問題
第 12 回	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
第 13 回	両立支援制度	女性の就業と保育サービス・育児休業
第 14 回	社会保険料事業主負担の帰着問題	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
学生は，講義資料をよく復習する必要があります．また，指示された文献（学術論文等）についても目を通すことが望まれます．本講義の準備・復習に必要な学習時間は，4 時間を標準とします．

【テキスト（教科書）】
特になし．

【参考書】
酒井正『日本のセーフティーネット格差労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
Boeri, T., and J. van Ours (2021) The Economics of Imperfect Labor Markets 3rd Edition, Princeton Univ Pr

【成績評価の方法と基準】
期末レポート（100%）によって評価する予定です．研究者の養成という目標に沿って評価をおこないます．

【学生の意見等からの気づき】
論文等の執筆の役に立つように，実証分析で何が解っており，何が解っていないかを明らかにすることを心がけたいと思います．

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞ 労働経済学，社会保障論
＜研究テーマ＞ 就業と社会保険
＜主要研究業績＞
"Does a Wife's Employment Affect her Husband's Retirement Decision? Evidence from Japanese Longitudinal Data," (共著) Journal of International Economic Studies 35: 45-52, 2021.
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2), pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
Based on the theory learned in Labor Economics A, we discuss various topics in depth, especially focusing on labor market policies.
The goal of this course is to learn how to analyze phenomenon in labor market with data.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
Grading will be decided based only on term paper (100%).

ECN573C1 － 4

応用計量経済学ＤＢ

明城　聡

備考（履修条件等）：（2021 年度以降入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法、消費者行動の分析方法を解説するとともに政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

【到達目標】
消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。博士後期課程の学生は理論モデルを学ぶだけでなく、それを論文執筆に生かせるような計量分析能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージ R による演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業についての説明
第 2 回	企業の生産性の推定 (1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第 3 回	企業の生産性の推定 (2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第 4 回	企業の生産性の推定 (3)	・投資ショックによる内生性の識別
第 5 回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第 6 回	演習 (1)	・情報処理室にて演習
第 7 回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第 8 回	差別化された財市場 (1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第 9 回	差別化された財市場 (2)	・離散選択モデル (1)
第 10 回	差別化された財市場 (3)	・離散選択モデル (2)
第 11 回	演習 (2)	・情報処理室にて演習
第 12 回	動学モデル (1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第 13 回	動学モデル (2)	・Nested Fixed Point アプローチと Two Step 法 ・離散選択モデルによる動学推定
第 14 回	動学モデル (3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
【産業組織論】
(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.
(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.
(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.
(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.
【ミクロ経済学】
(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992
(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008 年
【計量経済学】
(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.
(2) 浅野晢、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.
(3) A. C. Cameron and P. K. Trivedi, Microeconometrics Using Stata, Stata Press, 2009.

【成績評価の方法と基準】
課題レポートで評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered.

ECN573C1 － 4

ミクロ計量分析ＤＢ

明城　聡

備考（履修条件等）：（2020 年度以前入学者用）

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
本講義では経済学分野の実証分析で用いられているミクロ計量手法についてトピックを選んで解説する。近年の実証分析で多く利用されている構造推定アプローチについて焦点を当てた議論をする。特に企業の生産性の推定方法、消費者行動の分析方法を解説するとともに政策評価に必要な技術を習得することを目標とする。

【到達目標】
消費者や企業のミクロデータを利用して実証分析を行う際に利用可能な構造推定の手法を学習する。特に生産関数の推定（内生問題への対応、規模の経済および学習効果の推定）、同質財の需要と価格付け、差別化された財の需要と価格付け（垂直的差別化モデル、離散選択モデル）、および動学的意思決定モデルを利用した投資行動などのトピックを扱う。博士後期課程の学生は理論モデルを学ぶだけでなく、それを論文執筆に生かせるような計量分析能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
講義では実証分析を行う際の問題点とそれを克服するための分析手法について解説する。また統計パッケージ R による演習を行って理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	・授業についての説明
第 2 回	企業の生産性の推定 (1)	・生産関数の推定 ・内生性の問題
第 3 回	企業の生産性の推定 (2)	・パネルデータの利用 ・誤差項の系列相関
第 4 回	企業の生産性の推定 (3)	・投資ショックによる内生性の識別
第 5 回	学習効果と規模の経済	・費用関数の推定 ・学習効果と規模の経済の識別
第 6 回	演習 (1)	・情報処理室にて演習
第 7 回	同質財市場	・コンダクトパラメータの識別問題 ・小麦輸送市場の分析
第 8 回	差別化された財市場 (1)	・垂直的差別化モデルによる自動車市場の分析
第 9 回	差別化された財市場 (2)	・離散選択モデル (1)
第 10 回	差別化された財市場 (3)	・離散選択モデル (2)
第 11 回	演習 (2)	・情報処理室にて演習
第 12 回	動学モデル (1)	・動学モデルについて ・状態遷移とマルコフ完全均衡 ・価値関数とベルマン方程式
第 13 回	動学モデル (2)	・Nested Fixed Point アプローチと Two Step 法 ・離散選択モデルによる動学推定
第 14 回	動学モデル (3)	・シミュレーションによる価値関数の推定 ・米国生コンクリート市場の分析 ・米国自動車市場の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
授業担当者が作成した講義資料を授業で配布する。

【参考書】
【産業組織論】
(1) D. Carlton and J. Perloff, Modern Industrial Organization, Harper-Collins, 2005.
(2) R. Schmalensee and R. Willig, eds., Handbook of Industrial Organization vol.1, North-Holland, 1989.
(3) M. Armstrong and R. H. Porter ed., Handbook of Industrial Organization vol.3, North-Holland, 2007.
(4) J. Tirole, the Theory of Industrial Organization, MIT, 1998.
【ミクロ経済学】
(1) Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ed., Norton, 1992
(2) 奥野正寛『ミクロ経済学』、東大出版会、2008 年
【計量経済学】
(1) J. M. Wooldridge, Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data, MIT, 2002.
(2) 浅野晢、中村二郎『計量経済学・第二版』、有斐閣、2009 年
・K. E. Train, Discrete Choice Methods with Simulation, 2nd ed., Cambridge, 2009.
(3) A. C. Cameron and P. K. Trivedi, Microeconometrics Using Stata, Stata Press, 2009.

【成績評価の方法と基準】
課題レポートで評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
実証産業組織論、応用統計学
＜研究テーマ＞
構造推定を用いた市場分析
＜主要研究業績＞
1. On Asymptotic Properties of the Parameters of Differentiated Product Demand and Supply Systems When Demographically-Categorized Purchasing Pattern Data are Available, International Economic Review, Vol.53, no.3, pp.887-937, 2012.
2. Effects of Consumer Subsidies for Renewable Energy on Industry Growth and Social Welfare: The Case of Solar Photovoltaic Systems in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, vol.48, pp.55-67, 2018.

【Outline (in English)】
This course provides advanced econometric tools to analyze economic micro data. Especially, structural estimation approaches used in recent empirical industrial economics are covered.

ECN701C1 － 1

経済学演習Ⅲ A

酒井　正

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第 1 論文の第 1 稿の執筆を開始する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究テーマの確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第 2 回	文献サーベイと研究報告①	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 3 回	文献サーベイと研究報告②	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 4 回	文献サーベイと研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	文献サーベイと研究報告④	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 6 回	研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 7 回	研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 8 回	研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 9 回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第 10 回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第 11 回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第 14 回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士 2 年次の講義科目（専攻分野コースワーク 2 年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Participants will start writing the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN701C1 － 2

経済学演習Ⅲ B

酒井　正

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第 1 論文の第 1 稿を年度末までに完成させるよう努力する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第 2 回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 3 回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 4 回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 5 回	文献サーベイと研究報告④	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 6 回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第 7 回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第 8 回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第 9 回	論文執筆指導④	研究を論文にまとめる
第 10 回	論文執筆指導⑤	研究を論文にまとめる
第 11 回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指摘に基づき、論文の改訂を進める
第 14 回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士 2 年次の講義科目（専攻分野コースワーク 2 年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会，2020 年）
"Education and Marriage Decisions of Japanese Women and the Role of the Equal Employment Opportunity Act"（共著）Journal of Human Capital 13(2) pp. 260-292, 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a first treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1 － 1

経済学演習Ⅳ A

池上　宗信

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第 2 論文の第 1 稿を春学期末までに完成させるよう努力する。また、第 1 論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめ、研究テーマを確認する
第 2 回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 3 回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 4 回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 5 回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第 6 回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第 7 回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第 8 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第 9 回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第 10 回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第 11 回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第 14 回	まとめ	春学期の研究成果をまとめ、夏期休暇中の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士 2 年次の講義科目（専攻分野コースワーク 2 年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
① “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries? ” *Journal of Risk and Insurance*. Volume 88, Issue 2, pp. 293-324. 2021.
② “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
③ “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
(Course outline)
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
(Learning Objectives)
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose the doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a second treatise which composes the doctoral dissertation by the end of spring semester. Furthermore, participants will revise the first treatise as well.
(Learning activities outside of classroom)
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master's degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN702C1 － 2

経済学演習Ⅳ B

池上　宗信

備考（履修条件等）：2021 年度以降入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士論文執筆のために必要となる高度な知識とスキルを修得する。並行して、博士論文を構成する第 3 論文の第 1 稿を年度末までに完成させるよう努力する。また、第 1, 2 論文の改訂も行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今までの研究成果のまとめ	夏期休暇中の研究成果を報告する
第 2 回	文献サーベイと研究報告①	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 3 回	文献サーベイと研究報告②	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 4 回	文献サーベイと研究報告③	文献サーベイに基づき自らの研究を進める
第 5 回	論文執筆指導①	研究を論文にまとめる
第 6 回	論文執筆指導②	研究を論文にまとめる
第 7 回	論文執筆指導③	研究を論文にまとめる
第 8 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基く指導
第 9 回	論文執筆指導⑤	執筆した論文に基く指導
第 10 回	論文執筆指導⑥	執筆した論文に基く指導
第 11 回	博士ワークショップ発表への準備①	ワークショップで報告する内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ発表への準備②	スライドの作成やプレゼンの練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返りと論文テーマ・分析の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める
第 14 回	まとめ	今年度の研究成果をまとめ、来年度の研究計画を立てる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。補強したい専門知識に関しては、修士 2 年次の講義科目（専攻分野コースワーク 2 年次科目）を履修し、自ら補強する。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %（研究内容や研究成果も含む。）

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
開発ミクロ経済学
＜研究テーマ＞
家計の異時点間の意思決定と貧困動学、東アフリカ乾燥地におけるインデックス型家畜保険
＜主要研究業績＞
① “Can Insurance Alter Poverty Dynamics and Reduce the Cost of Social Protection in Developing Countries? ” *Journal of Risk and Insurance*. Volume 88, Issue 2, pp. 293-324. 2021.
② “Does Index Insurance Crowd In or Crowd Out Informal Risk Sharing? Evidence from Rural Ethiopia.” *American Journal of Agricultural Economics*, Volume 101, Issue 3, pp. 672-691. 2019.
③ “Poverty Traps and the Social Protection Paradox” in C. B. Barrett, M. R. Carter and J.-P. Chavas eds. *The Economics of Poverty Traps*, chapter 6. pp.223-256. University of Chicago Press. 2019.

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will acquire advanced knowledge and skills necessary for a doctoral dissertation. Participants will make an effort to complete the first draft of a third treatise which composes the doctoral dissertation by the end of the school year. Furthermore, participants will revise the first and the second treatise as well.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing work for their doctoral dissertation. As for the specialized knowledge that they want to reinforce, they will take lecture courses in the second year of their master’s degree (second year courses of coursework in their major field) and reinforce it by themselves
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score (including the content and results of the research)

ECN703C1 － 1

論文指導ＶＡ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第 5 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 6 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 7 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN707C1 － 1

博士ワークショップⅢ A

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 1 回目のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9 月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ A では、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第 5 回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第 6 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 7 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1 － 2

論文指導ＶＢ

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 7 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN707C1 － 2

博士ワークショップⅢ B

鈴木　豊

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 2 回のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ B では、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第 5 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 6 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第 7 回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001407/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1 － 1

論文指導ＶＡ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第 5 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 6 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 7 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.

（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN707C1 － 1

博士ワークショップⅢ A

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 1 回目のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9 月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ A では、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第 5 回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第 6 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 7 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1 － 2

論文指導ＶＢ

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 7 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）

Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN707C1 － 2

博士ワークショップⅢ B

田村　晶子

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 2 回のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ B では、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第 5 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 6 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第 7 回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/15/0001448/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1 － 1

論文指導ＶＡ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
課程博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文として、結論をまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
研究分野の文献サーベイやその分析、文献の輪読や報告を通じて、高度で先端的な専門知識を享受する。学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、また指導教員の研究プロジェクトへの参加や学会報告などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	いままでの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博士論文を構成する研究成果を報告
第 5 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 6 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 7 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞

Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete writing at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN707C1 － 1

博士ワークショップⅢ A

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 1 回目のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
9 月末の提出に向けて、博士論文の最終確認を行うとともに、学会での研究発表やレフェリー付き学術誌への論文掲載につながる質の高い研究論文の執筆と報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ A では、博士論文の提出に向けた最終的な報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備①	ワークショップの発表準備
第 5 回	ワークシップ発表準備②	ワークショップ報告リハーサル
第 6 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 7 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップでの中間報告の事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
（Course outline）
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
（Learning Objectives）
This course will have students prepared for the first workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, for submission at the end of September, participants will do a final check on the dissertation and write and report a high quality treatise which leads to article publications in a refereed journal or giving research presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation.

ECN703C1 － 2

論文指導ＶＢ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
研究分野に関連する文献のサーチ、サーベイや、そのきめ細かい掘り下げと分析作業、文献の輪読や報告などを通じて、高度で先端的な専門知識を教授する。同時に、博士論文を構成する学術論文の執筆を個別指導の中で進める。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめ、提出する。提出後は、審査委員会からの指導により改訂を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文の最終確認を行い、提出後は、審査委員会からの助言を受け、論文を改訂する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 7 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会報告、論文の成果等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
（Course outline）
The course aims to acquire advanced expert knowledge through a search and survey of literature related to the research field.
（Learning Objectives）
Participants are expected to have a detailed analysis work through reading and reporting reference literature. Furthermore, participants will proceed writing academic articles which compose a doctoral dissertation in one-on-one instruction. Moreover, in this course participants will complete and submit the doctoral dissertation. After submitting the dissertation, participants will revise the dissertation by the instruction of the review committee.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the normal score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN707C1 － 2

博士ワークショップⅢ B

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2017～2020 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士ワークショップは、博士後期課程の学生が、自分の研究成果や研究経過・計画を報告し、複数の教員や他の大学院生から、助言や批判、刺激を受けながら、博士論文研究を進めていく機会である。この授業では、博士後期課程 3 年次第 2 回のワークショップの準備、および、反省をあわせて行う。

【到達目標】
提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。博士論文公聴会の最終リハーサルとして、ワークショップ報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士ワークショップでは、論文の専門性、発展性、完成度などが求められる。そのため、博士ワークショップ報告にあたっては、事前に指名討論者の教員に報告論文の資料を提出し、詳細なコメントを受けた上で、リプライを行う。博士ワークショップⅢ B では、公聴会に向けた博士論文の最終段階の報告準備と、その反省を行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワークショップ報告テーマ	ワークショップ報告テーマの決定
第 2 回	ワークショップ論文執筆準備①	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 3 回	ワークショップ論文執筆準備②	ワークショップ報告論文の執筆準備
第 4 回	ワークショップ発表準備	ワークショップ報告リハーサル
第 5 回	博士ワークショップ	ワークショップでの報告と討論へのリプライ
第 6 回	ワークショップの反省	ワークショップでのコメントの整理と反省
第 7 回	ワークショップ報告論文の修正	ワークショップでのコメントをもとに報告論文を修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。また、ワークショップの事前準備と、事後の論点整理および論文改善へのフィードバック作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
特になし

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。博士ワークショップ発表までの研究の積み重ねとその研究成果・発表成果を総合的に評価する。また、ワークショップにおいて、2 名の指名討論者に対するリプライを行い、そのリプライ内容も評価に加える。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
(Course outline)
The Doctoral Workshop is intended for doctoral students to improve their doctoral dissertation in accordance with comments and/or suggestions from their supervisors and other participants on the research plan, progress, and results.
(Learning Objectives)
This course will have students prepared for the second workshop of a third-year doctoral course and a review of the workshop afterwards. Furthermore, participants will revise the submitted dissertation by the instruction of a review committee, and complete the doctoral dissertation. Participants will contribute the academic articles which compose the doctoral dissertation to academic journals or give presentations at a conference. As a last rehearsal of the doctoral dissertation defense, participants will have a workshop report.
(Learning activities outside of classroom)
Students will conduct daily research and writing for their doctoral dissertations. In addition, students will prepare in advance for the interim report at the workshop, sort out the issues afterwards, and provide feedback for improving the dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the normal score. The accumulation of research up to the presentation of the doctoral workshop and the results of that research and presentation will be evaluated comprehensively. In addition, the reply to the two nominated discussants at the workshop will be added to the evaluation

ECN703C1 － 1

論文指導ＶＡ

小黒　一正

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第 6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
(Learning activities outside of classroom)
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 2

論文指導ＶＢ

小黒　一正

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
財政学、公共経済学
＜研究テーマ＞
人口動態と政治経済の相互作用や世代間問題の分析
＜主要研究業績＞
①)Child Benefit and Fiscal Burden in the Endogenous Fertility Setting, Economic Modelling, 44, 252-265, 2015
② Impact of Deflation on Real Interest rate of Government Bonds, The Economic Review, 64(2), 147-159, 2013
③ Demographic Change, Intergenerational Altruism, and Fiscal Policy - A Political Economy Approach -, Studies in Applied Economics, 6, 1-15, 2013
④ Ability transmission, endogenous fertility, and educational subsidy, Applied Economics, 45(17), 2469-2479, 2012

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
(Learning activities outside of classroom)
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 1

論文指導ＶＡ

胥　鵬

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第 6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
(Learning activities outside of classroom)
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 2

論文指導ＶＢ

胥　鵬

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者
実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞　企業金融（コーポレート・ファイナンス）、企業統治（コーポレート・ガバナンス）、法と経済学、不動産価格、中国経済
＜研究テーマ＞　ＭＢＯ、敵対的買収案と株式議決権行使、ホットマネー（熱銭）と中国の不動産価格
＜主要研究業績＞
『日本のコーポレートファイナンス－サーベイデータによる分析』花枝英樹, 芹田敏夫, 胥鵬, 佐々木隆文, 鈴木健嗣, 佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年
Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng　International Review of Finance 2020 年
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
(Learning activities outside of classroom)
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 1

論文指導ＶＡ

武田　浩一

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第 6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/17/0001629/profile.html

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 2

論文指導ＶＢ

武田　浩一

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
https://kenkyu-web.hosei.ac.jp/Profiles/17/0001629/profile.html

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
(Learning activities outside of classroom)
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 1

論文指導ＶＡ

馬場　敏幸

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第 6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【地域経済】
新興工業国の経済発展
自動車産業
サポーティングインダストリー

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 2

論文指導ＶＢ

馬場　敏幸

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【地域経済】
新興工業国の経済発展
自動車産業
サポーティングインダストリー

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
(Learning activities outside of classroom)
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 1

論文指導ＶＡ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
課程博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させる。

【到達目標】
博士論文を構成する少なくとも 3 本の学術論文を完成させる。博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
学生が自分の執筆論文に対して指導教員から助言を受けて議論することを通じて、博士論文を完成させる。博士論文の研究から、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	研究成果の確認	今までの研究成果をまとめる
第 2 回	研究報告①	博士論文を構成する研究成果を報告
第 3 回	研究報告②	博士論文を構成する研究成果を報告
第 4 回	研究報告③	博論執筆に必要となる高度な知識とスキルを修得する
第 5 回	研究報告④	博士論文を構成する研究成果を報告
第 6 回	研究報告⑤	博士論文を構成する研究成果を報告
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基づく再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
(Course outline)
In this course participants will complete his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
(Learning Objectives)
Participants will complete at least three treatises which compose a doctoral dissertation. Participants will complete the conclusion of the treatises as one doctoral dissertation.
(Learning activities outside of classroom)
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
(Grading Criteria /Policy)
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

ECN703C1 － 2

論文指導ＶＢ

宮﨑　憲治

備考（履修条件等）：2014～2016 年度入学者

実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
博士論文を、個別指導やワークショップ、学会報告などを通じて、完成させ提出する。博士論文提出後は、提出した博士論文の改善を行う。

【到達目標】
博士課程で書いてきた学術論文を、1 本の課程博士論文としてまとめる。提出した博士論文を、審査委員会からの指導により改訂し、博士論文を完成させる。博士論文の研究を学術雑誌に投稿、または、学会報告を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】
博士論文を完成させ、提出後は、審査委員会からの助言を受けて、論文を改善する。博士論文の研究のなかから、学術雑誌への投稿や学会報告などを行う準備をする。また、指導教員の研究プロジェクトへの参加などを通じて、研究者としての素養を磨いてゆく。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	博士論文の確認	博士論文の提出前の確認を行う
第 2 回	博士論文の最終確認	博士論文の提出前の最終確認を行う
第 3 回	博士論文の検討	博士論文の提出後、さらに改善を行う
第 4 回	研究報告①	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 5 回	研究報告②	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 6 回	研究報告③	研究論文の学術雑誌投稿、学会報告の準備
第 7 回	論文執筆指導①	執筆した論文に基づく指導
第 8 回	論文執筆指導②	執筆した論文に基づく指導
第 9 回	論文執筆指導③	執筆した論文に基づく指導
第 10 回	論文執筆指導④	執筆した論文に基づく指導
第 11 回	博士ワークショップ準備①	報告内容の検討
第 12 回	博士ワークショップ準備②	スライドの作成や報告練習など
第 13 回	博士ワークショップの振り返り	博士ワークショップでの指摘に基く再検討
第 14 回	論文の再検討	これまでの指導に基づき、論文の改訂を進める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
博士論文作成のための日常的な研究の積み重ねと執筆作業を行う。

【テキスト（教科書）】
特になし。

【参考書】
特になし。

【成績評価の方法と基準】
平常点 100 %。日頃の研究姿勢、研究の進展、学会やワークショップでの発表、論文の成果、等を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】
特になし。

【担当教員の専門分野等】
＜専門領域＞
マクロ経済学・計量経済学
＜研究テーマ＞
経済政策・日本経済
＜主要研究業績＞
Gunji, H., and K. Miyazaki (2011), Estimates of average marginal tax rates on factor incomes in Japan, Journal of the Japanese and International Economies, Vol. 25 (2), pp. 81-106.（査読有 doi:10.1016/j.jjie.2011.02.003）

【Outline (in English)】
（Course outline）
In this course participants will complete and submit his/her doctoral dissertation through one-on-one instructions and workshops.
（Learning Objectives）
After submitting the dissertation, participants will make improvements on the submitted dissertation. Furthermore, in this course participants will complete a Ph. D. dissertation by putting together the academic articles which he/she has written in the doctor's course. Participants will revise the submitted dissertation by the instructions from a review committee, and complete the Ph. D. dissertation. Participants will contribute the academic articles of the doctoral dissertation to academic journals and/or make presentations at a conference.
（Learning activities outside of classroom）
Conduct daily research and writing tasks for the preparation of the doctoral dissertation.
（Grading Criteria /Policy）
100% of the usual performance score. Evaluation will be based on a comprehensive consideration of daily research attitude, progress in research, conference reports, results of papers, etc.

法政大学
HOSEI University